

14. 21-650
21
050
- 1200501162963



始



14.24-650

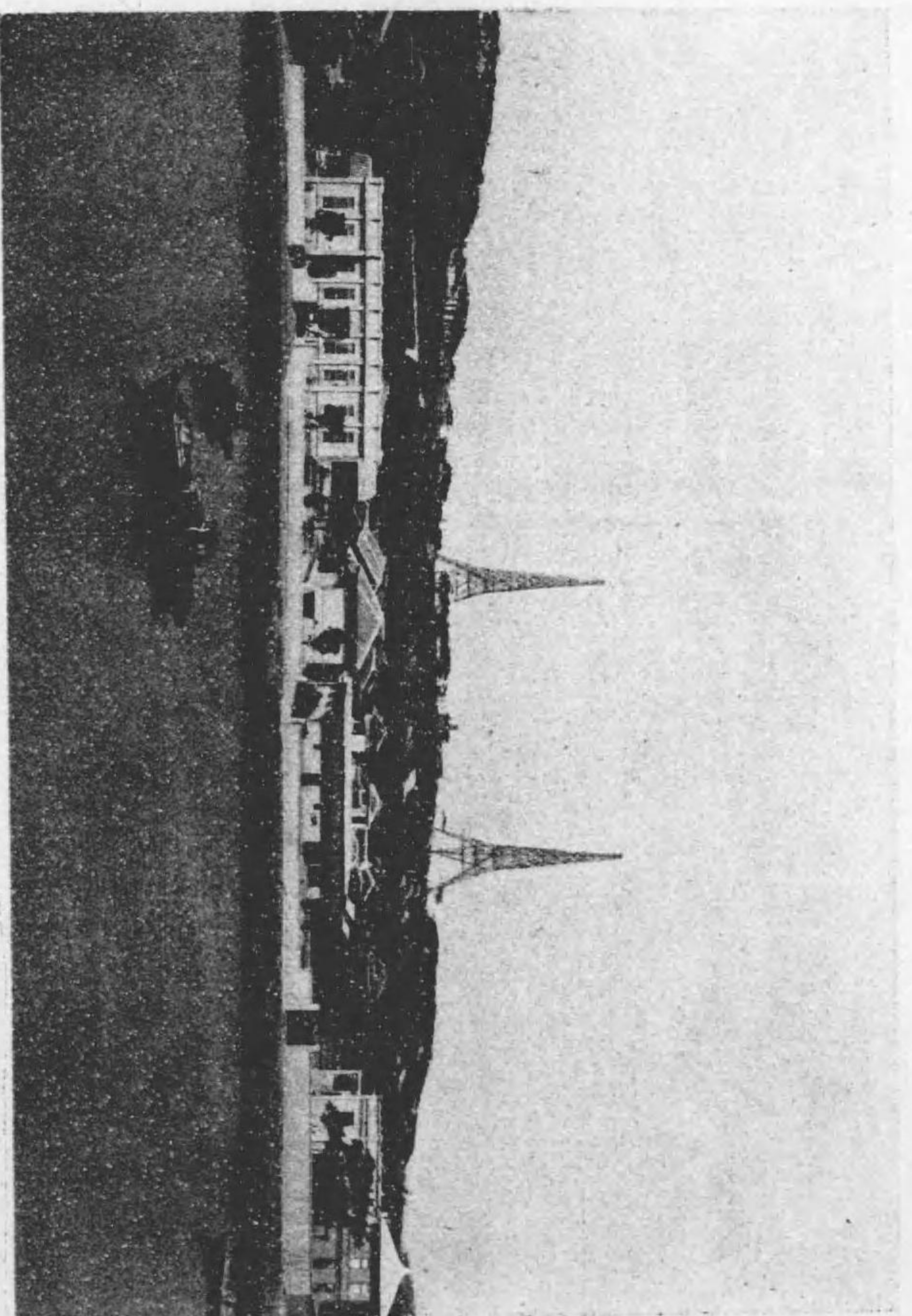


1200501162963

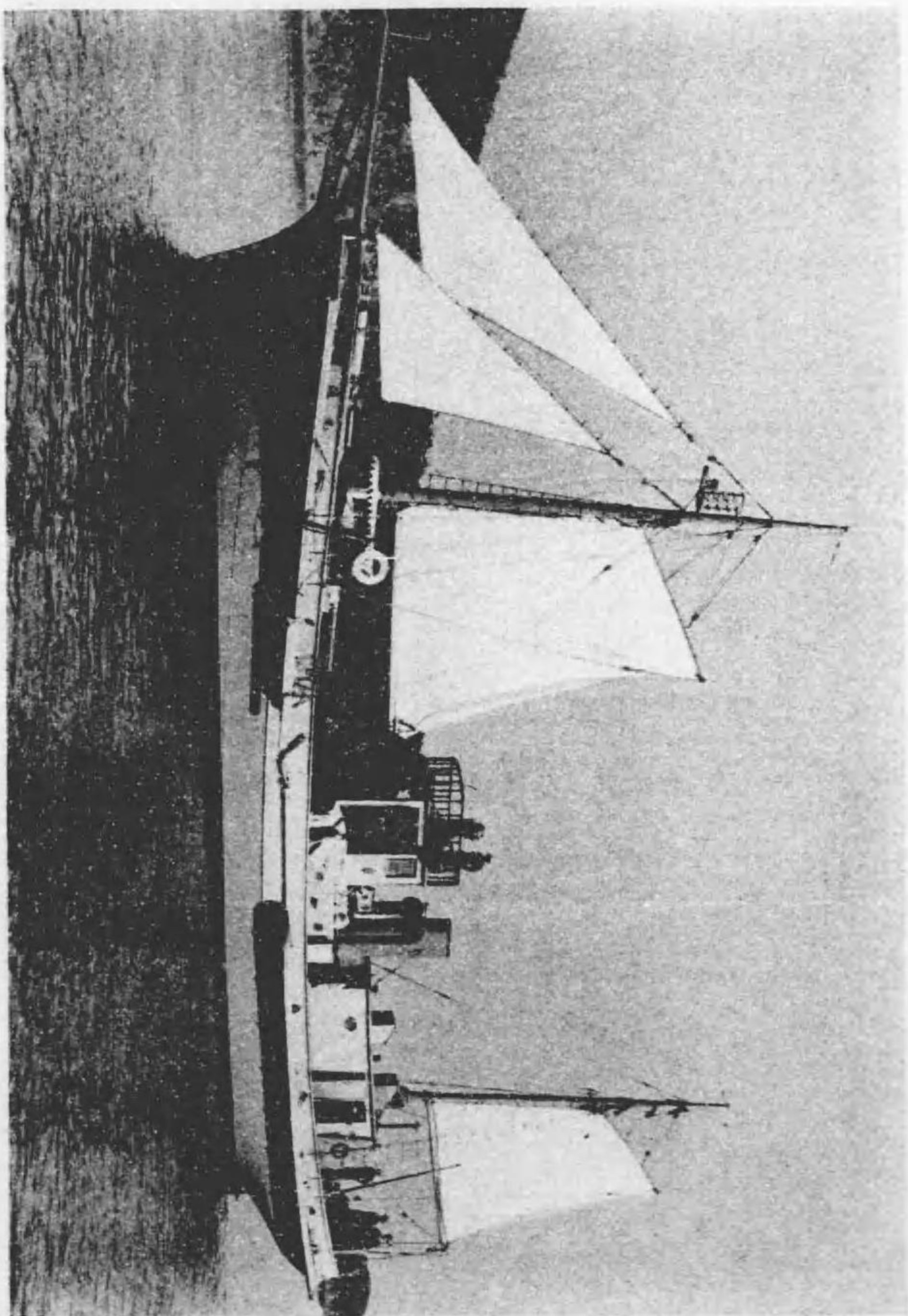
自大正十五年
至昭和三年度

沖繩縣水產試驗場事業報告

沖繩縣水產試驗場



沖繩縣立水產試驗場



指南船南丸

緒言

14.24-650

本縣ノ水産業ハ其ノ地勢ト由來トニ鑑ミテ寔ニ重要ナル産業タルハ言ヲ俟タザル所ナリ。而シテ之ヲ他府縣ニ比スレバ發達ノ程度遠ク後レタルヤノ感アルモ大正十五年度ヨリ産業助成費實施セラレ最近事業ノ經營方法等改善サレ其ノ進歩稍顯著ナルモノアリ、亦本場ノ試験設備モ漸ク備ハリ逐年水産ニ關スル根本的研究調査ノ歩ヲ進メ得ラレルニ至レリ。

本書ハ自大正十五年四月至昭和四年三月三箇年間ノ事業報告ヲ蒐録シテ小冊子トナセルモノナルガ設備新營早々ノコトニシテ不備ノ點ナキヲ保シ難キモ當業者ノ參考トナリ斯界ニ裨益スル所アラハ満足トスル所ナリ。

尙ホ本書ニ藏メタル各種事業ノ遂行ニ當リテハ水産局長、漁政課長、水産課長、岸上理學博士、岡村理學博士、田中理學士、本省水産關係職員其他ヨリ懇篤ナル指導ヲ受ケタリ、茲ニ謹ミテ厚ク感謝ノ意ヲ表ス。

昭和四年 四月

沖繩縣水産試驗場長 田代 清友



正誤表

三六頁―三七頁、圖下面ニ枚ハ三〇頁―三二頁ニ入ル

自大正十五年
至昭和三年
度 沖繩縣水産試験場事業報告

總目次

大正十五年、昭和元年度

漁撈部	頁
鰹漁業試験	一
鮪延繩漁業試験	二
瀬繩漁業試験	三
製造部	
鰹節製造試験	四
雲丹製造試験	五
養殖部	
海綿養殖試験	六

昭和二年度

漁撈部

鯉漁業試驗..... 一三六

鮪延繩漁業試驗..... 一四六

鯉餌料焚入漁業試驗..... 一五二

餌料鱘酸素利用運搬試驗..... 一五六

製造部

鯉節製造試驗..... 一六三

鮮魚冷藏輸送試驗..... 一七八

冷藏庫ノ經營..... 一〇七

雲丹製造試驗..... 一〇八

養殖部

海綿養殖試驗..... 一一〇

昭和三年度

漁撈部

鯉漁業試驗..... 一三一

鮪延繩漁業試驗..... 一三六

製造部

鯉節製造試驗..... 一五〇

(イ) 品質改良ニ關スル試驗..... 一五四

(ロ) 冷藏庫利用鯉節製造試驗..... 一五八

罐詰製造試驗..... 一六八

(イ) 梶木大和煮罐詰..... 一七〇

(ロ) 鯖長鮪油漬罐詰..... 一七三

(ハ) 螺蝶大和煮罐詰..... 一七八

(ニ) 魚團罐詰..... 一八一

鮮魚冷藏輸送試驗..... 一八二

冷藏庫ノ經營..... 一八六

蒲鉾製造試驗..... 一八八

雲丹製造試驗..... 一九三

養殖部

海綿養殖試驗..... 一九五

其他

海洋横断観測.....	二〇九
海流瓶放流.....	二〇九
其他業務状況.....	二一九
經常部歳出豫算.....	二二〇
關係職員.....	二四二

四

附 録

水産試験場諸設備新營概要

趣旨、經過、新築落成式.....	二四七
事務所其他一般的設備.....	二五三
漁撈部關係設備.....	二五四
製造部關係設備.....	二五八
養殖部關係設備.....	二六九

總 目 次〔終〕

大正十五年
昭和元年度

附 録

水産試験場諸設備新營概要

海洋横斷觀測	二九
海流瓶放流	二九
其他業務狀況	二九
經常部歲出豫算	三四
關係職員	三四

四

總 目 次〔終〕

趣旨、經過、新築落成式	一四七
事務所其他一般的設備	一五三
漁撈部關係設備	一五四
製造部關係設備	一五八
養殖部關係設備	一六九

大正十五年度
昭和元年度
沖繩縣水產試驗場事業報告

目次

	頁
漁撈部	
鯉漁業試驗	一
鮪延繩漁業試驗	二
瀬繩漁業試驗	三
製造部	
鯉節製造試驗	四
雲丹製造試驗	五
養殖部	
海綿養殖試驗	六

自大正十五年
至昭和三年度 沖繩縣水產試驗場事業報告

漁撈部

鯉漁業試驗

一、趣 旨

前年度ニ引續キ本試驗ヲ行ヒ遍ク漁場ヲ開拓シテ斯業經營ニ資セントス。

二、施行方法

本場在來ノ指導船琉球丸ケツチ型三十噸セミデーゼル五十馬力ニ船長、機關長外二十五名乗組マシメ四月中旬ヨリ七月下旬迄ハ鹿兒島灣内餌料鱧ニ依リ、八月ヨリ九月中旬迄ハ本縣産方言ぐるくんノ稚魚其他ヲ使用セリ。

三、試驗ノ經過及結果

沖繩本島ヨリ鹿兒島近海ニ至ル區域ニ於テハ四月ヨリ六月迄ハ水温二十一度乃至二十六度ノ好適温ヲ示シ、七島方面竝ニ本島西北各漁礁ニ鯉群洄游多ク加之餌付モ良好ナリシガ、七月上旬ヨリ七島及本島近海一帶水温急ニ上昇シ、二十八度乃至三十一度ノ高温ニ達シ魚群減少浮上スルモノ稀トナリ且ツ餌付不良ニシテ從ツテ漁獲狀況不振ナリ、本試驗期間ヲ通ジテ出漁回数十三回鯉四、四〇九尾ノ漁獲ヲナセリ。

本年縣下ヲ通ジテ從業漁船約百六十隻二月末ヨリ開始シ三、四月ノ交本島近海ニ於テハ近年ニナキ活況ヲ呈シ五月ニ

入りテハ本島並ニ宮古及八重山兩郡ニ魚群多ク餌付モ頗ル良好ニシテ相當ノ水揚アリシガ、六月以後ハ漸次不況ヲ呈シ七月ニ及ビテハ暖流卓越シ水温著シク昇騰シ沖繩列島西方一帯ノ海水中ニハ *Trichodesmium* 充滿シ鯨浮上セズ九月ニハ海況常態ニ復シ漁況稍々順調ニ向ヒタルモ颯風數々來襲シ八重山地方ニ於テハ鯨漁船及鯨節製造場破損シ甚大ナル被害ヲ蒙リ引續不漁ニシテ、縣下ヲ通ジ鯨ノ總漁獲高ハ凡ソ一、二六八、〇〇〇貫ヲ算シ一隻平均八千貫ニ滿タズ近年稀ナル不成績ニ終了セリ、今各月別ニ一般漁況ヲ述ブレバ、

三月 初旬ハ例年ニ比シ好況ナリシガ、沖繩本島南部近海ニハ小鯨ノ來游多ク慶良間群島方面ニ於テハ餌料する(鯨 *Stolephorus* sp.) 饒産セルタメ漁況良ク、毎日尠キハ一、二百尾ヨリ多キハ四、五百尾ノ漁獲アリ中ニハ一日ニ航海出漁スルモノサエアリ、從ツテ其ノ漁獲モ嵩高セルモノアリシガ、渡名喜島方面ニテハ下旬ニ至リ餌料缺乏シ一時漁獲中絶シ宮古、八重山、國頭三郡地方ニ於テハ魚群稀薄ニシテ辛ジテ出漁ヲ續ケタル狀況ナリ。

四月 慶良間群島近海ニ於テハ益々好況ニシテ殊ニ上旬ヨリ下旬ニ懸ケテ漁況漸次良好トナリ、而モ大鯨群來シ稀有ノ大漁ヲ見タレ共其他ノ地方ニ在テハ殆ド見ルベキ漁獲ナシ。

五月 縣下一般稍豐漁ニ向ヒ長ク不振ナリシ宮古、八重山、國頭地方ニ於テモ一日一隻ニ付大鯨百五十尾ヨリ二百四、五十尾ノ漁獲アリテ相當活況ヲ呈シ魚群モ相當濃厚ニシテ餌付良好ナリシト雖モ、次第ニ各地餌料ノ缺乏ヲ告ゲ漁獲減退セシガ唯那覇慶良間方面ノ漁船ハ成績稍々良好ナリキ。

六月 一般ニ餌料難ニ陥リ又魚群稀薄トナリシテ以テ漁況不振ナルモ國頭郡方面ノミハ毎日大、中、小混リ一隻百四、五十尾乃至三百尾ノ漁獲ヲ續セルアリ。

七月 上旬ニ至リテ餌料一般ニ潤澤トナリ漁獲高モ稍々上リタルモ、下旬ニ入り漸次水温高マリ表面三十度ヲ超ユルニ

至リテ魚群其ノ跡ヲ絶チ一般ニ殆ンド休業狀態ニ陥リタリ、但シ大島郡與論島方面ニ出漁シタル國頭郡ノ漁船ノミハ頗ル濃厚ナル小鯨群ニ會シ、好成績ヲ收メタリ。

八月 鯨漁況ハ本月ニ入りテモ依然トシテ恢復セズ一般ニ夏枯ノ狀態ニアリ、各地共餌料ハ比較的饒産スト雖モ沖合一帶ノ表面海水ハ變色シテ *Trichodesmium* 充滿シ殆ンド他ノ浮游生物ヲ見ズ、一般ニ魚群稀薄ニシテ漁事殆ド無ク休業者續出、殊ニ八重山方面ハ十三、四日及二十三、四日ノ二回颯風來襲シ著シク打撃ヲ蒙リ漁獲モ頓ニ減退セリ。

九月 漁況依然不振ノ狀勢ヲ辿リ、加之颯風數々來襲シ宮古、八重山地方ニ於テ已ムナク終漁シタル者三十餘隻ヲ算ス。自十月至十二月 十月ニ至リテモ天候不良ナリシト魚群ノ來游少キトニテ漁事思ハシカラズ、十一月モ不漁ニ了リ、十二月上旬ニハ全部終漁ヲ告ゲタリ。

琉球丸航海別漁業日誌表

航海順	航路	要	出漁期		日數	餌場	所	魚種	總數	魚種	獲數	獲物
			出	入								
1	那覇發鹿兒島灣内餌料鯨ヲ積込出漁シ那覇ニ魚揚ス		四月十九日	五月五日	十七日	鹿兒島灣内	かたぐち	四	かつを	大	357尾	
2	同		五月八日	五月二十三日	十六日	同	同	同	かつを	大	1,753	
3	同		五月二十五日	六月三日	十日	同	同	同	かつを	大	620	
4	同		六月六日	六月十二日	七日	同	同	同	かつを	中	15	
5	前回持越餌料ニテ那覇發出漁山川ニ魚揚ス		六月十五日	六月二十一日	七日	前回持越			かつを	中	592	
6	山川ニテ餌料積込出漁那覇ニテ魚揚ス		六月二十一日	六月二十五日	十五日	鹿兒島灣	かたぐち	四	かつを	大	340	

7	那覇發本縣餌料ニテ出漁那覇陸港魚揚ス	七月二十三日	十七日	同	同	同	同	同	かつを	小	15
8	同	七月二十五日	六日	馬	天	港	ぐるくん	五	かつを	中	146
9	同	八月三日	六日	名	護	灣	同	四	/	/	
10	同	八月十四日	五日				同	四	かつを	飛大	170
11	同	八月二十六日	三日	本縣近海ニ餌料無ク出漁止ム							
12	同	九月四日	五日	名	護	灣	ぐるくん	五	し	小	30
13	同	九月十五日	四日	前	回	持	越		かつを		61

琉球丸漁場別漁業日誌表

符號	漁獲日時	漁場	漁場風候		漁場風潮		漁場風況		漁用器具數	餌料	漁獲物	
			天候	風	潮	表面	水深	表面			水深	尾數
(イ)	五、二	PM 2.30 3.10	(イ)大正會根西十五湊 (ロ)伊平屋會根南八湊	B	SE 4	N	21.5	26.97	2	かたぐち	かつを	185 322
(ロ)	五、三	PM 3.00	(イ)久米島島北東七湊	B	SE 3	NNNE	21.4	26.92	1	"	"	2
(ハ)	五、四	PM 2.30 3.10	(ニ)大九會根	B	S 3	E	23.3	26.35	1	"	"	170 115
(ニ)	五、十三	AM 11.00 11.20	(ホ)中之島西岸 (ヘ)中之島中之島中間	C.R	E 4		24.3	25.72	2	"	"	85
(ホ)	五、十五	PM 3.10 3.15	(ト)中之島南岸	B	N 4		23.9	26.81	1	"	"	8
(ト)	五、十六	PM 4.00 4.30	(チ)中之島ノ北西岸 (リ)大隈島北八湊 (ヌ)中之島北西二〇湊	B	N 3	NE	24.6	25.96	3	"	"	965 635
(ル)	五、二十一	AM 10.20 PM 2.10	(ル)アヒロ會根東四湊	B	SW 4	SW	23.3	25.85	5	まいわし	かつを	695 1810 1994 354
(ヲ)	六、一	PM 4.00 4.20	(チ)伊平屋會根北東四湊	G	W 3	NE	24.7	26.04	1	かたぐち	かつを	30
(ヅ)	六、二	AM 11.00 11.30	(ヅ)第二琉球會根	B	E 4	NE	26.1	26.27	2	"	"	590 963
(ヅ)	六、十一	AM 11.50 12.00	(ニ)アヒロ會根	C	SE 3		25.8	25.86	1	"	"	15
(ヅ)	六、十五	PM 3.00 3.10	(ヌ)大九會根北四湊	B	SE 2	NE	25.6	25.99	1	"	"	
(ヅ)	六、十七	PM 1.05 1.25	(ヅ)大九會根	B	E 3	SE	25.4	26.81	2	"	"	564 470
(ヅ)	六、十八	PM 4.30 4.40	(ツ)中之會根北東二湊	C.R	E 3	E	25.3	26.01	1	"	かつを	28 32 18
(ホ)	七、一	AM 11.30 12.00	(ホ)口之島北十二湊	C.R	WNW 3	NE	23.8	25.86	1	かたぐち	かつを	40
(チ)	七、四	AM 11.30 12.00	(チ)第二琉球會根	B	S 3	WSW	28.1	26.05	2	"	"	300 384
(チ)	七、二十二	PM 5.45 5.55	(カ)久米島西端ヨリ西三湊	B	S 3		28.7	26.12	1	"	"	15 5
(チ)	七、二十八	AM 8.00 8.10	(チ)粟國島西端西三湊	B	S 3		28.5	25.79	1	ぐるくん	"	90 13
(チ)	七、二十九	AM 6.30 8.50	(キ)西大九會根	B	S 3		29.2	25.96	4	"	"	56 32
(チ)	八、十一	PM 7.30 7.48	(ク)久米島西南西六十湊	B	SW 1	NE	30.5	25.90	2	"	"	170 272
(チ)	九、六	PM 2.00 2.10	(チ)久米島南二十五湊	B	NE 1	NE	29.2	25.84	1	"	し	30 7
(チ)	九、十五	PM 2.00 2.10	(チ)久米島北東二湊	G	SSE 3	NE	28.5	25.78	1	"	かつを	61 97

備考 本縣ニ於テハ Caesio 屬中ノ四、五種 (チ)かまご Caesio chrysoyoma, Caesio digramma, Caesio Coerlaurus 其他) がぐるくんト總稱ス。

琉球丸鯉漁試驗日誌

第一航海

四月十九日 那霸出帆久米島ニ寄港シ漁具ヲ積込ミ鹿兒島ヘ向フ。
四月二十一日 天候悪シクロノ島ニ假泊ス。
四月二十二日 同所發山川港著、風力尙減退セザルタメ滞泊ス。
四月二十五日 天候恢復シ餌料鱸ヲ活ケ漁場ヘ向ケ出帆ス。
四月二十六日 風波高ク航行困難ノタメロ之島ニ避難ス。
四月二十七日 早朝同所出帆硫黃島附近ニ至ルモ波浪高ク魚群無シ、硫黃島ニ假泊ス。
四月二十九日 同所ヲ拔錨シ相之會根、伊平屋會根、中之會根等ヲ調査セルモ魚群ヲ認メズ、粟國島附近ニ漂泊ス。
四月三十日 更ニ粟國島、久米島、久米島近海ヲ順次探査セシモ魚群ナシ、機關水補給ノタメ久米島ヘ入港ス、天候險惡ナリ。
五月二日 風波稍々減退シ、午前一時久米島ヲ出帆シ琉球會根及大正會根ノ間ニ於テ大判鯉ヲ認メ餌付セシガ、魚足速ク僅カニ六十五尾ノ漁獲ニ止リ、更ニ伊平屋會根ニ於テ餌付稍々良好ナル大判鯉群ニ會ヒ百二十尾ヲ釣獲シ、午後十時頃ヨリ漂泊ス。
五月三日 早朝ヨリ同會根近海ヲ探索スレ共魚群ヲ認メズ、再ビ南下シ久米島附近ニ至リ大判鯉群ニ投餌スルモ餌付極メテ惡ク僅ニ二尾ヲ得久米島ヘ入港ス。

五月四日 早朝同所出帆、大九會根ニテ餌付良好ナル小判鯉百七十尾ヲ釣獲ス、尙索餌盛ナルモ餌料盡キ久米島寄港、魚揚ヲナス。
五月五日 那霸ニ歸港ス。

第二航海

五月八日 那霸發鹿兒島ヘ向フ。
五月十日 山川入港。
五月十二日 鱸四籠ヲ積込ミ出帆ス。
五月十三日 口之島近海ニ至リ中判魚群ヲ認メ投餌スルモ波浪高ク撒餌ノ效薄ク二流ニテ八十五尾ノ水揚ヲナシ諏訪島ニ假泊ス。
五月十五日 再ビ中之島近海ヲ探セシガ、魚群多キモ何レモ餌付惡シク八尾ヲ得タルノミ、風強キタメ中之島ヘ避難。
五月十六日 尙同所附近ニハ小判群多ク夕方ニ至リテ餌付良好、三流ニテ九百六十五尾ヲ釣獲シ、餌料盡キ山川ニ向フ。
五月十七日 山川入港、魚獲物賣却後直チニ餌料積込ミ上出帆ス。
五月十九日 硫黃島近海ニ於テ魚群ニ會ヒシモ餌ニ付カズ風強ク島島ニ避難ス。
五月二十一日 風力減シ早朝拔錨相ノ會根近海航行中流木付鮪交リ大判鯉ニ會ヒ餌付良ク、飛大鯉六百九十五尾鮪千八百十尾ヲ釣揚、餌盡キ久米島ヘ向フ。
五月二十二日 久米島著魚揚ヲナス。
五月二十三日 那霸入港。

第三航海

五月二十五日 那霸發山川ニ向フ。
五月二十七日 山川著、天候甚ダ悪シ。
五月三十日 荒天ナリシタメ遅延シ、餌料鱸四籠ヲ積ミ出帆ス。
六月一日 七島漁場漁事ナク伊平屋島近海ニテ中判魚ヲ認メ投餌セシモ餌付悪シク僅ニ三十尾釣揚セシノミニテ第二琉球會根ヘ向フ。
六月二日 早朝同會根著、餌付良ク大判鰹五百九十尾ヲ得、餌料了ヘ久米島ニ入港シ魚揚ス。
六月三日 那霸歸港。

第四航海

六月六日 那霸發山川ニ向フ。
六月八日 山川入港。
六月九日 餌料鱸ヲ積込ミ出漁ス。
六月十一日 相ノ會根近海ニ至リ大判鰹ヲ見ルモ餌付不良ニテ辛フジテ十五尾ヲ釣り、更ニ南下シ各漁場ヲ探ルモ鳥卷ダモ見ズ、天候不穩トナレルタメ那霸ニ向フ。
六月十二日 那霸歸港。

第五航海

六月十五日 持越餌料ニテ漁場ヘ向フ、大九會根ニ小判群有ルモ全ク餌ニ付カズ第二琉球會根ヘ針路ヲ取ル。

六月十六日 第二琉球會根竝ニ久米島近海ニテハ全ク魚群ヲ見ズ、關水補充ノタメ久米島ヘ寄港ス。
六月十七日 更ニ大九會根ニ至リ餌付良キ中判鰹五百六十四尾ヲ揚ゲ久米島ヘ引返シ漁獲物ノ陸揚ヲナス。
六月十八日 残存餌料少キタメ北上鹿兒島ニ向フ、中之會根ニテ鮪交リ小判鰹ニ遭遇シ鰹二十八尾鮪三十二尾ヲ釣り餌盡キタリ。

第六航海

六月二十一日 鹿兒島入港餌料魚ノ漁獲少ク餌待チノタメ滞在ス。
六月二十五日 漸ク餌料鱸ヲ得テ出漁シ途中風強ク屋久島一湊ヘ避難ス。
七月一日 風波稍々穩トナリ同港ヲ抜錨スロ之島近海ニテ小判四十尾ヲ得タルモ餌付思ハシカラザレバ更ニ南下ス。
七月四日 第二琉球會根ニテ魚群ヲ認メ大判三百五十尾ヲ漁獲シ餌料終リ久米島ヘ入港魚揚ヲナス。
七月五日 那霸歸港。

第七航海

七月七日 鹿兒島ヘ向ケ那霸港抜錨。
七月九日 鹿兒島入港餌待チノタメ滞在ス。
七月十五日 餌料鱸四籠ヲ購入シテ出漁ス。
七月十七日 七島竝ニ本縣近海各漁礁共魚群ヲ認メズ、天候險惡ナルヲ以テ那霸ニ向フ。
七月十八日 那霸入港。
七月十九日 風力減退シ出漁ス。

七月二十日 東、西兩大九會根ヲ調査セルモ魚影ヲ認メズ針路ヲ久米島へ變更ス。
七月二十一日 久米島、粟國島近海ニテ鳥巻モ見ズ久米島ニ假泊ス。
七月二十二日 第二琉球會根ヲ探査スルモ魚群ナシ、久米島西方ニテ小判十五尾ヲ釣リシノミナリ。
七月二十三日 久米島西方ニ於テ大判鱈ヲ見ルモ餌ニ付カズシテ餌料盡キ那霸ニ歸港ス。

第八航海

七月二十五日 那霸出帆馬天港ニテ餌料ぐるくんヲ積込ミ與論島近海ニ向フ。
七月二十六日 與論島東近海竝ニ伊平屋島北方附近ニハ全ク魚影ヲ認メズ伊平屋島附近ニ漂泊ス。
七月二十七日 同所ヨリ粟國近海ヲ調査スルモ魚群ニ會ハズ粟國島近海ニ漂泊ス。
七月二十八日 粟國島西方ニテ餌付不良ナレ共小判鱈九十尾ヲ揚グ、久米島附近ニテ魚群ヲ見ズ久米島ニ寄港シ關水補給ノ上更ニ南下ス。
七月二十九日 西九大九會根ニテ小判鱈ニ會フモ餌付惡シク四流ニテ五十六尾ヲ得タルノミニテ餌終エ久米島へ入港魚揚ヲナス。
八月三日 那霸歸港。

第九航海

八月三日 那霸出帆名護へ寄港シ餌料ぐるくんヲ積込ミ漁場へ向フ。
八月四日 粟國島、久米島沖合表面水溫二十九度以上ニテ魚群ヲ見ズ。
八月五日 久米島西六十渚附近モ同ジク高溫ニシテ魚群現レズ、附近ニ漂泊ス。

八月六日 同所附近一帶表面水溫三十一度五分ヲ示シ全ク魚影無ク、久米島へ入港ス。
八月七日 北上、大正會根、中之會根共ニ魚群見當ラズ。
八月八日 更ニ南下久米島近海ヲ尋ヌルモ魚群ヲ認メズ、粟國島附近ニテ大判魚群ニ會ヒ投餌スルモ索餌セズ、餌料盡キ那霸へ引揚グ。

第十航海

八月十日 那霸出帆シ名護ニテ餌料ぐるくんヲ積込ミ出漁ス。
八月十一日 粟國島近海ヨリ久米島西附近一帶表面ニ於テハ、海水臭氣アリテ水溫三十度以上ヲ示シ無數ノ *Trichodes* *ana* ヲ認メラレ、鯉浮上スルモノナシ。
八月十二日 久米島西北西近海ニ大判鱈ヲ見、餌付ニ苦心スルモ餌付スルモノ無ク、餌料盡キ久米島ニ寄港ス。
八月十四日 那霸歸港。

第十一航海

八月二十六日 那霸發餌料購入ノタメ名護ニ寄港セシモ餌料ナシ。
八月二十七日 餌料買入ノタメ運天港ニ廻航セシモ餌料ナシ
八月二十八日 那霸歸港。

第十二航海

九月四日 名護灣内餌料漁獲ノ通知ニ依リ名護ニ入港ス。
九月五日 餌料ぐるくんヲ得テ出帆。

九月六日 久米島南方二十五哩近海ニハ魚群ヲ認ムルモ浮上セズ、折柄流木付ノ小判鯷ニ會ヒ三十尾ヲ釣獲シ、附近ニ漂泊ス。

九月七日 久米島三、四十哩近海一帶ニ魚群ヲ見ルモ浮上セズ。

九月八日 天候險惡トナリ那覇ニ歸港ス。

第十三航海

九月十二日 那覇出帆漁場ヘ向フ。

九月十三日 伊平屋附近ヲ探スモ烏巻キダニ見ズ。

九月十四日 久米島西ニテ大判鯷ノ餌付ヲナスモ捕餌セズ

九月十五日 久米島附近ニテ大判鯷群ニ會シ六十一尾ヲ釣獲シ、餌盡キテ那覇ニ歸港ス。

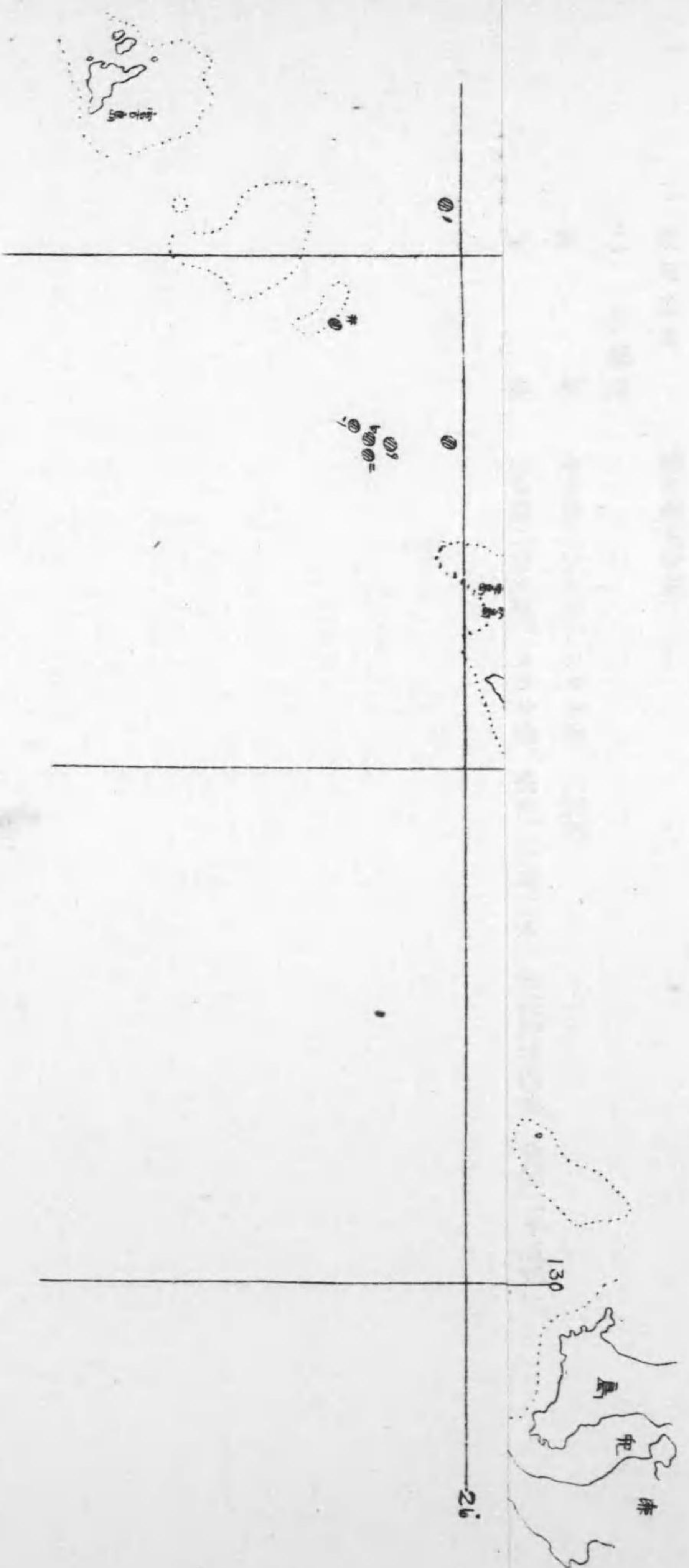
鮪延繩漁業試験

一、趣 旨

本縣ニ於テハ鮪延繩漁業ハ最近ノ創業ニ屬シ未ダ不振ノ狀況ニアルモ沖合ハ鮪、旗魚、鰺等ノ漁場トシテ極メテ有望ナリト認ムルヲ以テ本試験ヲ行ヒ當業者ヲ指導誘掖セントス。

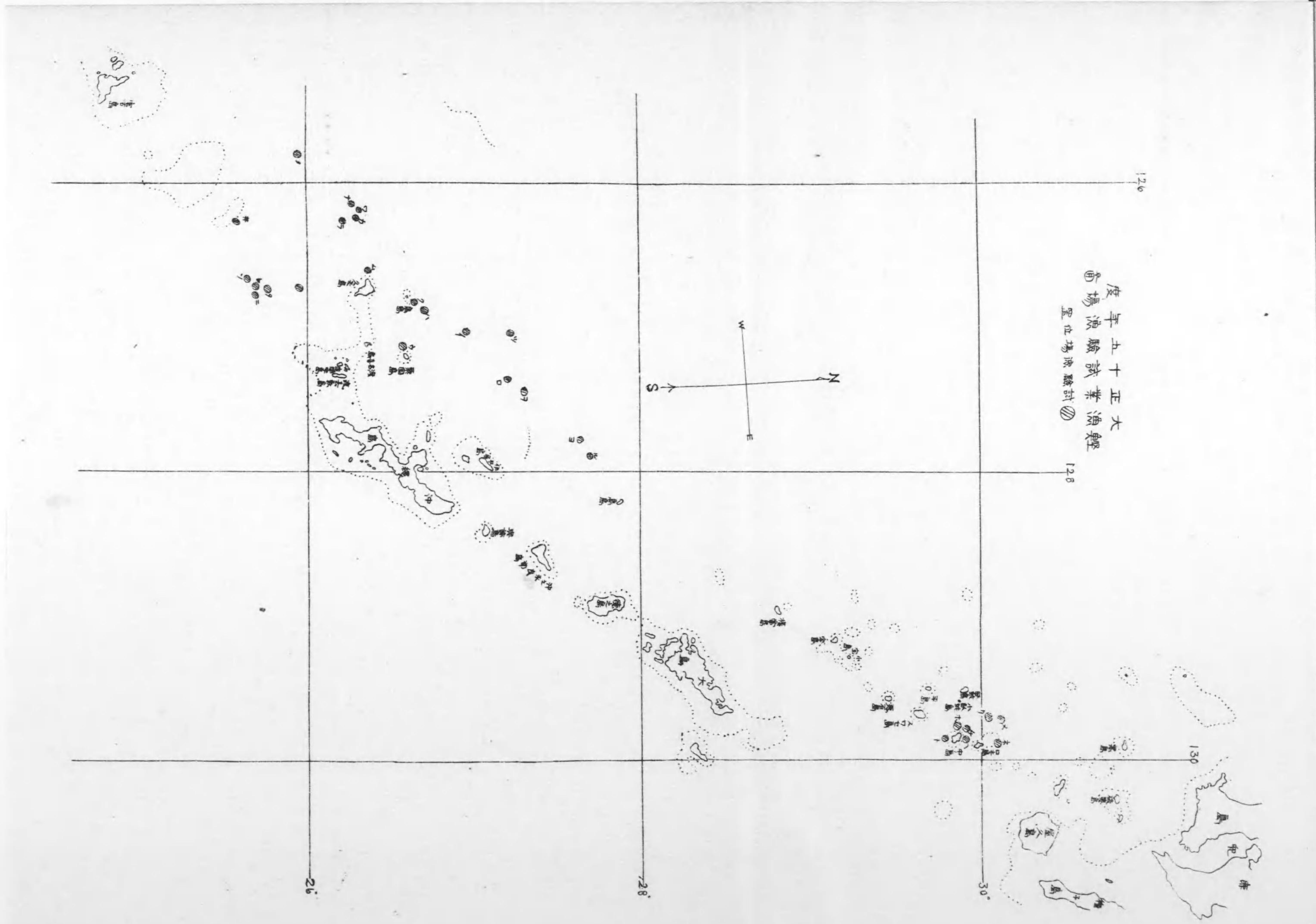
但シ本年度ハ暴風多ク加之船體修繕ニ時日ヲ要シ僅カニ二航海出漁、二回探査セルノミニテ充分ナル試験ヲナスニ到ラズ。

二、試験ノ方法



本縣ニ於テハ鮪延繩漁業ハ最近ノ創業ニ屬シ未ダ不振ノ狀況ニアルモ沖合ハ鮪、旗魚、鱈等ノ漁場トシテ極メテ有望ナリト認ムルヲ以テ本試験ヲ行ヒ當業者ヲ指導誘掖セントス。
 但シ本年度ハ暴風多ク加之船體修繕ニ時日ヲ要シ僅カニ二航海出漁、二回探査セルノミニテ充分ナル試験ヲナスニ到ラズ。

二、試験ノ方法



- 一、使用船 琉球丸
- 二、使用漁具 鮪延繩五十鉢

(イ) 一鉢構造

- 幹 繩 南京麻二分五厘、カッチ染、二百尋
- 枝 繩 南京麻二分五厘、カッチ染、長枝二十尋二本、短枝四尋四本 合間二十五尋
- 浮子 繩 南京麻二分五厘、カッチ染、十五尋二本
- セキヤマ 麻心徑一分五厘、白、各枝四尋宛
- 釣元ワイヤー 最細十九本合セ、各枝三尺五寸宛
- 釣 鈎 丹吉白角四寸二分、六本
- ボンテン 桐丸太徑四寸長サ三尺、各浮子繩ニ一本宛
- ラインホルラー 一臺(マグドナルド式)

- 三、乗組員 十五名
- 三、經 過

期間竝ニ航海數 自大正十五年十二月、至昭和二年二月、二航路

四、操業日誌
第一航海

大正十五年十二月十一日 横斷觀測ヲ終ヘ座間味港入港、餌料購入ノ約束ヲナス。

十二月十二日 餌料ぐるくん百九十二斤ヲ活ケ漁場ヘ向フ、午後四時久馬島 SW^{1/2}S 二十七湮沖ニ午後九時配繩ス、漁獲物皆無ニテ揚繩シ那霸ニ歸港ス、漁場天候 B、風 W、漁場水溫二十一度七分、潮流 NW

第二航海

昭和二年二月二十一日 那霸出帆慶良間阿護之浦ニ投錨、餌料購入ノタメ碇泊ス、天候險惡ナリ。

二月二十三日 天候恢復シぐるくん百三十五斤ヲ活ケ久米島近海ヘ向フ、天候險惡ナレバ久米島ニ避難ス、換水不充分ノタメ餌料魚斃死シ氷漬トナス。

二月二十五日 天候稍々平穩ニ向ヒテ出漁ス、久米島儀間港ヨリ WSW 二十湮ノ位置ニ於テ午前九時延繩シ午後六時半漁獲物全ク無ク揚繩終了ス、漁場天候 B、風 SW、風力 3、水溫二十二度一、比重二五・二〇。

二月二十六日 那霸歸港。

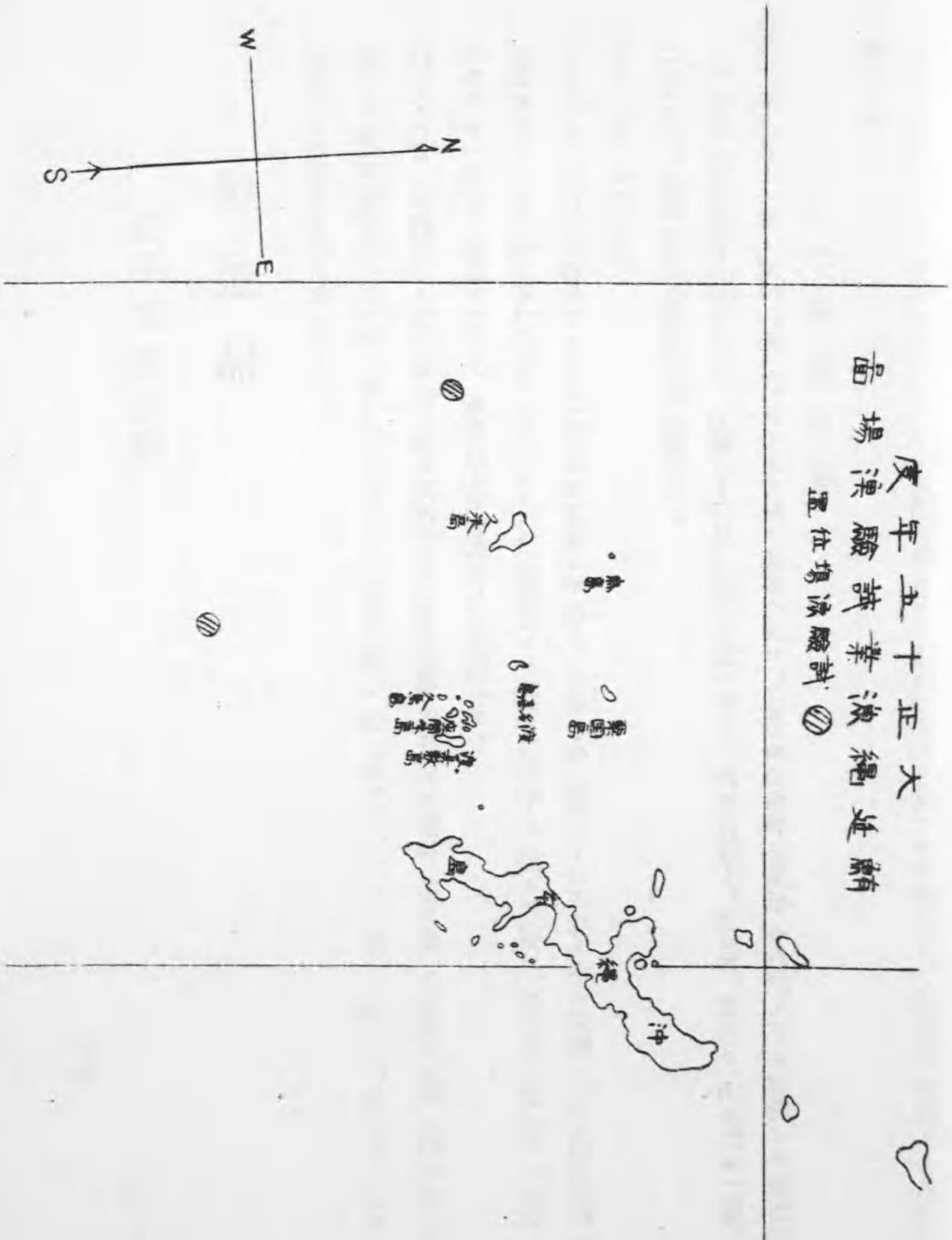
瀬繩漁業試験

一、趣旨及方法

本縣ニハ姬鯛及笛吹鯛等ノ底魚餽産スト雖モ其ノ漁法ハ一般ニ至ツテ幼稚ナリ故ニ本場ハ鰹、鮪、鯛漁業試験期間ニ於テ隨時琉球丸ニ割船二隻ポート一隻ヲ載セ母船式トシテ廣キ區域ニ互リ瀬物配繩漁業試験ヲ施行シ漁場ノ探究ヲ爲スト同時ニ斯業ノ範ヲ示シ以テ其ノ發展ヲ促進セントス。

二、試験及結果

本年ハ荒天續キニテ延繩回数少ク豫定ノ漁場ヲ充分ニ探查スルヲ得ザリシト雖モ、最近二、三年來繼續シテ試験セルタ



メ民間ニ於テモ、是レニ刺戟誘導セラレテ發動機船ニ依ル瀬繩漁業ノ有利ナルヲ看取シ、本漁業ヲ企圖スル者簇出スルニ到レリ。

三、操業日誌

昭和二年三月十一日 餌料飛魚二百五十尾ヲ積ミ漁場ヘ向フ、七時阿波連岬のWの十八湮ノ所ニ延繩シ午後四時揚繩シ、雜魚三百十五斤(斤十五錢)小鱈五十三尾(尾十五錢)ヲ得、但シ天候B、風NE、風力3、水溫二十二度、比重二四・九〇、水深六十英尋乃至八十英尋ナリ。

三月十二日 那覇歸港。

三月十八日 餌料飛魚百尾ぐるくん二百尾ヲ氷藏シ出漁ス、正午るかん瀬ヨリS六湮ノ所ニ投繩シ午後四時揚繩ス漁獲物雜魚四十六尾(六十五斤(斤十八錢))ナリ、天候險惡ニテ那覇ニ歸港ス、但シ天候C、風SE、風力3、潮流SE、水溫二十一度七、比重二四・六、水深六十英尋乃至八十英尋ナリ。

三月二十八日 餌料ぐるくん三百尾ヲ積ミ出帆午後二時久場島SW阿波連岬SWのWノ位置ニ入繩シ四時五十分揚繩終了ス、漁獲物雜魚五十六尾(百四十八斤(斤二十七錢五厘))鱈七尾ナリ、但シ天候B、風SE、風力3、潮流SW、水深六十英尋乃至八十英尋ナリ。

製造部

鯉節製造試験

一、趣旨及方法

本縣産鯉節が大部分適當ナル微付ヲ行ハズシテ販出セラルルハ、其品質向上聲價發揚上大ナル故障トナルモノナレバ完全ナル微付節トシテ販賣スルハ多クノ點ニ於テ有益ナルコトヲ示シ且ツ其製造中ニ於テ煮熟焙乾及ビ微付容器ニ關スル試験ヲ行ヒ鯉節改良ニ資セントシ本試験ヲ施行セリ。

二、試験ノ期間並ニ場所

大正十五年五月四日ヨリ九月末日ニ到ル間島尻郡具志川村字兼城ニ於テ施行ス。

三、試験ノ經過

煮熟ニ關スル試験

(一) 釜入溫度ノ影響

鯉肉煮熟ノ際釜入當時ノ釜水溫度ハ其原料ノ肉質及ビ水質ニ依リテ其ノ適溫ヲ異ニス今適當トスル釜入時釜水溫度ニ關スル試験ヲナシ更ニ煮荒ヲ防止スル方法ニ就キテ試験セリ。

最初指導船琉球丸ノ漁獲セル鯉百五十尾(一尾平均十二斤)ヲ用ヒ頭切身卸身割籠立ノ操作ヲ同様ニ行ヒ釜入溫度ヲ攝氏六〇度、七〇度、七五度、八〇度、八五度ノ五種ニ分チ左表ノ通煮熟シテ其ノ煮上リ後ノ狀況ヲ檢シタルニ、七五度及八〇度ノモノ比較的良好ナル結果ヲ得タリ。

第一表 溫度ノ高低ニ依ル煮熟 (七月十三日施行)

煮熟回次	試験材料	釜入溫度	煮熟時間	摘	要
第一回	三〇尾分	六〇度	一時三〇分		
第二回	三〇尾分	七〇度	一時三〇分		
第三回	三〇尾分	七五度	一時三〇分		
第四回	三〇尾分	八〇度	一時三〇分		
第五回	三〇尾分	八五度	一時三〇分		

(二) 調理肉ト處理方法ニ依ル影響

釣獲後船艙内ニ氷藏シ當日午後十一時陸揚シ直チニ氷水中ニ入レ(魚體溫度攝氏十度)翌日午前十時迄浸漬セル原料ノ内鯉四十尾(一尾平均六斤三合)宛ニ分チ其ノ一方ニハ調理後節肌ニ鯉ノ血液ヲ塗布シ他ハ之ヲ行ハズ、コレ等ヲ左表ノ通煮熟シタル後、煮荒レノ程度ヲ檢スルニ本操作ヲ施行セルモノハ煮荒レヲ生ゼザリシモ、然ラザルモノハ四十尾ニ對シ一本ノ荒節ヲ生ゼリ。

第二表 操作別ニ依ル煮熟 (七月十七日施行)

操作別	試験材料	釜入溫度	煮熟時間	摘	要
普通法	四〇尾	七五度	五〇分	沸騰後	
血液塗	四〇尾	七五度	五〇分	同	

焙乾ニ關スル試驗

現今縣内ニ於テ行ハルル鱈節焙乾方法ハ一般ニ溫度濕度等ノ狀態適度ナラズ品質ヲ損スルコト多キヲ以テ、之ガ研究ヲナシ適切ナル標準ヲ求メントシ濕乾室竝ニ火山ヲ用ヒ焙乾試驗ヲナセリ。

濕乾室ニ於テ魚體平均十二斤ノモノ三十尾ニ就キ左表ノ通焙乾ヲ行ヒ終了後之ヲ檢スルニ焙乾中品質ヲ損スルコト少ナシ、濕乾室ニ於ケル焙乾處要日數十八日間、焙乾時間十六時間半、焙乾溫度攝氏八十度乃至七十度ナリ。

火山ヲ使用シ原料平均六斤三合ノモノ四十尾ヲ以テ焙乾中節重量ヲ計リツツ第四表ノ通焙乾ヲナシタル後之ヲ檢セルニ品質比較的良好ナリ、此焙乾日數焙乾回数ハ濕乾室ニ於ケル焙乾ト同ジク焙乾溫度ハ攝氏百度乃至八十度ニシテ焙乾時間十六時間ナリ。

第三表 濕乾室ニ於ケル焙乾

日次	焙乾回数	焙乾溫度	焙乾時間	摘	要
第一日	水抜焙乾	七〇度	二時〇〇分		
第二日	二回焙乾	七〇度	一時三〇分		
第三日	三回焙乾	八〇度	一時三〇分		
第四日	四回焙乾	七五度	一時三〇分		
第五日	五回焙乾	七五度	一時二〇分		

第六日	六回焙乾	七五度	一時〇五分		
第七日	七回焙乾	七二度	一時〇〇分		
第八日	休				
第九日	八回焙乾	七二度	一時〇〇分		
第十日	休				
第十一日	休				
第十二日	九回焙乾	七二度	一時一五分		
第十三日	十回焙乾	七〇度	一時一〇分		
第十四日	休				
第十五日	十一回焙乾	七〇度	一時一〇分		
第十六日	十二回焙乾	七〇度	一時一〇分		
第十七日	休				
第十八日	十三回焙乾	七〇度	一時〇〇分		

但シ自八月四日(第一日)至八月二十一日(第十八日)間ニ施行ス。

第四表 火山ニ於ケル焙乾

日次	操作	原料	焙乾溫度	焙乾時間	原料數量	原料ニ對スル歩留	摘	要
		二九二斤				一〇〇・〇〇		

頭切後	二〇三斤	六九・五三
身卸後	一八九斤	六八・三九

焙乾開始

第一日	水拔焙乾	九五度	四〇分	一二四斤	四〇・四七
同日	二回焙乾	一〇〇度	二時〇〇分	一〇八斤	三六・九九
第二日	三回焙乾	一〇〇度	一時四〇分	一〇〇斤	三四・二六
第三日	四回焙乾	一〇〇度	一時三五分	八九・五斤	三〇・六五
第四日	五回焙乾	九〇度	一時二五分	八四・五斤	二八・九四
第五日	六回焙乾	九〇度	一時三五分	八〇・五斤	二七・五七
第六日	七回焙乾	八五度	一時二五分	七八・〇斤	二六・七一
第七日	休				
第八日	八回焙乾	八五度	一時十分	七五・〇斤	二五・六八
第九日	休				
第十日	九回焙乾	八五度	一時〇〇分	七二・〇斤	二四・六六
第十一日	休				
第十二日	十回焙乾	八五度	一時〇〇分	七〇・〇斤	三三・九七
第十三日	休				

第十四日	十一回焙乾	八五度	一時〇〇分	六七・〇斤	二二・九四
第十五日	休				
第十六日	十二回焙乾	八〇度	一時〇〇分	六五・五斤	
第十七日	休				
第十八日	十三回焙乾	八五度	一時〇〇分	六二・〇斤	二一・二三

焙乾終了

第十九日	荒節日乾	六一・五斤	二一・〇六
第二十日	同	六一・〇斤	二〇・八九
第二十七日	削節日乾	五七・〇斤	一九・五二
第二十八日	削節日乾	五六・〇斤	一九・一八
第二十九日	裸節日乾	五五・五斤	一八・九二
第三十日	裸節日乾	五五・五斤	一八・九二
第三十一日	微付始メ	五五・二五斤	一八・九二

但シ自八月十九日(第一日)至九月十九日(第三十一日)間ニ施行ス。

微付容器ニ關スル試驗

微付容器ノ如何ニ依リ微ノ發育ノ狀態竝ニ取扱ヒ操作ノ便否ヲ試驗セントシ左表ノ通り七貫箱、拾貫樽、十六貫箱ノ

三種ノ容器ニ付キ比較セルニ七貫箱ヲ使用セルモノハ微ノ發育薄キモ取扱ニ便ナリ、十六貫箱ヲ使用セルモノハ微ノ發育濃厚ナレドモ取扱不便ナリ、微付容器トシテ八十貫内外入ノモノ適當セルヲ認ム。

微付容器ノ比較

日次	操作別	七貫箱	十貫樽	十六貫箱	摘	要
第一日	微付始メ	同	同	同		
第九日	詰 替 へ	青かびれとかび發生ス	同	同		
第十五日	一番日乾	發育薄シ	發育濃厚ナリ	同		青かびれとかび發生ス
第二十五日	詰 替	同	同	濃厚ナリ		さいろかび發生ス
第三十二日	二番日乾	同	同	同		

但シ八月七日(第一日)至九月八日(第三十二日)間ニ施行ス。

製品ノ試賣

本期中ニ於テ使用セル原料ハ

鯉二千九百七尾 一萬九千百一十一斤
 鮪一千八百二十尾 一萬二千五百二十三斤
 ニシテ是ヨリ得タル製品ハ

鯉五百五十貫四百匁

鮪二百九十貫

賣上價格 七千九百八十二圓九十三錢也

製品ハ左記各商店ニ送付シ試賣セリ

東 京 市 三 越 吳 服 店 鯉節三百五十貫
 東 京 市 靱 山 商 店 鮪節 百五十貫
 東 京 市 高 津 商 店 鯉節 百二十貫
 東 京 市 三 井 物 産 株 式 會 社 鮪節 十貫
 東 京 市 縣 水 産 會 ニ 入 札 鯉節 五十貫
 鮪節 百三十貫
 鯉節 三十貫四百匁

他ニ鯉節十貫ハ翌年度迄本場ニ保存セリ。

製品試驗賣ニ際シテ市價一般ニ下落ノ時ナリシモ十貫目價格鯉本節最高百五拾五圓、最低百拾貳圓、鯉節最高百四拾四圓、最低百拾壹圓、鮪本節最高百圓、最低六拾參圓、鮪節最高九拾五圓、最低九拾四圓八拾錢ナリ。

製品ハ天候ノ都合ニ依リ微付稍ヤ劣リシ感ナリシモ當時相場トシテハ價格モ良ク、而モ本縣産鯉節ノ價値ヲ認メシムル上ニ相當效果アリシモノト認メラル。

四、摘 要

試験結果ノ概要ヲ摘記スレバ左ノ如シ。

- (一) 鯨肉煮熟ニ於テ釜入ノ際、釜水温度ハ攝氏七十五度乃至八十度ヲ適當トス、但シ久米島製造場ニ於ケル水ヲ使用ス。
- (二) 煮熟ノ場合節肌ニ鯨ノ血液ヲ塗ルトキハ煮荒ヲ防グニ效果アルガ如シ。
- (三) 鯨節儼付容器ハアル程度迄ハ大ナルモノ程儼ノ發育濃厚ナリ、取扱ノ便利ナル點ヲ考慮スルトキハ拾貫内外入ノ容器ヲ適當トス。
- (四) 製品試賣ノ結果儼付節トスルトキハ本縣産節ノ品質良好ナルコトヲ市場ニ於テ認メシムル爲メニ相當效果アリシト認メラル。

雲丹製造試験

一、趣 旨

本縣各地ノ沿岸ニ饑産スル海膽ハ殆ド肥料ニ供セラレ稀ニ自家用鹽辛トシテ製造セラレタルモ保存ニ堪ヘズ、一般ニ雲丹トシテノ價值ナキモノト思惟セラレ之方製造ニ著手スル者ナカリシガ、本年五月渡名喜村出砂ニ於テ雲丹製造試験ヲナシ、製品約十五貫ヲ得成熟シタル頃市内及縣外ニ試賣セリ。

二、製 造 方 法

海膽ノ背面八分ノ所ヲ庖丁ヲ以テ横斷シ、殼ヲ右手ニ持チ輕ク振ルトキハ内臟ノ大部分ハ除去セラルルヲ以テ、其内臟ヲ取り去リ海水ニテ洗ヒタル後竹筥ニテ卵巢ヲ採集シ小筥ニ入レ海水中ニテ攪拌シツツ内臟竝ニ殼ノ小片及變色

シタル卵等ヲ除去シタル後、之ヲ幅一尺五寸長二尺高二寸底部ニ竹筥ヲ附シタル木枠ノ筥上ニ厚サ四分位ニ卵ヲ載セ鹽ヲ一面ニ撒布シテ更ニ卵ヲ三分位ノ厚サニ載セ其上ニ鹽ヲ撒布シタル後、蠅又ハ塵埃ノ附著セヌ様硫酸紙ヲ覆ヒ三晝夜間放置シテ水分ヲ滴下セシメ少量ノ酒精ヲ振り掛ケ二重底ノ桶ニ密閉シテ冷所ニ貯藏セリ、用鹽ノ量ハ貯藏ノ久シキナ期シ原料ニ對スル三割ヲ使用セリ。

三、步 留

五月下旬島尻郡渡名喜村出砂ニ於テ製造シタル雲丹ノ步留ハ左ノ如シ。

原料卵 三十二貫六百九十五匁
製 品 十五貫四十匁

此 步 留 ○・四六〇

次ニ海膽ト卵トノ步留ニ付テハ卵ノミヲ購入シタルヲ以テ全部ニ付知ルコトヲ得ザルモ、特ニ調査セルモノ左ノ如シ。

海 膽 五貫六百五十匁
採 集 卵 四百十匁
此 步 留 海膽一貫ニ付七十二匁

四、生産費竝ニ製品處分

本製造ニ要セル生産費左ノ如シ。

品目	數量	單價	金額	摘要
卵購入費	六一升	八〇〇	四八八〇	
食鹽	一呎半	二二五〇	三三八〇	
場	一五五	一二五	一九三七五	
レツテル	一五五	〇一〇	一五五〇	
酒精	一	一〇〇	九〇〇	
雜費			七五一〇五	
計			七五一〇五	

一塚ノ生産費四十八錢五厘(九五匁入)

雲丹一貫目生産費四圓九十九錢四厘

製品ハ黄色ヲ呈シ色澤ハ他縣産ニ比シ劣ル缺點アレド香味ヨク、之ヲ九十五匁入ノ瓶詰トナシ五十錢ニテ普及上給ト實費ヲ以テ縣外及市内ニ於テ試賣シタルニ賣行良好ニシテ相當ナル成績ヲ收メタリ。

養殖部

海綿養殖試驗

一、趣旨

晚近海綿ノ需要ハ一般ニ益々増加ノ傾向ニアリ、然レ共現時世界ニ供給スル海綿ノ生産地ハ甚ダ局限セラレ需要供給ノ伴ハザル如キ趨勢ナリ、我國ニ於テモ年々其ノ需要夥シク全ク之ヲ海外ヨリ輸入スルノ狀態ニアリ隨ツテ價格モ亦高價ナリ、但シ海綿ハ本縣沿岸ニ於テハ比較的多ク棲息シ、其ノ蕃殖適地モ少ナカラズ、從來之ガ生産増加ノ途講セラレザリシハ遺憾トスル所ナリ、依テ之ガ養殖事業ヲ普及セシメ其生産ノ増大ヲ圖ルハ緊要事ニ屬ス。

故ニ本場ハ大正十年度ニ於テ島尻郡具志川村地先、大正十一年度ニ於テハ島尻郡糸滿町地先、大正十二年度ニ於テハ宮古郡平良町地先ニ於テ豫備的養殖試驗ヲ行ヒタルニ相當好結果ヲ收メタルヲ以テ引續キ之ガ増殖試驗ヲ施行セントスルニアリ。

二、試驗場所

(一) 島尻郡具志川村字島島地先

久米島ノ西南端島島地先一帶ハ珊瑚礁ニヨリ圍マレタル内灣ナリ、内灣ノ西方部ニ當リ散在セル幾多ノ岩島ニヨリ圍繞セラレ外海波浪ノ影響ヲ蒙ルコト少キ水面アリ、其ノ場所ハ干潮時ニハ水溜ノ如クニシテ潮水ノ流通ナク水深ハ深キ部分二米ニシテ大部分ハ三十纏乃至六十纏内外ナリ、海底ハ砂泥質又ハ岩礁ニシテ所々海藻生ジ、天然海綿多棲セリ。

此區域ニ於テハ大正十、十一ノ兩年度ニ於テ豫備的養殖試驗ヲ行ヒシニ成績良好ナリシヲ以テ全水面利用ノ目的ヲ以テ本回ノ試驗地モ此場所ニ選定セリ。

其ノ區域ハ約一萬坪ヲ算スレドモ干潮露出面及海底浮泥質ノ部分ヲ除キ増殖適地ハ約三千坪トス。
尙前記内灣ニ於テ海綿ヲ生ゼザルモ蕃殖場トシテ適當ト認メラルル區域約十萬坪アルヲ以テ、其ノ要點五箇所ヲ選

ビ移植試験ヲナセリ、其位置別紙略圖ノ通ナリ。

(一) 宮古郡平良町松原地先

宮古島西南部ニ位スル與那覇灣ハ與那覇半島ニ圍マレ西方與那覇崎ト野川崎ノ間ニ所在スル一小島ニヨリ二分サレ狭キ灣口ヲ開キ外海ニ通ズ、灣内ハ外海波浪ノ影響ヲ蒙ルコト少ク靜穩ナリ。

灣内ノ西北部ヨリ南部ニ至ル海底ハ砂又ハ砂泥質ナレドモ東部沿岸一體ニ砂礫又ハ岩礁アリテ海藻著生シ天然海綿ノ棲息ヲ見ル、殊ニ灣ノ中央ニ位スル「サーイ」島(俗稱)附近及其東北部分ハ天然海綿ノ棲息多ク蕃殖場所トシテ最モ適當セルヲ以テ本試験場所ヲ此ノ區域ニ選ベリ、面積約十萬坪ヲ算ス、灣内水深ハ干潮時三米以下ニシテ試験場所ハ〇・五米ヨリ一・五米内外ニシテ潮水ノ流通良好ナリ、強雨ニ際シテハ淡水注入ノ爲多少鹹度ノ低下ヲ見ルモ甚ダシキ影響ナキモノノ如シ、試験場所別紙略圖ニ示セリ。

三、海綿及海藻ノ種類

試験場所ニ生棲ノ海綿及海藻ノ種類調査ノ結果左ノ如シ。

(一) 海綿ノ種類

本縣沿岸ニ産スル海綿ハ殆ンド球形ニ成長セルモノナレ共棲息場所ニヨリ些少ノ相異アリテ兔耳狀又ハ扁平ニ成長セルモノアリ。

主ニ *Euspongia irregularis* Idlf トス。

(二) 海藻ノ種類

主ナルモノヲ列記スレバ左ノ如シ。

久米島産

- 1. *Cystoseira higuella* ヤバネモク
- 2. *Sargassum sandei* Rhd
- 3. *Cystoseira trigueta* Jag ミツメモク
- 4. *Laurencia obtusa* (Huds Lamour) ミツヂソク
- 5. *Acanthophora orientalis* トゲノリ
- 6. *Padina aushatis*

宮古島産

- 1. *Sargassum microphyllum* コバモク
- 2. *Cystoseira trigueta* Jag ミツメモク
- 3. *Sargassum selliguanum* キシウモク
- 4. *Padina aushatis*

四、試験施行期日及投入數量

(一) 島尻郡具志川村島島地先

昭和二年 自三月六日 至三月十六日

(イ) 「コンクリート」盤製作及運搬作業

自三月六日 至三月十日

「セメント」大樽二十樽ヲ使用シテ「コンクリート」丸盤九千五百個ヲ製ス。

(ロ) 海綿種苗採集及植付投入作業

自三月十一日 至三月十六日

(ハ) 投入場所及數量

A	點 (別紙圖面ノ通り)	七千五百個
B	點 同	五百個
C	點 同	四百個
D	點 同	三百個
E	點 同	三百個
F	點 同	三百個
G	點 同	二百個
計		九千五百個

(二) 宮古島平良町松原地先

昭和二年 自三月二十一日 至三月二十五日

(イ) 「コンクリート」盤製作及運搬作業

自三月二十一日 至三月二十五日

「セメント」大樽二十個ヲ使用シテ「コンクリート」丸盤八千五百個ヲ製ス。

(ロ) 海綿種苗採集及植付投入作業

自三月二十六日 至三月三十日

(ハ) 投入數量及場所

A	點 (別紙圖面ノ通り)	五千個
B	點	五百個
C	點	八百個
D	點	千五百個
E	點	七百個
計		八千五百個

五、附 著 材 料

海綿種苗附著材料トシテ「コンクリート」盤、十六番「アルミニウム」線ヲ使用セリ。

「コンクリート」盤ハ細砂三・五「セメント」二(脆弱ナル貝殻ヲ混入スルコト少キ細砂ノ場合ハ四ノ割合ニテ適當ナリ)ノ割合ヲ以テ混合シ海水ヲ加ヘテ充分攪拌セルモノヲ砂濱上ニ並置セシ亞鉛板製直徑二十糎高サ二・五糎ノ圓形ノ鑄型ニ流シ込ミ平鑊ヲ以テ其ノ上面ヲ平滑ニシテ、三分時ヲ經テ鑄型ヲ抜き取り其圓盤ノ中央ニ徑二糎位ノ鐵線ヲ以テ小孔ヲ穿テ放置乾固セリ。

前記「コンクリート」盤ハ一晝夜ヲ經過スレバ運搬ニ支障ナキ迄ニ乾固ス。

「アルミニウム」線ハ十五糎内外ノ長サニ切斷使用ス。

六、海綿種苗

増殖用海綿種苗ハ人夫ヲ使用潜水セシメ、庖丁ヲ以テ岩石ニ附著セル天然海綿ヲ握リ潰サザル様注意シテ切離シ採捕セリ、採捕セルモノハ「アルミニウム」線ニ挿シツツ採捕ヲ續ケ相當數量ニ達セル時ハ海中ニ沈下シ置キ植付ノ必要ニ應ジ取揚ゲ凡ソ三纏乃至四纏立方ノ大サニ截斷シ種苗トセリ。

截斷及植付作業ハ養殖場ニ近ク運搬上便利ナル場所ノ渚汀ニテ施行セリ。

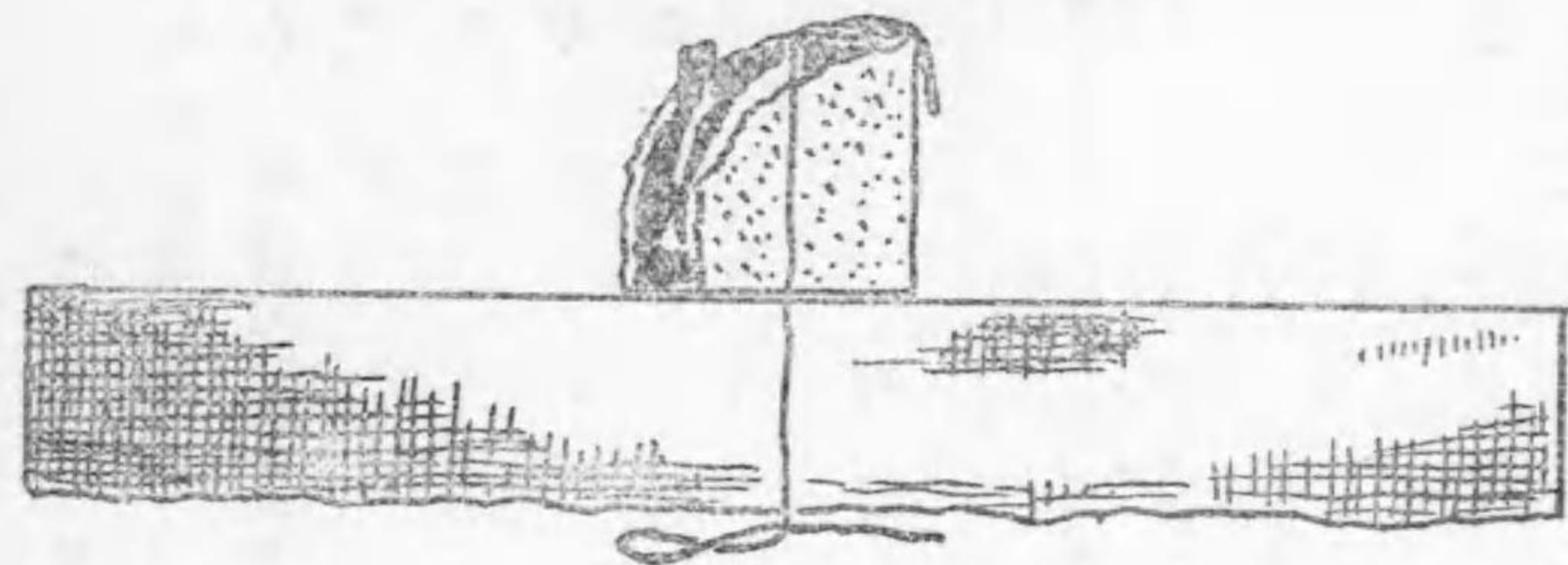
七、植付投入

截斷セル種苗ハ「アルミニウム」線ヲ以テ「コンクリート」盤ニ結付植附セリ其ノ方法ハ「アルミニウム」線ノ一端ヲ釣状ニ曲ゲ種苗ノ截斷面ヲ「コンクリート」盤ニ密著セシメテ同線ヲ貫通シ、盤ノ裏面ニ於テ種苗方針金ト共ニ離脱セザル様「アルミニウム」線ノ他端ヲ圓ノ如ク撚ジ結ビタリ。

前記ノ如ク植付シタル盤ハ直チニ海中ニ安置シテ、三百ノ數量ニ達シタル時傳馬船ニ積ミ速ニ試驗地ニ運搬ノ上海士ヲシテ投入セシメタリ。

植付盤積ミ込ミヨリ投入了スル迄ニハ約三、四十分間ヲ要スルヲ以テ、此際日光ノ直射ヲ受クル時ハ海綿體ノ表面乾燥シ斃死セシムル虞アリ、故ニ種苗海綿ヲ潰サザル様植付盤ノ裏面ヲ上向トシテ日光ヲ避ケツツ積ミ込ミ、又ハ植付盤ヲ上向ケトシテ積込ミタル際ハ藁或ハ帆布ヲ蔽ヒテ運搬シ六十纏乃至一米内外ノ間隔ヲ保チテ、一坪

海綿植付斷面圖



ニ付六個位ノ割合ヲ以テ投入セリ、植付投入ヲ終リタル際ハ海士ヲ潜水セシメテ投入盤ノ間隔及轉覆セルモノ等ノ手入ヲナセリ。

八、投入後ニ於ケル植付海綿ノ狀況

植付投入セル海綿ハ一晝夜後ニ於テハ別段異狀ヲ認メザルモ三日目ニ於テハ截斷面稍鼠色ヲ帯ビ、四日目ニハ黑色ノ度加ハリ「コンクリート」盤ニ附著セル如キ模様ノモノアリ。

五日後ニハ截斷面全體黑色ヲ呈シ植付種苗ノ生死ヲ見分ケ得ルニ至リ、枯死セントスルモノハ表皮部ノ黑色漸次褪色ノ模様アリ、一週間後ニ於テハ截斷面ハ表皮部ト殆ンド同様ノ濃黑色トナリ、圓盤ニ附著確實トナルモノヲ見ル。

九、試驗場所ニ於ケル水温比重

(一) 島尻郡具志川村島島地先

日	時	天氣	雲量	風向	風力	潮候	氣温	水		備考
								表面	底層	
四月二十九日	午前	曇	八	東	二	下潮	二五、〇	二四、六	二四、六	
四月三十日	午後	同	九	南東	二	同	二六、〇	二六、五	二六、五	
五月十一日	午後	晴	五	南東	三	同	二四、五	二四、五	二四、四	
五月十二日	午前	曇	一〇	南東	二	同	二四、五	二四、三	二四、三	
五月十四日	午前	晴	一	東	一	同	二四、五	二一、〇	二一、〇	五月三日降雨

(二) 宮古郡平良町與那覇灣

日	時	天氣	雲量	風向	風力	潮候	水面	底層	表面	底層	備考
午四前月十一日	時日	曇	一〇	東	一	下潮	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、二二	底層二米
午四前月十七日	時日	同	八	南東	二	同	二〇、〇	二〇、〇	二四、五六	二三、八五	
午四前月十八日	時日	晴	七	南	三	同	二〇、五	二〇、七	二五、二四	二五、五九	
午四前月十九日	時日	曇少雨	一〇	南	二	同	二〇、七	二〇、五	二五、三八	二五、三八	
午四後月十一日	時日	晴	三	北	一	上潮	二三、五	二三、二	二四、七三	二四、七〇	四月十日豪雨あり
午四前月十二日	時日	同	四	北	一	同	二二、〇	二二、三	二四、一五	二四、一二	
午四前月十三日	時日	同	一	南	二	同	二四、二	二四、五	二四、二八	二四、二三	

午五前月十五日	時日	曇少雨	一〇	東	一	同	二一、七	二一、五	二一、五	二五、二八	二五、〇八
午五後月十六日	時日	曇少雨	一〇	東	一	同	二三、三	二三、三	二三、三	二四、〇二	二三、四〇

昭和二年度

宮古郡下良町與那那湖

日	時	天	氣	雲	風	向	力	湖	候	表	底	層	温	表	底	層	重	備	考
午四 前月 十一 時日	同	同	同	同	同	同	同	同	下湖	二四、二	二四、五	二四、二八	二四、二八	二四、二八	二四、二八	二四、二八			
午四 前月 十二 時日	同	同	同	同	同	同	同	同	上湖	二二、〇	二二、三	二四、一五	二四、一五	二四、一五	二四、一五	二四、一五			
午四 前月 十三 時日	晴	晴	晴	晴	北	北	一	同	上湖	二三、五	二三、二	二四、七三	二四、七三	二四、七三	二四、七三	二四、七三		四月十日豪雨あり	
午四 前月 十四 時日	曇	曇	曇	曇	南	南	二	同	上湖	二〇、七	二〇、九	二五、三八	二五、三八	二五、三八	二五、三八	二五、三八			
午四 前月 十五 時日	曇	曇	曇	曇	南	南	三	同	上湖	二〇、五	二〇、七	二五、二四	二五、二四	二五、二四	二五、二四	二五、二四			
午四 前月 十六 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	二	同	上湖	二〇、〇	二〇、〇	二四、五六	二四、五六	二四、五六	二四、五六	二四、五六			
午四 前月 十七 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三			
午四 前月 十八 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三			
午四 前月 十九 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三			
午四 前月 二十 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三			
午四 前月 二十一 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三			
午四 前月 二十二 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三			
午四 前月 二十三 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	一九、〇	一九、〇	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三	二五、四三			

午五 前月 十一 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十二 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十三 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十四 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十五 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十六 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十七 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十八 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 十九 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 二十 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 二十一 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 二十二 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			
午五 前月 二十三 時日	曇	曇	曇	曇	東	東	一	同	上湖	二二、七	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五	二二、五			

昭和二年度沖繩縣水産試験場事業報告

目次

	頁
漁撈部	
鯉漁業試験.....	三六
鮪延縄漁業試験.....	四六
鯉餌料焚入漁業試験.....	五二
餌料鱈酸素利用運搬試験.....	五六
製造部	
鯉節製造試験.....	六五
鮮魚冷蔵輸送試験.....	七六
冷蔵庫ノ經營.....	一〇七
雲丹製造試験.....	一〇八
養殖部	
海綿養殖試験.....	一一〇

漁撈部

鯉漁業試驗

一、方法經過並結果

本年ハ最初琉球丸ニ二十四名乗込四月下旬ヨリ試驗ニ著手セシガ、六月迄ハ鹿兒島灣内餌料鱧ニ依リ六月以後ハ本縣産鱧ヲ使用シ専ラ魚場探見ヲナセリ、然ルニ七月ニ至リテ水温ノ上昇甚シク魚群ハ各漁場共相當洄游スルモ多クハ比較的深層ヲ游泳シ、餌付不良ニシテ釣獲少カリシヲ以テ八月末ヨリ再ビ鹿兒島灣内餌料鱧ヲ使用シ九月中旬ニ至ル迄施行セルモ餌付不良ニシテ漁獲上ラズ、今縣下ノ漁況ヲ通覽スルニ

二月 本縣下當業者ハ本月末ヨリ已ニ始業セルモノ有リテ宮古近海並ニ本島西沿岸ニハ相當魚群ヲ見ルモ荒天多ク出漁意ノ如クナラズ。

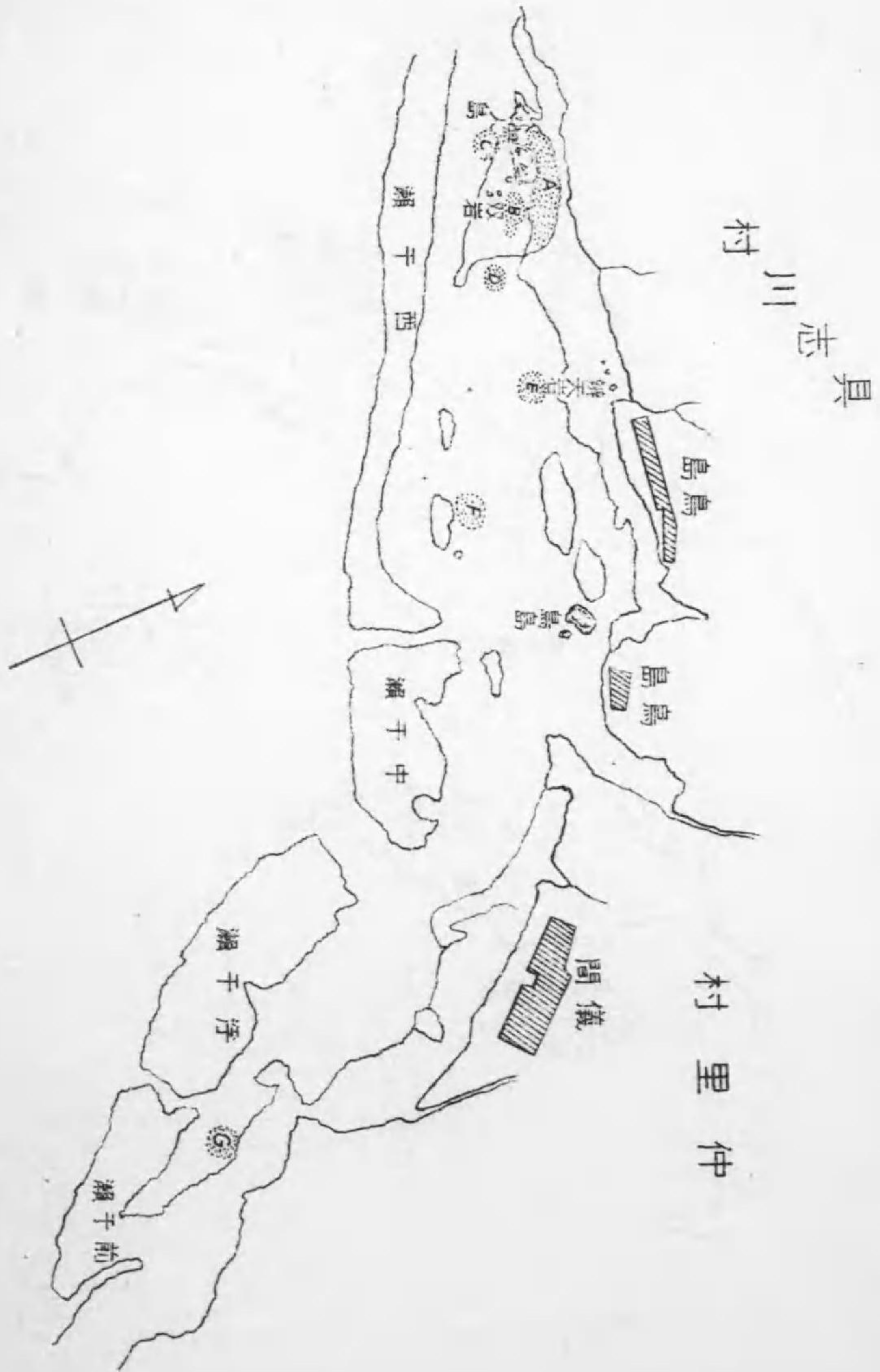
三月 中旬ニ入り殆ド全縣下漁船活動ヲ開始シ船數百二、三十艘ニ達スルモ尙漁事閑散ナリ。

四月 本島近海各漁礁大中判多ク一航海二千斤又八月九千斤ノ漁獲ヲ算スルモ有リ、下旬ヨリ小判漁盛トナリ一隻月小判八千五百斤大中六千斤ノ好漁ヲ示セルアリテ一般ニ豐漁ナリ。

五月 一航海九千斤、月一萬五千斤ノ好況ヲ傳フル漁船ヲ見ルニ至リ主トシテ久米島及粟國近海ニ漁事多ク又大九會根方面ニハ大中判ノ漁獲盛ナリ。

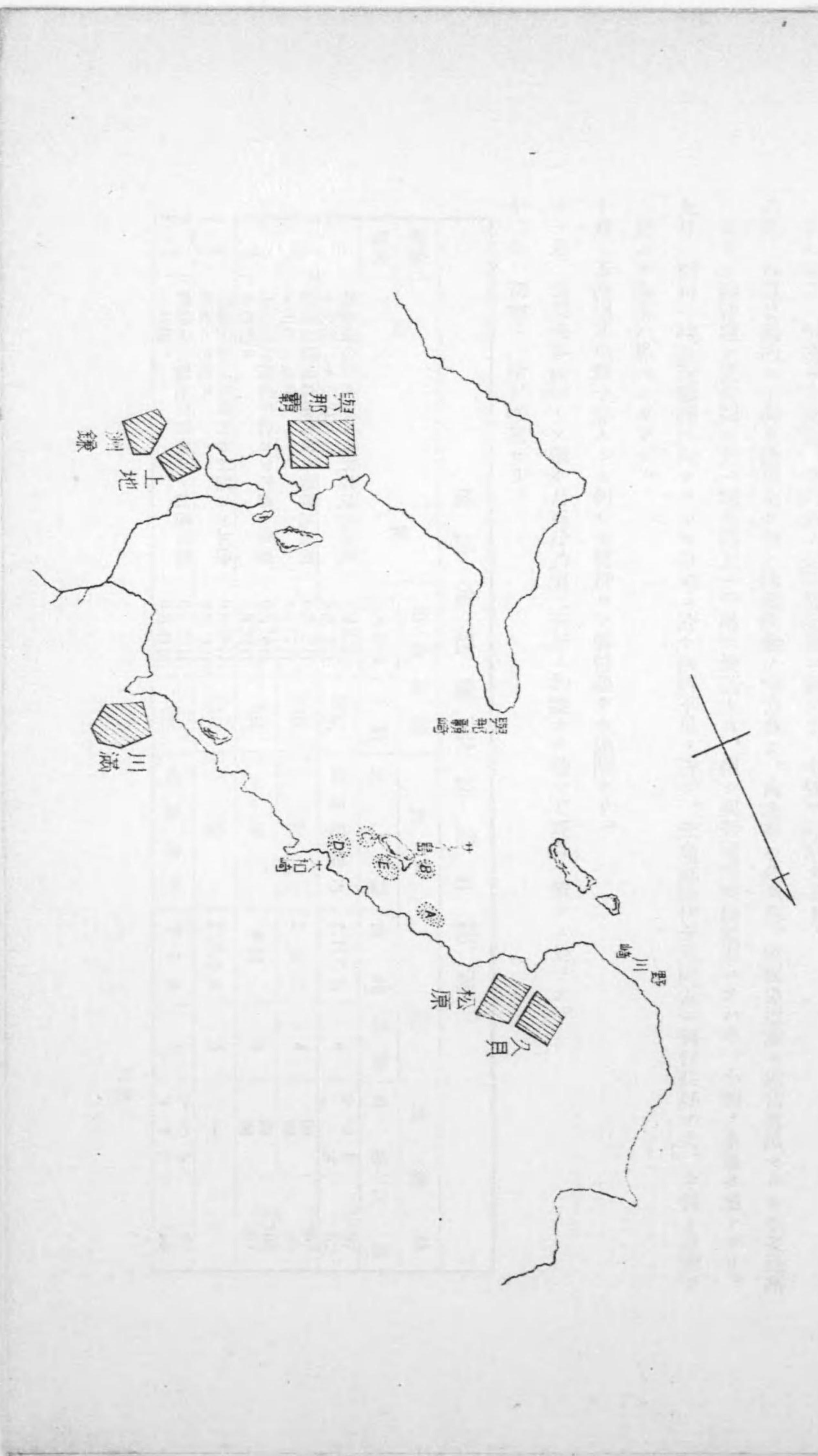
六月 本月モ引續キ好況ニシテ良ク八千斤ノ水揚ヲナセルアリ多クハ大判ニシテ二十斤ヲ超ユル飛大交リノ漁獲アリ。

圖先地村里仲村川志具郡尻島





先地原松町良平郡古宮





七月 本月ニ入り水溫甚シク上昇シ漁況頓ニ衰ヘ最モ多キ漁獲船モ月五千斤ニ足ラズ、但シ他府縣船殊ニ鹿兒島船ニ於テハ前月ニ引續キ赤尾島、魚釣島ノ百尋線近海ニ於テ小、中判ヲ好漁セリト。

八月 水溫普遍的ニ上昇シ漁事全ク無ク休業状態ノ地方多シ、尙魚群ハ久米島、粟國島近海ニ相當游泳セルモ水溫過高ノタメ餌付悪ク荒天勝ニテ一箇月釣上一千尾ヲ最高トス、但シ與那國西表島近海ニテハ中、小判ノ多獲ヲ續ケタリ。

九月 初旬一時漁況順調ニ向ヒタルモ中旬ニ於テ餌料不足ヲ告ゲ、先島近海伊平屋附近ニ餌付良好ノ大、中判ノ群游ヲ見ルモ漁事ハ思ハシカラズ。

十月 各漁場共魚群ヲ認ムルモ何レモ餌持ニテ餌付悪ク水揚閑ナリ。

十一月 依然漁事恢復セズ漸ク月百斤乃至二百斤ノ釣獲ニテ殆ンド經費ヲ償フニ足ラズ。

十二月 初旬ニハ殆下終業セリ。

琉球丸航海別漁業日誌表

航海 順次	船	要	出漁期間		餌			料		漁獲	
			出入月日	日數	漁場	魚種	漁數	魚種	尾數		
1	那覇發鹿兒島灣内餌料盡込出漁 ヲ那覇ニテ魚揚ス	4月23日 5月7日	17日	鹿兒島灣内	たれぐち	4	かつを	1,027 62			
2	那覇發鹿兒島灣内餌料盡込出漁 ヲ山川ニ魚揚ス	5月8日 5月17日	10日	同	ひらび	4	同	257 20			
3	山川發同所餌料盡ニテ出漁ヲ那覇 ニ魚揚ス	5月18日 5月22日	5日	同	同	4	同	1,105 307			
4	那覇發鹿兒島灣内餌料盡ニテ出漁 那覇ニ魚揚ス	5月25日 6月4日	11日	同	たれぐち	4	—	—			
5	那覇發本縣産餌料魚ニテ出漁那覇 ニ魚揚ス	6月23日 6月24日	2日	那覇港外	するる	5	かつを ほたて	20 115			

6	同	6月28日 6月29日	2日	同	同	4	—	—
7	同	6月30日 7月1日	2日	同	同	7	—	—
8	那覇發大島産餌料ニテ出漁ヲ那覇ニ魚揚ス 前回持越餌料ニテ出漁ヲ那覇ニ魚揚ス	7月4日 7月7日	4日	大島焼内灣	ぐるぐん	6	—	—
9	同	7月8日 7月11日	4日	前回ノ持越		—	—	—
10	同	7月14日 7月15日	2日	同		—	かつを	104
11	那覇發本縣産餌料魚ニテ出漁ヲ那覇ニ魚揚ス	7月20日 7月21日	2日	那覇港外	するる	6	同	220
12	同	7月25日 7月27日	3日	同	同	6	—	—
13	同 陸素利用活魚運搬試験ヲ兼テ行フ	8月18日 8月20日	3日	前慶良間	同	4	—	—
14	那覇發鹿兒島灣内餌料積込出漁ヲ那覇ニ魚揚ス 陸素利用活魚運搬試験ヲ兼テ行フ	8月25日 9月8日	15日	鹿兒島灣内	たれぐち	4	—	—
15	前回持越餌料ニテ出漁ヲ那覇ニ魚揚ス	9月9日 9月10日	2日	前回ノ持越		—	—	—

琉球九漁場別漁業日誌表

漁獲日時	漁場	漁場状況			漁獲物	摘要
		天候	風	潮		
5月5日 AM 11h 30m	(イ) 硫黄島島 N 10哩	B	S ₃	NE	21.1	小 185尾 62尾
5. 6 PM 1h 00m	(ロ) 久米島 N 7哩	C	NE ₁	E	23.0	小 55
5. 6 PM 2h 30m	(ハ) 久米島 NW 2哩	C	NE ₃	E	23.1	小 787

5. 16 AM 8h 30m	(ニ) 口之島 NW 5哩	B	NE ₃	E	21.7	小 44	30
5. 16 AM 11h 00m	(ホ) 同上	B	NE ₃	E	21.7	小 213	—
5. 20 AM 8h 00m	(ヘ) 硫黄島島 SW 8哩	C.R	W ₃	E	22.4	小 230	97
5. 20 PM 1h 30m	(ト) 相之會根、伊平屋會根中間	C.R	SW ₃	SE	22.2	小 105	95
5. 20 PM 4h 30m	(チ) 同上	C.R	SW ₃	SE	22.3	小 740	115
5. 21 PM 5h 30m	(リ) 久米島 SW 2哩	R	SE ₃	SE	23.5	小 30	—
6. 24 AM 9h 30m	(ヌ) 粟國島 SW 1哩	C	NE ₄	SW	25.2	小 20	ノーダ鯉 115
7. 14 PM 4h 00m	(ル) 粟國島 W 10哩	B	E ₃		28.5	大 104	—
7. 20 PM 4h 30m	(ヲ) 久米島島 NE 2哩	C	S ₂	S	27.5	小 220	—

琉球九鯉漁業試験日誌

第一航海

四月二十三日 那覇港ヲ出帆シ鹿兒島ニ向フ。
 四月二十五日 鹿兒島灣山川ニ寄港シ釣竿ヲ積込ノ上鹿兒島港碇泊餌料購入ノ豫約ヲナス。
 四月二十六日 出漁準備ヲ整ヘ餌場櫻島ヘ廻航ス。
 四月二十七日 早朝餌料罫四籠ヲ積込ミ出漁ス、但シSEノ風強ク、加之機關ノ故障度々起リ充分ノ探査ヲナス能ハズ。
 四月二十八日 辛ジテ諏訪島近海迄航走セルモ天候險惡トナリ、屋久島一湊ニ引返シ碇泊ス。

五月四日 天候恢復セシヲ以テ同港拔錨シ諏訪、悪石、寶、横當等ノ漁礁ヲ探索ス、水色良好表面水温二十三度五、六分ナレドモ魚群ヲ見ズ。

五月五日 午前十一時半硫黄島島N十湊ノ沖合ニテ鮪交リ鯉群ニ會フ、投餌スレドモ餌付不良、水温廿一度一分ナリ、其儘航続十二時頃曳繩ニテ釣獲セルヲ機トシテ餌付シ鯉百八十五尾、鮪六十二尾ヲ釣獲シテ伊平屋會根ニ向フ、午後九時頃ヨリ伊平屋島近海ニ漂泊ス。

五月六日 早朝始動シ粟國島、久米島島近海ヲ調査スルモ魚影ヲ認メズ、午後一時久米島北七湊沖ニテ魚群ヲ見シモ餌付不良ニシテ小判鯉五十五尾ノ漁獲ヲナシ更ニ久米島NW二湊ノ沖ニテ小判群ニ會フ、餌付良ク七百八十七尾ヲ揚ゲ餌料盡キ久米島製造場ニ魚揚ヲナス。

五月七日 那霸ニ歸港ス。

第二航海

五月八日 那霸發山川へ向フ。

五月十日 山川港ニ投錨ス。

五月十二日 同港ニテ餌料眞鱈(ひらご)四籠ヲ積ミ早朝發シテ口ノ永良部島近海ニ至ルモ魚群ヲ認メズ。

五月十三日 天候不穩トナリ屋久島一湊港へ避難ス。

五月十六日 同港拔錨午前八時半口ノ島近海ニテ小判群ヲ認メ鯉四十四尾、鮪三十尾ヲ釣獲ス、附近一般ニ鳥卷多キモ餌付悪シ、午後二時半頃迄數回流シ合計二百十三尾ノ小判鯉ヲ釣り餌了へ山川ニ引返ス。

五月十七日 山川港著漁獲物ヲ賣却シ餌料購入ノ約ヲナス。

第三航海

五月十八日 早朝眞鱈四籠ヲ活ケ山川ヲ出帆ス。

五月十九日 七島各漁礁ヲ調査スルモ魚群ニ會ハズ、水温二十一度乃至二十三度ナリ。

五月二十日 硫黄島島SW八湊ノ所ニテ小判魚群ニ會ヒ餌付稍良ク鯉二百三十尾、鮪九十七尾ヲ揚グ、更ニ南進シテ相之會根ト伊平屋會根トノ中間附近通過ノ際正午魚群ヲ認ムルモ何レモ餌付良好ナラズ鯉百五尾、鮪九十五尾ヲ漁獲セリ海況良キ爲尙見廻ヲ續ケ四時頃一流鯉七百四十尾、鮪百十五尾ヲ得、伊平屋會根ニ向フ午後十一時ヨリ伊平屋附近ニ漂泊ス。

五月二十一日 早朝大正會根ニ向フ同會根ニハ鯉群充滿スルモ餌付至ツテ悪シ、但シ天候CR、風SE、潮流SE、水温二十三度ナリ。

粟國島へ針路ヲ取ルモ魚影ヲ認メズ、久米島SW二湊沖ニ至リ午後五時半小判鯉ニ會ヒ餌付不良ニシテ僅カニ鯉三十尾ヲ釣り餌料ヲ終了シ久米島製造場ニ魚揚ス。

五月二十二日 那霸ニ著ス。

第四航海

五月二十五日 那霸發鹿兒島ニ向フ。

五月二十六日 天候悪ク大島古仁屋ニ避難ス。

五月二十八日 山川へ向ケ同港出帆ス、尙波浪高シ。

五月三十日 山川ニ入港ス。

五月三十一日 餌料鱈四籠ヲ得テ出漁ス。

六月一日 七島、大島、近海各漁場共魚影ヲ認メズ、但シ天候C、風S、潮SE、水溫二十四度五、六分ナリ。

六月二日 中之會根附近ニテ鳥卷ニ會ヒ投餌スルモ魚足早ク餌付困難ナリ、但シ天候B、風SE、潮SE、水溫二十五度三分ナリ、大正會根近海ハ魚群ナシ更ニ南下ス。

六月三日 第二琉球會根ヲ探査スルモ魚群ヲ見ズ天候悪ク久米島ニ避難ス、餌料斃死甚シ。

六月四日 風力六ヲ示シ餌料殆ンド死滅シ繫船モ困難トナリ那覇ニ直航避難ス。

集魚燈試験及海洋觀測ノ爲本試験ヲ中止ス。

第五航海

六月二十三日 早朝那覇港外ニテする五籠ヲ積ミ出帆ス、喜屋武岬S二十哩沖ニ至リ續イテSWニ二十五哩航走シ、尙Wニ三十哩進ミテ鰹ヲ探見スルモ魚群ヲ見ズ、但シ天候B、風S、水溫二十四度乃至二十五度五分ナリ。

六月二十四日 午前九時半粟國近海ニテ鳥卷ニ會フ餌付悪ク惣太鰹百十五尾、鰹二十尾ヲ得タルノミニテ餌盡キ那覇ニ歸港ス、但シ天候B、風N4、水溫二十五度ナリ。

餌料不足ノ爲當分休漁ス。

第六航海

六月二十八日 午前六時那覇港外ニテする四籠ヲ得テ漁場ヘ向フ、慶良間島SW十五哩沖續イテ大丸會根共ニ小判群ノ餌付ニ苦心セシモ餌付悪ク漁事皆無ニシテ第二琉球會根ニ向フ、但シ天候B、風S3、水溫二十六度乃至二十六度六分ナリ。

六月二十九日 午前六時半第二琉球會根ニ於テ大判鰹群ノ餌付ヲ行フモ餌付スルモノナシ、又久米島SW二哩沖ニテ小判鰹ヲ認メタルモ餌ニ付カズ、餌料ヲ終了シ那覇ヘ歸港ス、但シ天候B、風S、潮S、水溫二十七度三分乃至二十八度二分ナリ。

第七航海

六月三十日 那覇港外ニテする七籠ヲ活ケ久米島西方ニ向フ、午後四時同所近海ニテ鳥卷ヲ見投餌スルモ餌持魚ニシテ餌付無シ依リテ久米島東岸ニ假泊ス、但シ天候B、風S、潮S、水溫二十七度六分ナリ。

七月一日 前日ノ漁場ヲ見廻リシモ魚群ヲ認メズ、十一時粟國島ニ向フ途中魚群ヲ見ズ午後八時那覇ニ入港ス、但シ天候B、風S、水溫二十七度七分ナリ。

第八航海

七月四日 本縣近海餌料漁獲ナク大島ニ漁獲アル旨通報ニ接シ那覇拔錨大島ニ向フ。

七月五日 大島焼内灣ニ投錨ス、午後四時ぐるくん六籠ヲ入レ出帆ス。

七月六日 沖永良部東海ヲ探査中機關故障ノタメ那覇ニ向フ。

七月七日 那覇歸港。

第九航海

七月八日 出漁渡名喜島西十哩ノ所ニ鰹群ヲ認ムルモ餌ニ付カズ、午後四時久米島近海ニテ鳥卷ニ會ヒタルモ餌付悪ク漁事ナシ久米島西近海ニ漂泊ス。

七月九日 早朝ヨリ午後七時頃迄久米島西北竝ニ第二琉球會根近海ヲ探査セシニ相當ノ魚群アルモ餌付悪シ、但シ天候

B、風SW、潮W、水溫二十八度四分乃至二十九度二分ナリ。

七月十日 宮古會根西、大九會根等島巻モノシ、午後六時半南大九會根ニ於テ魚群ニ會フモ餌付不良ニシテ漁獲ナシ、但シ天候B、風S、潮SE、水溫二十八度四分乃至二十九度ナリ。

七月十一日 波浪高ク天候險惡ニテ那覇ニ歸港ス。

第十航海

七月十四日 六時半持越餌料ニテ粟國近海へ向フ、約三時間附近ヲ見廻リ午後四時粟國島W十哩ノ所ニ大判魚群ヲ餌付百四尾ヲ得餌料終了シ、即日久米島製造場ニ魚揚ス。

七月十五日 那覇へ歸港ス。

第十一航海

七月二十日 那覇港外ニテする六籠ヲ積込ミ出帆ス、粟國島ノ近海ヲ探査スルモ鳥巻ヲ見ズ更ニ久米島島ニ向ヒシガ小判群ニ會フモ餌付惡シク四時頃ヨリ六時半頃迄ニ三流シテ漸ク二百二十尾ヲ釣獲シ、餌盡キ漁獲物陸揚ノタメ久米島ニ入港ス。

七月二十一日 那覇ニ著ス。

第十二航海

七月二十五日 八時半する六籠積込出帆セシモ、途中機關ニ故障起リテ慶良間ニ投錨停泊セシタメ、餌料全滅止ムナク那覇ニ向フ。

七月二十七日 那覇ニ歸航ス。

第十三航海

自八月十八日至八月二十日間、餌料鱈酸素利用運搬試験ヲ施行ス。

第十四航海

八月二十五日 那覇出帆鹿兒島ニ向フ。

八月二十六日 荒天ノ爲メ古仁屋ニ避難ス。

八月二十七日 同所拔錨。

八月二十八日 鹿兒島ニ入港ス。

八月二十九日 餌料購入ノ約チナス。

八月三十日 機關故障ヲ生ズ。

八月三十一日 機關修繕チナス。

九月一日 櫻島ニテ餌料積込ト同時ニ酸素注入試験チナシツツ漁場へ向ケ出帆ス。

九月二日 天候險惡ニテ屋久島一湊ニ避難ス、餌料死滅甚シ。

九月四日 午前五時半同所拔錨七島各漁場共魚群ヲ見ズ、但シ天候B、風W、水溫二十八度一分乃至二十九度二分ナリ。

九月五日 荒天ニテ大島焼内灣ニ避難ス。

九月六日 午前六時半出帆硫黃島ニ向フ、夕方同島附近ヲ旋航セシモ魚群ヲ認メズ、但シ天候B、風N、水溫二十八度ナリ。

九月七日 伊平屋會根近海モ魚群ナシ、但シ天候B、風N、水溫二十八度五分ナリ更ニ粟國島方面ニ至リ午後三時ヨリ

五時半迄大判鯉群ノ飼付ニ苦心スルモ餌付全クナシ、但シ天候C、風S、水溫二十九度二分ナリ。

九月八日 前日ノ漁場ヲ調査スルモ波高ク魚群ヲ認メズ那覇へ歸港、但シ天候B、風N、風力六、水溫二十八度七分ナリ。

第十五航海

九月九日 午前八時半那覇發喜屋武岬S三十湊沖附近ヲ調査スルモ魚群見當ラズ、但シ天候B、風N5、水溫二十八度七分ナリ、更ニ光徳會根ニ至リ魚群ニ會フモ波浪高ク餌付不良ナレバ北上粟國ニ向フ。

九月十日 粟國近海漁場モ同様波高ク鳥影ヲモ認メザレバ那覇ニ歸港ス。

二、水溫觀測ノ結果

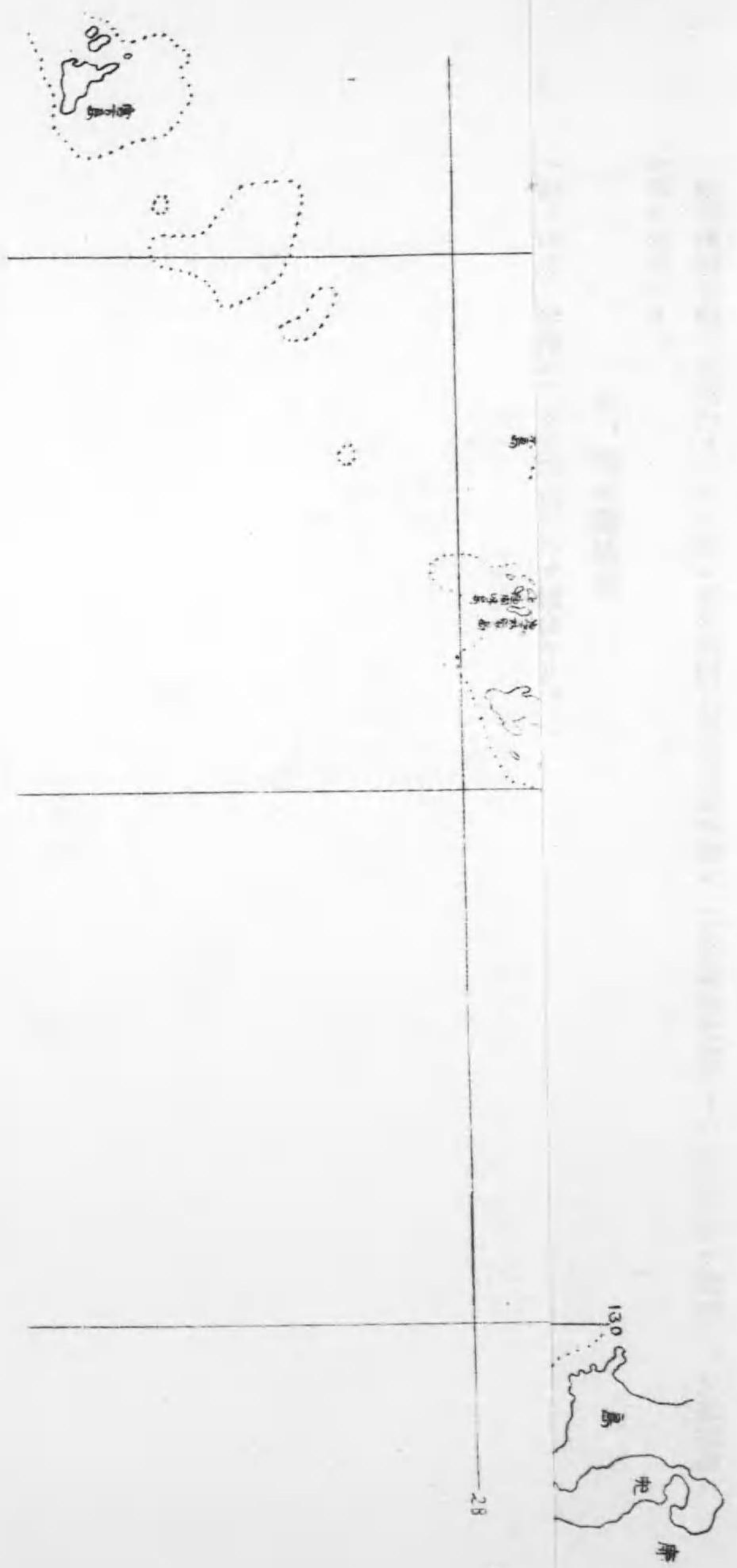
本漁業試驗中觀測セル表面水溫ニ就キ自鹿兒島至宮古線附近ノモノヲ比較研究スルニ四、五月ノ交ニ於テハ本縣近海ヨリモ七島近海高溫ナリ。

從來四、五月ノ交ニ於テハ鯉漁場トシテハ本縣近海ヨリモ七島近海ガ優越セル情勢ナルガ、水溫關係ニ起因スルニアザルカ他日ノ調査ヲ俟タントス。

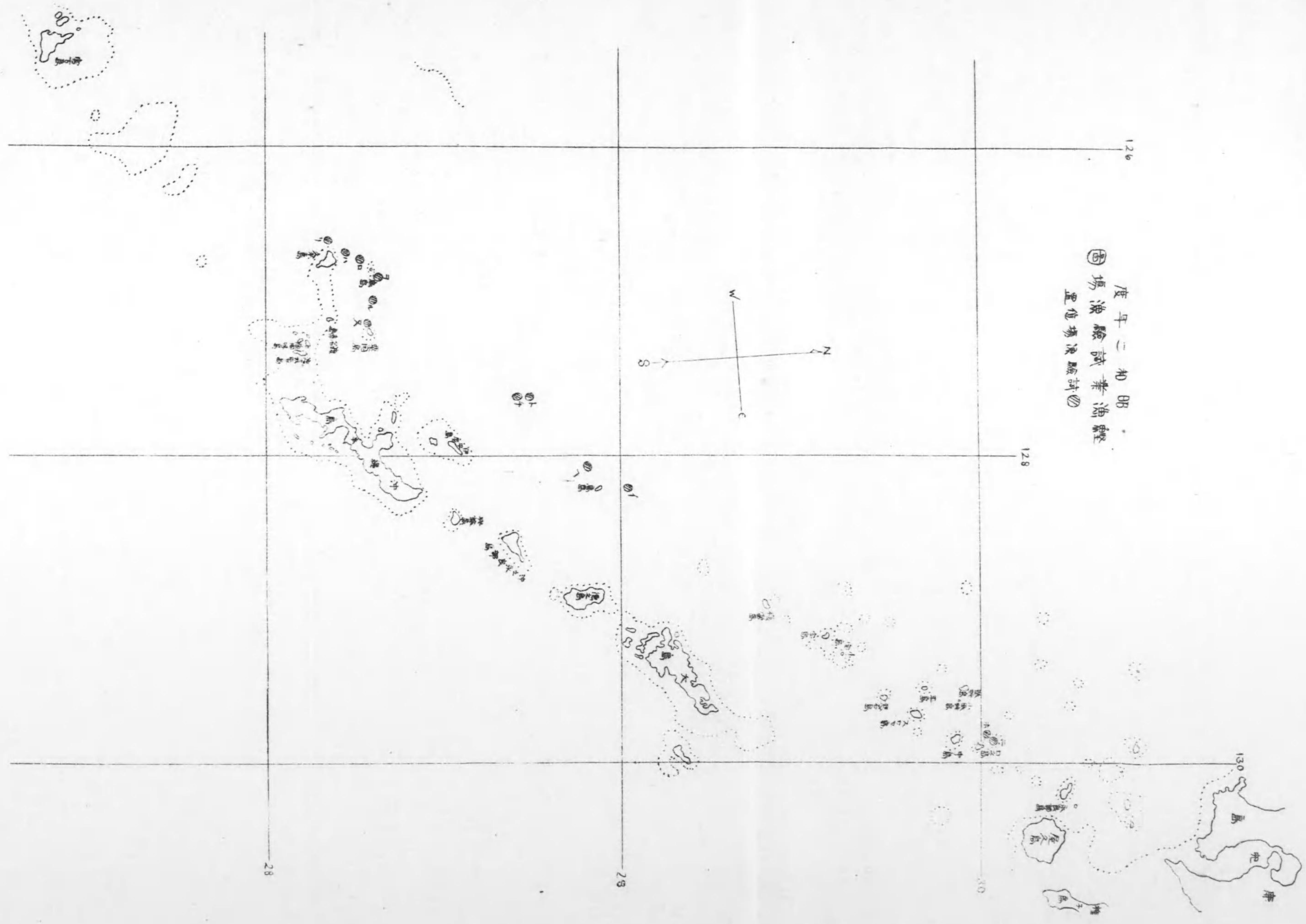
鮪延繩漁業試驗

一、施行方法及經過

前年ニ繼續シテ施行ス、本年度鮪漁業試驗ハ指導船圖南丸建造竝ニ航海準備等ノタメ著手遅レ、亦三月初ヨリ鯉漁業試驗ニ取掛リシ關係上、試驗期間ハ短カカリシモ操業區域ハ比較的廣汎ニ互リシヲ以テ、斯業經營上ノ新資料トナルモノ尠カラズ。



一、施行方法及經過
 前年ニ繼續シテ施行ス、本年度鮪漁業試験ハ指導船圖南丸建造並ニ航海準備等ノタメ著手遅レ、亦三月初ヨリ鮪漁業
 試験ニ取掛リシ關係上、試験期間ハ短カカリシモ操業區域ハ比較的廣汎ニ互リシヲ以テ、斯業經營上ノ新資料トナルモ
 ノ尠カラズ。



二、試験ノ方法

使用漁船百噸二百馬力スクナー型ニ船長機關長無線局長外漁夫二十名乗組電動ラインホーラーヲ使用シ、左記延繩八十鉢ヲ使用セリ。

三、鮪廻繩構造

一鉢ノ構造 幹繩ハ二十五尋切八本ヲ結合セリ。

第一接目ニ短枝、第二ニ長枝、第三ニ短枝、第四ニ浮子繩、第五ニ短枝、第六ニ長枝、第七ニ短枝、第八ノ端ニ浮繩ヲ結び付ク、而シテ短枝五尋、長枝十五尋材料ハ何レモこゝるたゝ染まにら繩ヲ使用シ、幹繩二十匁子繩十匁枝繩十二匁付ナリ、各枝繩ノ先端鈞元極細九本合せわいや一五尋ヲツケ鈞ハ丹吉ノ白角形四寸二分ヲ使用セリ、浮子ハ徑四寸長サ三尺ノ桐丸太二本ヲわいや一ニテ縛合シほんでん竹取付ノタメ棕呂ノ紐ヲ付ク、ほんでん竹ハ末口徑七分長サ十二尺先端ニ棕呂皮ヲ總狀ニ結付ス。

旗赤、白各木綿巾四角ノ一方ニ竹心ヲ入レタルモノヲ交互ニほんでん竹ヲ結付ス、又とつたりノ端ニハ晝間ハ浮標樽夜間ハだるま燈若ハるびす燈ヲ結び付ク、五鉢又ハ十鉢目ニハ桐丸太ヲ使用セズこゝるたゝ塗リテつく製徑一尺五寸位ノ黒球浮 Floating buoy ヲ使用シ中浮子ニハ浮樽ヲ用フ。

鮪延繩漁業試験日誌表

年月日	天候	風	氣温	表面水温	潮流	操業回数	漁場	餌種	料類	揚繩時	漁獲物	摘	要
2, 12, 10												出帆準備ナシ	

2.	12.	11	B	N ₂	28.7 26.0															那覇出帆座間味ニテ油差乗組漁夫雇入ノタメ宮崎縣油津へ向フ
"	"	12	B	NE ₂	26.0 22.0															航行
"	"	13	B	NNE ₃	20.8 23.7															油津港投錨 漁夫雇入ノ打合セチナス
"	"	14	C	NE ₁	18.0 20.0															漁夫雇入ノタメ同縣外ノ浦へ移泊ス
"	"	15	B	NW ₂	21.0 27.0															漁夫乗船
"	"	16	B.C	W ₄	15.0 22.0															外ノ浦投錨、出漁準備ノタメ鹿兒島へ廻航、鹿兒島港外碇泊
"	"	17	B	N ₂	10.5 21.8															漁具製作ニ取掛ル
"	"	18	B	NW ₂	13.0 19.0															漁具製作 ワイレトラス修繕チナス
自至	"	19	B	N ₃	13.0 16.5															漁具製作
"	"	27	B	NW ₂	6.0 10.0															八拾鉢ノ廻製作終了
"	"	28	C.R	N ₄	6.0 10.5															消耗品既込ノタメ港内へ轉錨ス
"	"	29	C.R	NNW ₂	5.0 9.0															食料、水、薪、餌料いかチ既込ニ無線電信機故障
"	"	30	C	NNE ₃	5.4 11.2															無線電信機恢復ス
"	"	31	C	NW ₃	16.2 22.2															鹿兒島港出帆
3.	1.	1	C.R	W ₃	16.0 21.0	21.0 21.8														沖繩近海へ向テ航行中
"	"	2	R	N ₄	20.0 21.8	21.0														荒天ノタメ慶良間阿護ノ浦ニ避泊ス

四二

3.	1.	3	C.R	N ₄	16.8 18.3	20.8 22.0														宮古島近海へ向フ	
"	"	4	C	N ₆	17.5 22.5	21.4 22.5															南進
"	"	5	B	N ₃	16.5 23.0	23.8 24.2															名倉灣假泊西表船浮港ニテ水ヲ積ミ漁場ニ向フ
"	"	6	B	NE ₃	19.0 24.3	24.2 25.2	NE	1	(1)	冷蔵いか	PM11時40分	鰯7尾、旗魚1尾、鰹4尾									浪高ヲ操業思ハシカラズ臺灣附近漁場ニ向フ
"	"	7	C	E ₄	17.7 20.6	23.5 24.6															風波ノタメ基隆ニ避泊ス
"	"	8	B	S ₅	25.2 26.4																風強ク出帆具合ス
"	"	9	R	N ₄	29.8	18.8															漁獲物一部賣却水ヲ積ミ出帆ス臺灣西岸ニ沿テ南下ス
"	"	10	C	NE ₄	18.5 26.0	18.5 23.2															高雄寄港
"	"	11	C	NE ₄	20.5 24.5	23.5 24.0															同港出帆
"	"	12	C	NE ₆	22.1 25.0	23.5															風強ク大坂崎避難ク方風力減シ出帆
"	"	13	R	NE ₄	23.0	24.3	NNE	1	(2)	冷蔵いか	AM11.30	鰯2尾、旗魚1尾									風益々強ク操業一回ニ止メ北上ス
"	"	14	R.C	NE ₆	34.0 26.8	24.7 25.0															西表島鹿川錨地ニ避難ス
"	"	15	C	NE ₄	18.2 24.0	23.7															船浮港ニテ水ヲ取り與那國島附近へ向フ
"	"	16	B	E ₃	23.5	24.7	NE	1	(3)	氷藏いか	PM 3.50	鰯1尾、鰹2尾									海況面白カラズ 與那國島附近へ向テ投錨ス
"	"	17	B	E ₂	23.2 27.0	23.2 24.8															宮古島附近へ向テ投錨ス
"	"	18	B.C	E ₂	23.5	23.8	W	1	(4)	氷藏いか	PM 3.20	チヅ									潮流Wニ流レルガ如ク 漁具ノ一部連結ス
"	"	19	B	N ₃	19.2 24.0	23.1 20.1															天候陰惡ノタメ慶良間阿波連錨地ニ風ヲ避ク

四三

3. 1.	20	B	NE ₃	18.5 19.5	21.0 21.5	NE	(5)	冷蔵いか	PM 2. 00	鯨 2/尾	揚網後直チニ那覇ニ向テ 那覇碇泊	
"	21	C	E 2	21.5 21.8							漁獲物陸揚チナス	
"	22	B	SE ₄	24.7 24.0							那覇港碇泊	
"	30	R	NE ₂	11.0 17.0							引續キ那覇港碇泊 水及食料品積込 其他出漁準備チナス	
"	31	C.R	N 2	13.0 16.0							那覇出帆漁業ニ向テ	
3. 2.	1	G	NE ₃	12.5 18.5	19.2 22.5							
"	2	C	NE ₃	17.0 20.0	21.5 22.5	NE	2	(1') (2')	か ず ん を ま と び う を ま ぐ る	PM 2. 0 10. 30	鯨 3尾、鯨 6尾、鯨 4尾 鯨 4尾、鯨 4尾	揚網後漂流次ノ漁場ニ
"	3	C	NE ₂	18.0 18.7	21.5 21.2	NE/N	2	(3') (4')	同上	午後四時投 四日午前12 時40分	鯨 6尾、鯨 4尾 鯨 5尾、鯨 14 鯨 5尾、鯨 4尾	同上
"	4	C	NE ₂	18.5 23.8	20.8 22.2	NE/N	1	(5')	同上	午後三時投 入五日午前 12時40分揚	鯨 1尾、鯨 4尾、 鯨 5尾、鯨 1尾	同上
"	5	C	E 4	20.0 19.5	21.4 20.3	N	1	(6')	同上	午前 11 時	鯨 1尾	風波ノタメ南大東島避難
"	6	C	W 3	21.0 29.0	20.0 22.2							同所出帆那覇ニ向テ
"	7	C	N 4	21.0	22.0							那覇港碇碇ニ漁獲物陸揚
"	8	C	N 2	15.0 18.0								那覇港
"	9	B	NE ₁	11.0 20.0								同 米積込
"	10	C	E 1	11.0 20.0								出漁準備サ一チライト取付 燃料積込ノタメ鹿兒島ニ向 テ
"	11	C	N 5	15.5 22.0	21.4							

3. 2.	12	C	NE ₄	15.0 17.0	19.5 22.0						航行
"	13	B	E 5	17.5 20.0	20.3 22.3						同上
"	14	B	NW ₄	12.0 20.5							早朝鹿兒島著
"	15	B	NW ₂	13.0 17.0	18.0 21.0						水、石油積込 直チニ出帆漁場ニ向テ
"	16	C	NW ₃	15.5 18.0	19.5 21.7						天候險惡ニテ吉仁屋避泊
"	17	R	NW ₄	9.0 19.0							同所
"	18	C	N 4	15.0 18.0	18.5 21.0						同所出帆天候惡シク漁場探 索叶ハズ運天港ニ避難ス
"	19	G	N 4	12.0 20.0	21.0						那覇歸港
"	20	C	NE ₃	12.0 17.0							那覇碇泊
"	21	B	NE ₂	13.0 20.5							那覇發宮古ニ向テ
"	22	B	SE ₃	19.5 21.0	21.3						宮古著
"	23										宮古碇泊
"	24										同上
"	25										同上
"	26				21.5 23.5						宮古出帆四航漁場ニ向テ
"	27				23.0	N	1	(1')			ナキ
"	28				23.0						漁場

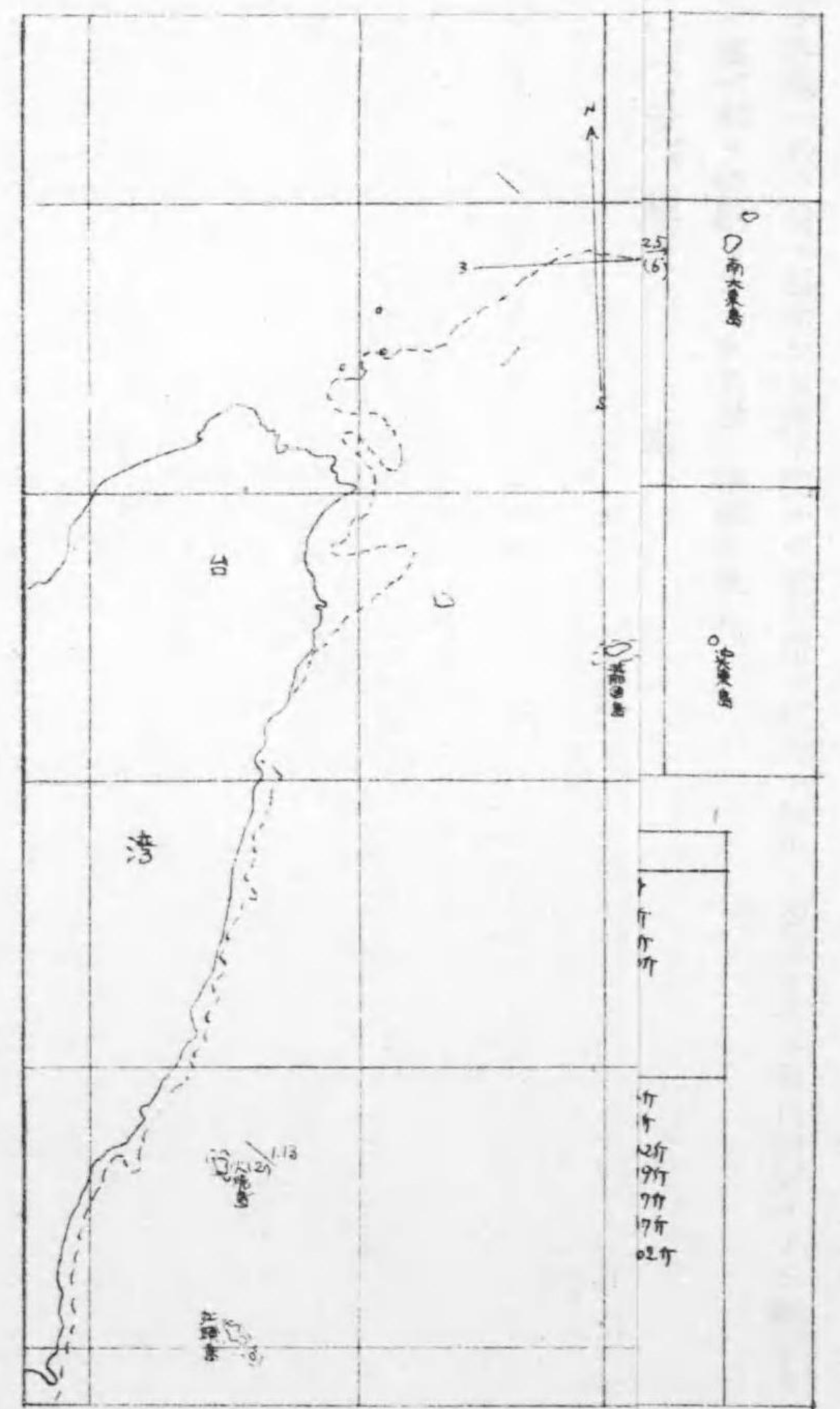
鯉餌料焚入漁業試験

一、趣 旨

從來本縣ニ於テハ鯉、赤鯉、方言うふみ等ヲ鯉餌料ニ使用シツツアルモ其ノ漁法ハ未ダ舊慣ヲ脱スル域ニ至ラズ故ニ本場ハ本試験テ行ヒ餌料魚ノ分布状態ヲ詳カニシ進ンデハ漁具漁法ノ改良ヲ計リ餌料供給ノ圓滑ヲ計ル一助タラシメントス。

二、施行方法

- (1) 試験場所竝ニ期間
 - 國頭郡運天港内外 自昭和二年五月二十一日間 至同 月二十二日間
 - 國頭郡名護町沖及許田浦内外 自昭和二年五月二十三日間 至同 月二十四日間
 - 島尻郡馬天港口 自昭和二年五月三十一日間 至同 六月二日間
- (2) 使用船及器具
 - 和船(幅六尺長三十尺) 一隻
 - 大坪式石油集魚燈 五百燭光二箇
 - 表層プランクトンネット 大摺等ナリ



要スルニ初年度ハ豫備的手段ニ出デ和船中央ニ集魚燈及石油タンクヲ裝置シ、左舷外約二尺水面上二尺ノ所ニ火口一箇ヲ裝置シ各地ニ於テ舟ヲ錨留シ日没ヲ待チテ集魚燈ニ點火シ集魚ノ裝置ト共ニ海水觀測ヲナシ蠔集セル仔魚ヲ採集シ或ハ錨ヲ揚ゲ船ヲ移動セシメテ魚群ノ誘導ヲ試ム。

三、結 果

本調査ハ桮入漁業試験ノ豫備行爲ニ止メ漁具ハ大撞ヲ使用シタルノミナルモ其ノ結果ヨリ推スニ各地共淺海ニ於テハ稚魚火付良好ニシテ二十尋以上ノ深所ニハ比較的少ク、一般ニ魚附良キハ水深十五尋乃至九尋位ノ區域ナリ、但シ採集魚ハ從來當業者ガ餌料トシテ使用スル範圍ヲ脱セズ、其ノ多クハ稚魚ニシテ餌料トナルノ大サニ達セザルモ南下シ日ヲ經ルニ從ヒ魚體大トナルヨリ觀ルモ時期尙早ナリシガ如シ火付ノ狀態漁獲方法等ニ就テハ他日調査試験ヲ行ハントス。

桮入漁業試験日誌

場 所	期 日	時 間	目 的	表 水 温	表 底 温	水 深 (米)	備 考	要 點
運 天 港	年 月 日 2. 5. 21	PM 9:00m—9:30m	PM 9:00m—9:30m	23.8	23.732	12.0		
同	" " "	PM 9:00m—9:30m	PM 9:00m—9:30m	24.3	23.676	14.0		
同	" " "	PM 10:00m—11:00m	PM 10:00m—11:00m	24.0	24.496	17.0	運天港内ニ於テ漁付最モ多ク方言するノ仔魚ニ多ク人々ト人多ク	
同	" " "	PM 11:30m—12:00m	AM 11:30m—12:00m		24.176	12.0		
同	" " "	AM 12:10m—12:40m	AM 12:10m—12:40m	23.8	24.176	15.0		
名 護 灣	" " 23	PM 9:00m—9:10m	PM 9:00m—9:10m	23.5	23.155	17.0	表面ニ魚付ナキモ底部ニ相當者ヘル如ク而モ明視ヲ難ク人々ト人多ク	

同	2. 5. 24	PM	81:00m—91:30m	23.0	25.1.94	9.5	そわい、や多しのいかノ群相當アリ 底部ニ集魚セルモ魚類列明ナラズ ぶらんくとん非常ニ多シ七歌ノ所迄誘導サル深 味ニハカク (方言ぐるくん) (方言うふみ) (方言しるぐあ) 多シ	
同	" "	PM	10:40m—11:00m	23.4	25.4.73	16.0		
同	" "	PM	11:00m—11:30m			7.5		
古宇利島	" "	PM	81:00m—91:30m	23.0	25.1.45	15.0		方言するゝ仔集魚群々良好
同	" "	PM	10:00m—11:00m	23.0	25.0.28	20.0		深キ爲メ魚付懸シキ觀アリ
同	" "	PM AM	11:00m—12:30m	23.0		13.0		魚集全クナシ 魚付割合ニ遊ク量モ大ナルガ如シ
馬天港	" "	PM	81:00m—91:30m	24.2	25.4.4	8.0		深海ヨリ接近クニ多シ するゝ、ぐるくんノ仔付クモ風波ノタメ中止ス
同	" "	PM	81:00m—91:00m		24.6.04	5.5		深海ニ少キタメ淺海ヲ試ミルモ魚付面白カラズ
同	" "	PM	91:30m—101:30m		24.9.24	3.5		同上
同	" "	PM	81:00m—91:30m	24.8	25.5.5	8.5		するゝ、ぐるくん、ノ仔多ク
同	" "	PM	10:00m—10:30m	25.4		8.0	九歌ノ深味ニハ少シ	
同	" "	PM AM	11:00m—12:00m	31.4 20.32		9.0		

尙ホ當時採集セル仔魚ヲ探集セシニ下記魚類混セリ。

- (1) *Amblygaster immaculatum* (kishinouye) ほしなしいわし、(2) *Atherina bleekeri* günther とおごいいわし、(3) *Cy-
pselurus agoo* (Tenninek Schlegel) とびうを、(4) *Hyporhamphus sjoeri* (Tenninek & Schlegel) とぶ、(5) *Sar-
diella nizin* (kishinouye) かずん、(6) *Isendipeneus*, sp. ひめじノ一種。

附

言

尙ホ本縣産鯉餌料魚ニ就テハ目下調査中ナルガ鯉漁業者ハ左記魚類ヲ主トシテ使用ス。

- (1) *Stolephorus Japonicus* 和名鯪方言するゝ又ハばかぎん
 (2) *Caesio digramma* 方言ぐるくん
 (3) *Caesio chrysogora* 和名たかぎん方言ぐるくん
 (4) *Caesio coeruleus* 方言されえいらー
 (5) *Amia notata* 和名黒星天竺鯛方言うふみ
 (6) *Amia truncata* 方言うふみ
 (7) *Beryx decadactylus* 和名なんようきんめだひ方言がさがさー
 (8) *Pomacentrus anabatois* 方言ひかぐわー、又ハひちぐわー
 (9) *Sardinia immaculata* 和名ほしなしいわし方言しいらー
 (10) *Lutianus usiagensis* 和名をきふふき方言もちのぐわー
 (11) *Atherina tsurugae* 和名ぎんいそいわし方言あをはらら
 (12) *Caranx djedaba* 方言がつん
 (13) *Scomber japonicus* 和名鯖方言大鯖ノ仔

等ナルガ又年ニヨリテハコノ大鯖ノ仔ノ七、八月ノ交大群ヲナシテ八重山郡及宮古郡地方ニ來游スルコトアリ、此ノ
 場合ニハ同地方ニアリテハ之ヲ使用シ鯉餌料ニ不足スルコトナシト言フ。

從來魚類ノ査定ハ殆ト東京帝國大學助教田中茂穂氏ニ依頼セシ所ナルガ、椋入漁業試験ノ際採集セル稚魚及縣内各
 地ヨリ蒐集セル鯉餌料魚ニ關シテハ同氏モ多少ノ疑問ヲ有スルガ如シ、豫報シテ他日ノ調査研究ニ資セント欲ス。

餌料鱈酸素利用運搬試験

一、趣 旨

最近鱈漁場擴張セラレ益々遠距離ニ互ルニ從ヒ之ガ餌料ヲ完全ニ蓄養輸送方法ヲ講ズルハ尤モ必要ナル事ニシテ該漁業ノ發達ニ影響スルコト甚大ナリ、特ニ本縣ノ如ク餌料魚ノ漁獲乏シク之ヲ遙ニ九州及臺灣方面ヨリ求ムル地方ニアリテ鱈漁業ノ發展ヲ期センニハ、餌料魚ノ運搬法又ハ増殖法ヲ計ルコト緊要事ナリ、從來七島近海及本縣近海ニ於テハ七月、八月ノ交海上油風ノ現象ヲ呈シ往々ニシテ出漁中鱈餌料鱈ノ著シク斃死シ空シク歸港スルコトアリ、如斯現象ハ主トシ水温上昇且ツ海水ノ交流不充分ニシテ水中酸素ノ缺乏スルニ起因スルモノト思惟ス、現時鱈漁船ニ於テハ碇泊中又ハ鱈釣獲中ハ「ポンプ」ヲ用ヒ海水ノ交換ヲ計ルモノアレドモ未ダ充分ナリト言フヲ得ズ、依ツテ本場ニ於テハ餌料ノ斃死ヲ防止シ猶其ノ收容量ヲ増大セシムル途ヲ講ズルタメ酸素ヲ供給スル方法ニ就キ試験セリ、抑モ從來活魚輸送ノ爲メ人工的ニ酸素ノ供給ヲ行ヒタルモノ無シトセザレドモ直チニ之ヲ鱈餌料ノ蓄養運搬ニ應用センニハ幾多ノ不便ヲ存スルニ依ツテ之方適當ナル裝置方法ニ就キ特ニ試験シ以テ鱈漁業ノ發達ニ資セントス。

二、酸素利用活魚運搬試験方法

- (一) 期 間 第一回昭和二年八月^{自十八日}至二十二日間
第二回昭和二年九月^{至一日}至八 日間
- (二) 使用船 琉球丸
- (三) 利用活間ノ構造 琉球丸ハ二個ノ活間ヲ有シ各二個共同寸法、同型容量同ジク換水孔ニハ換水ヲ容易ナラシムル

タメ各附ケ離シ自在ノ竹筒ヲ裝置セリ。

(四) 酸素瓦斯溶解裝置ノ構造

圖面ノ略解 圖面ハ本器一部切截面圖トス。

- (1) ハ數多ノ壘狀ノ瓦斯貯留器 (2) ハ閉閉スペースセル瓦斯排除コック管ニシテ貯留器 (1) ノ上底若シクハ其ノ附近ニ吸込口ヲ有セシム (3) ハ瓦斯受嘴板 (4) ハ透孔ニシテ (3) ナル嘴板ト相依リテ其ノ下位ニ隣接スル貯留器ニ附屬スル
- (2) ナル排除コック管ヨリ放出サルル氣體ヲ自己ノ附屬スル貯留器ニ導入スベクセリ (5) ハ瓦斯溢尿管ニシテ酸素瓦斯ガ該管ノ最下端ヲ限度トシテ貯留サレ更ニ注入サルル時ハ該管ヲ經テ其ノ上位ノ貯留器ニ溢出セシム、而シテ該管ノ長サハ使用スル個所ノ情勢ニ應ジ適宜決定スルモノナリ (6) ハ水ヲ本裝置ノ内外ニ流通セシムベキ透溝トス。

先ツ排除管 (2) ニ依リテ各貯留器 (1) ノ空氣ヲ排除シタル後最下位ノ貯留器ヲ酸素源ニ連絡スル時ハ酸素瓦斯ハ該貯留器ニ注入サレテ (5) ナル溢尿管ノ下端ヲ限度トシテ其ノ上位ノ貯留器ニ逸出シ如斯シテ漸次全部ノ貯留器ニ注入セラルベシ、若シ酸素瓦斯ノ溶解ガ多キニ過ギルトキハ貯留器中上位(又ハ下位)ヨリ必要個數ノモノヲ限リ注入スルコトニ依リ或ハ上位ノ貯留器ヲ除キ任意ノ不必要ナル貯留器ノ瓦斯排除管ヲ解放シ置クコトニ依リ酸素瓦斯ノ水ト接觸面ヲ調節シ從ツテ其ノ溶解量ヲ容易ニ増減シ得ベシ、或ハ (7) ナル支持棒ヲ脱著シテ貯留器ノ數ヲ増減スルモ容易ニ同一目的ヲ達シ得ルナリ、本裝置ハ酸素溶解量ヲ調節シ得ルノミナラズ又容積ニ比シ極メテ大ナル酸素瓦斯ト水トノ接觸面ヲ有ス。

但シ本裝置ハ水産學士八木橋豐氏ノ考案ニ依リ本場ニテ製作セシメタリ。

(五) 活間使用狀況

本溶解装置(亜鉛鍍鐵板製タンク)ヲ槽内ニ取付ケルニハ槽底中央部船首尾線ニ沿フテ三寸角材二本ヲ二尺位ノ間隔ニテ平行ニ固著シ中央部ニ溶解装置ヲ据ヘ之ヲ針金又ハ丈夫ナル細索ニテ縛リ、今之ニ酸素ヲ注入スルニハ酸素容器

瓦斯放出口ニ取付ケタル

「ゲージ」ニ連結セル高壓

用護管先端灣曲セル金

屬製管ヲ溶解装置最下端

ニ掛ケ放出セル酸素瓦斯

ガ漏レナク溶解装置内ニ

留マル様支持ス、斯クノ

如クシテ二回共前記兩活

間ヲ使用シ前部ニハ酸素

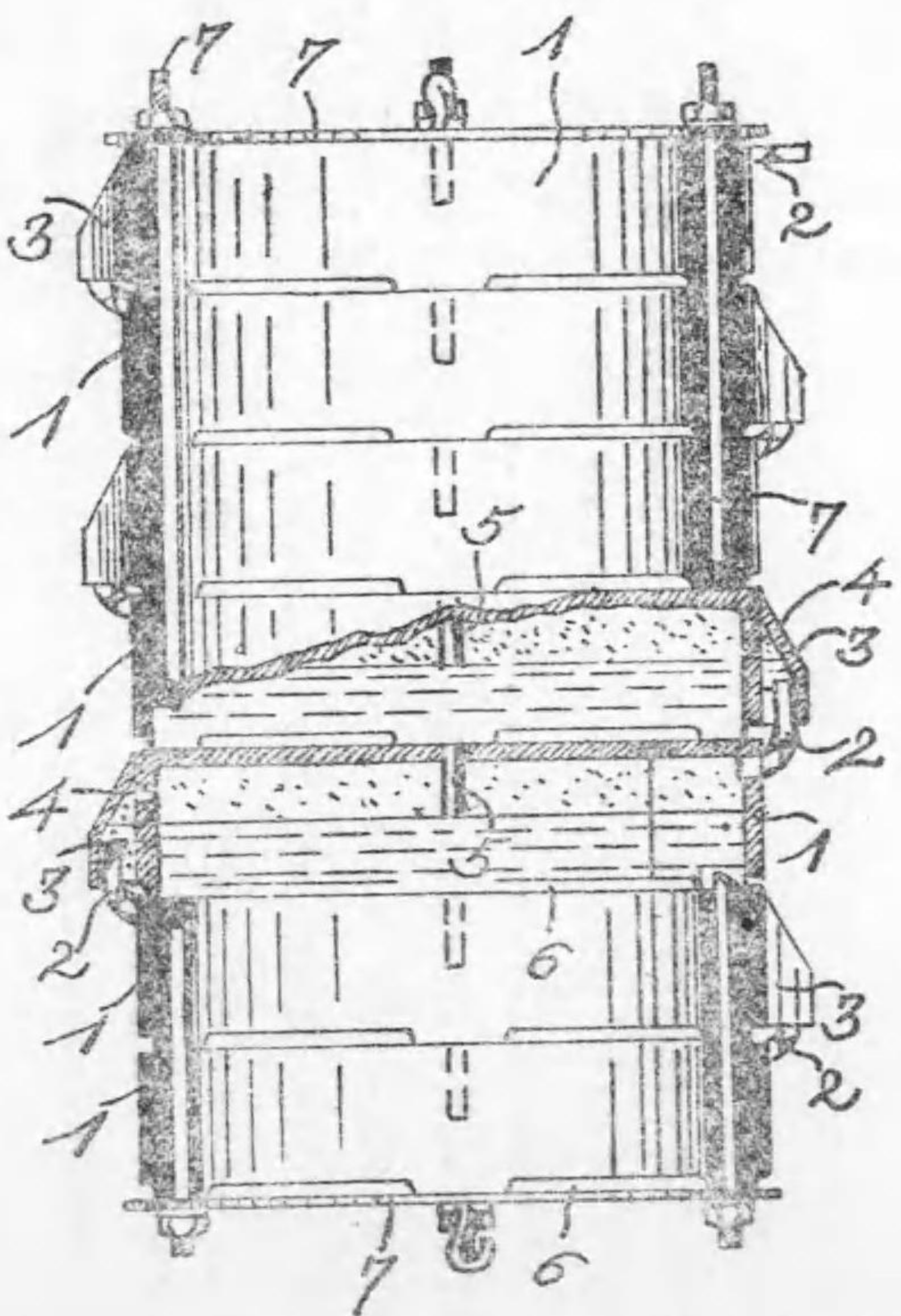
注入ヲナサズ後部活間ニ

溶解装置ヲ取付ケ絶ヘズ

酸素ヲ注入シ酸素注入ノ

モノト然ラザルモノトノ

溶解装置



比較ヲナサントス。

但シ第一回ニハ換水竹ヲ使用セズ、第二回ニハ之ヲ使用セリ。

(六) 收容魚尾數

第一回 前慶良間沖する處

前活間約五千尾後活間約六千五百尾

第二回 鹿兒島灣内、片口鰯

前後共約五千尾宛

(七) 酸素定量方法

ウキンクラ―氏法ニ依レリ。

三、結果

斯クシテ酸素ヲ注入セル後槽ト然ラザル前槽トノ酸素量ノ測定ト著養魚ノ死滅ノ狀況ニ依リ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

試 験 時 日	時 分	大 氣 溫	外 海		酸 素 使 用		活 魚 箱		酸 素 注 入	
			水 溫	水 溫	酸 素 量	死 魚 數	摘 取	要 點	酸 素 量	死 魚 數
8. 18	PM 12-20		28.1	28.3	4.338	0	外部海水ヲ活魚箱ニ 注入シ直後酸素注 入前	約50分航走後停船シ テ 1時間後	28.1	4.338
"	1-13		28.3	28.3	4.165	0	何れも収容直後航行 中		28.3	3.724
"	2-40		28.3	28.3	3.991	170	停船後10分		28.3	3.507
"	3-45		28.5	28.5	3.803	204	停船中		28.5	2.754
"	5-30		28.2	28.2	2.375	332	約50分航走後停船シ テ 1時間後		28.2	3.569

8-18	7-30		28.0	2,459	5,362	566	停船中	27.8	2,139	2,715	615	停船中
"	10-30		27.7	3,993			停船中死魚甚シ	27.7	3,474			"
8-19	AM 12-30		27.7	3,055			停船中死魚多シ	27.7	3,350			"
"	3-30		28.7	4,169			"	28.7	3,743			"
"	6-30		28.7	4,031	1,962	3,400	"	28.7	3,821	1,215	1,500	"
"	9-30		28.25	4,485			約1時間航走後停船 直後	28.25	4,221			1時間航走後停船 直後
"	PM 12-30		28.75	4,458			停船中	28.75	3,990			停船中
"	3-30		28.9	4,290	775	1,187	"	29.00	3,940	835	330	"
"	6-30		29.2	5,008	750	25	"	29.25	4,313	790	45	"
"	9-30		29.0	4,383			"	29.0	4,095			"
8-20	AM 1-30		28.7	4,130			"	28.7	4,149			"
"	6-00		28.7	3,738			"	28.7	3,610			"
"	8-00		28.7	3,508	350	400	"	28.7	3,497	590	200	"
"	9-00	29.8	28.7	3,531			活魚槽換水孔ヲ全部 閉ジ外水トノ交通ヲ 斷シ	28.7	3,520			活魚槽換水孔ヲ全部 閉ジ外水トノ交通ヲ 斷シ
"	10-00	29.1	28.5	28.7	3,878		"	28.7	3,102			"
"	11-00	29.3	28.7	28.7	3,887		"	28.7	2,958			"
"	PM 12-00	29.3	28.75	28.7	4,207		"	28.7	2,880			"

"	1-00	29.6	28.8	28.7	4,034		"	28.7	2,737			"
"	2-30	29.7	28.7	28.7	5,404		"	28.6	2,598			"
"	4-00	30.4	29.2	28.6	7,544		"	28.5	2,991			"
"	7-00	32.4	31.0	28.5	7,552		"	28.5	2,207			"
8-21	AM 12-00	28.8	28.7	28.5	6,445		"	28.5	1,840	0	590	餌料餌全部死亡ス
"	5-00	27.75	29.5	28.5	5,150		"	28.5	1,180			"
"	8-00	31.1	29.8	28.25	4,445		"	28.25	0,976			"
"	11-00	30.0	30.6	28.25	3,716		"					"
"	PM 4-00	30.5	30.0	28.2	2,734		"					"
"	9-30	28.6	31.2	28.0	1,696		"	死魚多シ				"
8-22	AM 2-30	28.4	29.4	27.8	1,401	0	350	2時間全部死亡				"
"	8-00	30.75	29.8	27.8	0,452		"					"

但シ放養艇ノ體長平均二寸二分、體重平均一匁五分ナリ。
尙餘死尾數ハ便宜死魚ノ取揚尾數ヲ以テ示セリ。

試験時 月日	時分	氣温	外海		酸素使用		活魚槽	酸素使用		活魚槽
			水温	酸素 量	酸素 量	量				
9-1	5-0		28.1	28.1	4,850		外	水		

9-1	5-0	28.1	28.1	3.087			外水ヲ活魚槽ニ滿テ タル直後	3.506			外水ヲ活魚槽ニ滿テ タル直後	
"	8-0	28.9	28.9	3.323	凡内外 5.000		餌料収容後航行中	3.456	凡内外 5.000		餌料収容後航行中	
9-2	AM 12-0	28.2	28.25	3.598	4.659	41	同	28.25	3.574	4.958	42	同
"	4-0	28.1	28.1	3.763			避泊中餌料艦ヲ船外 活魚槽ニ移ス	28.1	4.018			避泊中餌料艦ヲ船外 活魚槽ニ移ス前
9-3	AM 10-0	29.9	27.5	27.75	4.901		再ビ餌料艦収容 トシ酸素注入後30分 マツツ停船中	27.75	4.364			
"	PM 12-0	29.8	27.7	27.65	3.612	198	餌料艦収容後酸素注入 マツツ停船中	27.65	3.633	4.776	182	餌料艦収容後停船中
"	2-0	27.4	27.8	27.8	3.730	213	停船中	27.8	3.062	4.604	172	停船中
"	4-0	27.7	28.2	28.2	3.815	194	"	28.0	3.284	4.494	110	"
"	6-0	26.9	28.0	28.2	3.925	155	"	28.2	3.404	4.402	92	"
"	8-0	25.25	27.25	28.0	4.033	122	"	28.0	3.600	4.364	38	"
9-4	AM 12-0	24.3	26.5	27.8	3.927	413	"	27.8	3.422	4.185	179	"
"	4-0	23.5	24.0	27.9	3.963	420	"	27.9	3.202	3.959	266	"
"	8-0	30.8	28.25	28.3	3.642		航走後 2時間半	28.3	4.228			航走後 2時間半
"	PM 12-0	28.5	29.1	28.7	4.095	148	航走中	28.7	3.702	3.890	69	航走中
"	4-0	28.8	29.25	29.2	3.727	3.022	74	29.2	5.590	3.839	51	"
"	8-0	27.8	28.6	28.6	4.124		"	28.6	3.752			"
9-5	AM 12-0	28.0	28.0	28.2	3.925		"	27.9	4.031			"

9-5	4-0	26.5	28.6	28.6	3.794		"	28.6	3.876			"
"	10-0	28.7	28.2	28.25	3.341		8時酸素注入機故障 ノメ餌料艦ヲ全部前 活間ニ移シ10時復舊	28.25	3.083			後活間ノ餌ヲ全部本 活間ニ移シ10時復舊
"	PM 12-0	28.8	28.2	28.2	2.352	3.011	11	28.2	2.336	3.816	23	停船中
"	4-0	29.5	28.25	28.25	2.651		"	28.25	4.042			"
"	8-0	27.6	27.9	28.0	3.790		"	28.0	2.576			"
9-6	AM 12-0	27.5	28.0	28.0	3.132		"	28.0	2.412			"
"	4-0	28.0	27.9	28.0	3.015		"	28.0	2.691			"
"	8-0	28.5	28.5	28.2	4.054	2.992	30	28.2	3.765	3.799	17	航走後 1時間
"	PM 12-0	28.6	28.4	28.7	4.711	2.983	9	28.7	3.716	3.786	13	航走中
"	4-0	28.0	28.5	28.7	4.186		停船ト同時	28.5	3.658			停船ト同時
"	8-0	27.9	28.4	28.5	3.767		停船中	28.5	3.739			停船中
9-7	AM 12-0	26.5	28.6	28.7	4.276		航走後 2時間	28.7	3.915			航走後 2時間
"	4-0	28.5	28.5	28.4	4.292		航走中	28.4	4.216			航走中
"	8-0	27.5	28.5	28.5	3.640	2.781	202	28.4	3.963	3.751	35	"
"	PM 12-0	29.4	29.1	29.0	4.012	2.741	40	29.0	4.658	3.746	5	"
"	4-0	29.75	29.2	29.25	4.162		航走中	29.25	3.882			"
"	8-0	28.8	28.6	28.75	4.460		"	28.75	4.135			"

9-8 AM	27.6	28.4	28.3	3.131		停船後 3時間	28.4	4.042		停船後 3時間
12-0										
" 4-0	27.5	28.0	28.0	2.628		停船中	28.1	2.601		停船中
" 8-0	27.75	28.2	28.2	4.709	08	航走後 1時間	28.2	2.926	3.710	36 航走後 1時間
" PM 12-0	29.8	28.75	28.75	3.930		航走中	28.75	4.027		航走中
" 4-0		28.7	28.6	3.960	2.668	換水口ヲ 2個トシテ 3時間後	28.6	3.772	3.697	13 "

但シ酸素量ハ體長平均三寸體重平均四分ナリ。

尙舊死尾數ハ便宜死魚取揚尾數ヲ以テホシ又本試驗ハ九月八日午後四時ニテ打切り殘留飼料ニ使用セリ。

今實驗誤差ナキモノトシ酸素量測定結果ヲ活魚槽内蓄養水ノ換水狀況ト對照考察セバ、

換水盛ナル時即チ航行中換水竹ヲ使用シ若クハ船ノ動搖多キ場合ニハ兩活間ノ酸素量ニ著シキ差ヲ見ズ如斯場合ハ注入酸素ヲ溶解セル槽内ノ水ハ比較的迅速ニ逸出スルガ如シ、碇泊中又ハ航走中海上油風ノ状態ニアリテ換水竹ヲ使用セザル際ニハ兩活間共酸素量ヲ減ズルモ、後槽ノ酸素量稍多ク兩槽共漸次酸素量ノ低下スルヲ見ル特ニ船ノ停止又ハ始動ノ瞬間一時的衝動ヲ蓄養水ニ與フル際尤モ多ク酸素ノ低下スルハ見逃ス可ラザル事實ノ如シ、由之觀ニ酸素注入ノ効果ルモ其ノ溶解率ハ蓄養魚ノ酸素消費量ニ及バザリシモノト思惟ス。

尙ホ外部トノ交通ヲ斷絶セル時ノ實驗ニ於テハ收容魚數已ニ最初ノ凡ソ半數ヲ算スルニ至リタレバ酸素注入ノ效果著シク前槽ハ漸次酸素量ヲ減ズルモ後槽ハ急ニ酸素量ヲ増加シ更ニ注入ヲ繼續セバ一定量迄増加シ其ノ後急激ニ低下スルヲ見ル、此際水ニ臭氣ヲ生ジ尙繼續スレバ其ノ臭氣次第ニ増加シ結局換水口ヲ閉ヂタル結果前槽ニ於テハ十時間後槽ニ於テハ約一晝夜遅レテ全滅セリ。

抑モ餌料運搬方法ニ關シテハ活間ノ構造魚ノ酸素消費量、水ノ循環、魚ノ運動、水溫、魚ノ排泄物ノ影響等各事項ニ就キ詳細ニ考究スル必要アリ、而シテ今回ハ設備其他ノ關係上僅カニ豫備的試驗ヲ行フニ止ルモ種々ノ資料ヲ得タリ。

製造部

鰹節製造試驗

一、趣 旨

本縣産鰹節ハ最近著シク弊價ヲ高メツツアリト雖モ更ニ改良ヲ要スベキ點尠シトセズ、殊ニ現時裸節ノ儘販賣セララルモノ尙多キハ極メテ遺憾トスル所ナリ、本場ハ前年度ニ繼續シテ本試驗ヲ施行シ其ノ製品ヲ試賣シ其ノ結果ニ基キテ縣下鰹節製造業ノ改善發達ニ資セントス、尙本年度ニ於テハ前年度試驗事項ノ外製造工程中部分的ニ作業能率増進ニ關スル豫備的研究ニモ著手セリ。

二、試驗期間並ニ場所

自昭和二年五月二日至同年八月末日間、島尻郡具志川村字兼城久米島製造場ニ於テ施行セリ。

三、試驗ノ經過

(イ) 概 要

鰹節製造人ハ二名ヲ靜岡縣燒津町ヨリ、其他ハ本縣内ヨリ雇入レ五月ヨリ久米島ニ於テ製造試驗ヲ開始シ原料ハ總テ本場指導船琉球丸ノ漁獲セル鰹及鯖ヲ使用セリ、其ノ數量左ノ如シ。

陸揚年月日	魚種	尾數	數量
昭和二年五月六日	鯉	一、二一六尾	二、八六二斤
同 日	鮪	六二尾	二四五斤
同 年同月二十一日	鯉	一、二二五尾	三、一五〇斤
同 日	鮪	三〇七尾	一、三三九斤
同 年七月十四日	鯉	一〇四尾	一、四三八斤
同 年同月二十日	鯉	二二〇尾	六一三斤
計	鮪	二、六六五尾	八、〇六三斤
	鯉	三六九尾	一、五八四斤

右原料ヨリ得タル製品左ノ如シ。

鯉 本 節	三六貫八五〇匁	賣上金 四〇二圓七〇錢五厘
鯉 龜 節	一八二貫一七三匁	賣上金 一、三四二圓一九錢
鮪 龜 節	四〇貫〇〇〇匁	賣上金 二、三七〇圓二錢
計	二五九貫〇二三匁	賣上金 一、九八一圓九一錢五厘
副 產 物		
削 屑	四一斤三合五勺	賣上 金一六圓五四錢
頭		賣上 金 五圓四二錢
計		賣上 金二一圓九六錢

製品ハ沖繩縣物産販賣東京幹旋所、東京市高津商店勝榮助商店ニ送附シテ試賣セリ。

東京幹旋所ニ依テ試賣セラレタル鯉節三十貫ニ就テハ當時那覇市ニ於ケル裸節最高相場ト比較スレバ、東京幹旋所試賣本場本枯製品拾貫匁一樽手取金九十五圓、當時那覇市裸節最高相場百斤百十五圓四十錢ニシテ十貫匁七十二圓十二錢五厘トナリ之ヲ微付節トナスト假定シテ目切樽代手入費金利其他費用ヲ見込ミテモ相當ノ利益アルヲ知レリ、此ノ結果ヨリ見ルトキハ本縣鯉節方廣ク微付節トシテ販出セララルニ到ルトキハ品質ノ改良聲價ノ發揚上ニ效果大ナルベキヲ知ルベシ。

(ロ) 煮熟ニ關スル試驗

鯉肉ノ煮熟時間ヲ適確ニ定メントスル目的ヲ以テ左ノ通り煮熟中鯉肉中心溫度ノ測定ヲナセリ。

五月二十二日鈎獲セル鯉ヲ船中ニ氷藏シ二十五日陸上シ直ニ頭切ヲナシ翌二十六日午前八時三十分身卸身割ヲ行ヒ其ノ雄節ヲ取り節ノ太キ部分ノ中央ニ當ル箇所ニ球部ヲ置ク様ニ寒暖計ヲ挿入シ煮熟ヲ行ヒ五分毎ニ肉中心溫度及煮熟湯ノ溫度ヲ測定セリ。

第一表

實驗 月 日	場 所	原 料	雄 節 重 量
昭和二年五月二十六日	久米島製造場	鯉一尾 重量七斤	前後部共各二〇七匁

煮熱時間	第一回 (前部脊肉)		第二回 (後部脊肉)		摘	要
	湯ノ温度	肉中心温度	湯ノ温度	肉中心温度		
〇分	八五、〇度	二四、〇度	八九、〇度	二五、〇度		
五分	九二、〇	三〇、〇	九三、〇	三〇、〇		
一分	九九、〇	四三、〇	九八、〇	四六、〇		
一分	九九、〇	五六、〇	九七、〇	六〇、〇		
一分	九九、〇	五六、〇	九七、〇	六〇、〇		
二分	九八、〇	六六、〇	九七、〇	七五、〇		
二分	九六、〇	七五、〇	九七、〇	八二、〇		
三分	九九、〇	八〇、五	九八、〇	八八、〇		
三分	九八、〇	八六、〇	九八、〇	九二、〇		
三分	九九、〇	八八、〇	九八、〇	九四、五		
四分	九九、〇	八八、〇	九八、〇	九六、〇		
四分	九九、〇	八九、五	九九、〇	九七、五		
五分	九九、五	八九、〇	九九、〇	九八、〇		
五分	九七、〇	九〇、〇	九八、五	九八、〇		
一分〇〇分	九八、〇	九四、〇	九八、五	九八、〇		
一分〇五分	九九、〇	九五、五	九八、五	九八、〇		
一分一〇分	九九、〇	九六、五	九八、五	九八、〇		
一分一五分	九九、五	九七、〇	九八、五	九八、〇		
一分二〇分	九九、〇					

(ハ) 微付ニ關スル試験

外氣ノ状態特ニ氣温及濕度ガ輕節微發育ニ影響スル狀況ヲ檢スル爲メ、六月十八日一番微付始メヨリ八月十六日四番微付終了マデ、毎日午前十時ニ氣温及濕度ヲ測定シ、時々微發育ノ狀況ヲ檢セリ。

第二表

月 日	天候	氣温(乾球示度)	濕球示度	濕度%	摘	要
六月十八日	雨晴	二七、〇〇	二七、〇〇	九一	一番微付始メ	
十九日	雨	二七、五〇	二六、五〇	九一		
二十日	曇	二七、五〇	二六、五〇	九一		
二十一日	曇	二七、五〇	二六、五〇	九一		
二十二日	曇	二八、五〇	二七、五〇	九一		
二十三日	同曇	二九、〇〇	二七、五〇	九一		
二十四日	同曇	二九、〇〇	二七、五〇	九一		
二十五日	同曇	二九、〇〇	二七、五〇	九一		
二十六日	曇	二九、五〇	二七、〇〇	九一	微發育良好ニテ詰換ヲ行フ	
二十七日	曇	二九、五〇	二七、〇〇	九一	一番微付終了	
二十八日	曇	二九、五〇	二七、〇〇	九一	二番微付初メ	
二十九日	曇	二八、〇〇	二七、〇〇	九一		
三十日	同	二八、〇〇	二七、〇〇	九一		
七月一日	同晴	二九、〇〇	二七、五〇	九一		
二日	同晴	二九、〇〇	二七、五〇	九一		
三日	同晴	二九、五〇	二七、五〇	九一	詰換ヘチ行フ	
四日	同晴	二九、五〇	二七、五〇	九一		
五日	同晴	二九、五〇	二七、五〇	九一		
六日	同晴	三〇、〇〇	二七、五〇	九一		
七日	同晴	三〇、〇〇	二七、五〇	九一		
八日	同晴	三〇、〇〇	二七、五〇	九一	黄色微發育セル爲メ日乾後一旦微ヲ拂ヘ	
九日	同晴	三〇、〇〇	二七、五〇	九一		

十一月十一日	晴曇	三〇〇〇	二七〇〇	七五	詰換ヘチ行フ
十一月十二日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月十三日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月十四日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月十五日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月十六日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月十七日	曇雨	三〇〇〇	二七〇〇	七五	二番微終了
十一月十八日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	三番微付始め
十一月十九日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十一日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十二日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十三日	曇	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十四日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十五日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十六日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十七日	曇	三〇〇〇	二七〇〇	七五	微發育良好ニテ詰替チ行フ
十一月二十八日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月二十九日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
十一月三十日	晴	三〇〇〇	二七〇〇	七五	三番微終了
八月三十一日	晴	三〇〇〇	二七〇〇	七五	四番微付始め
八月一日	曇	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月二日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月三日	曇	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月四日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月五日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月六日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月七日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月八日	曇	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月九日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月十日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月十一日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月十二日	曇	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月十三日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月十四日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月十五日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	
八月十六日	同	三〇〇〇	二七〇〇	七五	

(ニ) 動作並ニ時間研究ノ豫備的調査

脛節製造上調理創裝骨拔等ノ作業ハ最モ熟練セル技術ヲ要スルガ各従業者ハ其ノ習得セル舊來ノ方法ヲ墨守スルヲ以テ作業能率ノ増進製品ノ改良上支障ヲ來スコト尠カラズ、依ツテ此等ノ熟練作業ニ就テ科學的研究ヲナシ作業ノ改善従業者ノ指導養成等ニ資スルヲ得バ脛節製造上益スルコト大ナルモノアルベシトノ見地ヨリ本年度ニ於テハ之ガ豫備的調査ニ著手セリ。

但シ本年度ニ於テハ豫備的調査ニ止リ俄ニ結論スルヲ得ザルモ其結果ニ就キニ、三摘録スレバ左ノ如シ。

第三表

頭切	一人一時間ニ處理セル尾數	熟練男子
身卸	一三九尾	同
籠立	一五七尾	同
籠離シ	一五尾	女子
摺肉修繕	二〇尾	男子
同	一、三五	女子

但原料脛平均三百六十尾廻リ總節トナス。

第四表

番動 號作	動	作	時間	番動 號作	動	作	時間
一	節ヲ持チテ板ニアツ		二	一六	節ヲ持チカヘル		一
二	骨ヲ拂フ		五	一七	面ヲ取ル		九
三	腹部ヲ引ク		五	一八	節ヲ持チカヘル		一〇
四	血合ヲ引ク		四	一九	腹部太面ヲ削ル		一〇
五	太面ノ際ヲ引ク		二	二〇	節ヲ持チカヘル		一一
六	脊鱗ノ穴(凹部)ヲ削ル		二	二一	腹部ヲ削ル		一一
七	節ヲ持チカヘル		一	二二	節ヲ持チカヘル		一二
八	頭部ヨリ太面ノ凹部迄引ク		四	二三	面ヲ取ル		一三
九	節ヲ持チカヘル		一	二四	節ヲ持チカヘル		一四
一〇	庖刀ヲ取カヘル		一	二五	鼻ヲ削ル		一五
一一	太面ノ際ヲ引ク		二	二六	雌節ノ腹部ヲ削ル		一五
一二	節ヲ持カヘル		一	二七	節ヲ持チカヘル		一五
一三	脊部ヲ引ク		二	二八	面ヲ取ル		一五
一四	庖刀ヲ取カヘル		一	二九	節ヲ持チカヘル		一五
一五	太面ヲ突ク		三	三〇	雌節ノ腹部ヲ削ル		一五

削裝時間(後卸龜節四〇分)

作業者(甲)

第五表

番動 號作	動	作	時間	番動 號作	動	作	時間
一	節ヲ持チテ板ニアツ		二	一二	節ヲ持チカヘル		三〇
二	骨ヲ拂フ		三	一三	雌節ノ脊ヲ引ク		二〇
三	腹部ヲ引ク		一	一四	庖刀ヲ取リカヘル		二〇
四	血合部ヲ引ク		一	一五	太面ノ先ヲ削ル		三
五	太面ノ際ヲ引ク		五	一六	節ヲ持チカヘル		一
六	脊鱗ノ穴ヲ削ル		二	一七	太面ヲ削ル		三〇
七	節ヲ持チカヘル		一	一八	節ヲ持チカヘル		一
八	太面ノ際ヲ引ク(頭部ヨリ)		一	一九	面ヲ取ル		一〇
九	節ヲ持チカヘル		一	二〇	節ヲ持チカヘル		一〇
一〇	庖刀ヲ取リカヘル		二	二一	腹部太面ヲ削ル		一
一一	雌節ノ脊ヲ引ク		一	二二	節ヲ持チカヘル		一

削裝時間(前卸龜節四〇分)

作業者(甲)

二三	腹身ヲ削ル	一	一	三	一	一	二五
二四	節ヲ持チカヘル	一	一	三	二	一	一
二五	面ヲ取ル	三	三	三	三	一	一
二六	鼻ヲ削ル	一	一	三	三	一	一
二七	節ヲ持チカヘル	一	一	三	三	一	一
二八	雄節ノ腹部ヲ削ル	二	三	三	三	一	一
二九	節ヲ持チカヘル	一	一	三	三	一	一
三〇	面ヲ取ル	七	計	三	七	一	四・三分

第六表

作業者別削装飾類

作業種	作業總時間	仕上節數	作業者	賃	金	摘	要
削装飾	一〇時間	六八本	甲	三	三〇		
同	同	六二本	乙	三	三〇		
同	同	四二本	丙	一	六〇		
同	同	三七本	丁	一	六〇		
同	同	三四本	戊	一	六〇		
同	同	二九本	己	一	四〇		

但シ各人ニ對シ總節一本ニ付四〇分内外ノモノヲ揃ヘテ削装セシメタルモノニシテ午前十時ヨリ十五分間、正午ヨリ三十分間、午後三時ヨリ十五分間休息セシメ午後六時終了正味作業時間九時間。

今本調査ノ結果ニ就キ概要ヲ記スレバ左ノ如シ。

- (1) 第三表ニ於ケル如ク一人一時間ノ作業状態ニ就テ更ニ研究ヲ進メルトキハ作業中ノ人員配置上資スル所多ク能率増進ヲ期スルコトヲ得ベシ。
- (2) 作業者別削装ニ於テハ各々其作業能率ニ相違アリ、殊ニ甲己ニ於テ甚シキ差ヲ生ゼリ之單ニ甲ノモノヲ標準トシコレト同様ナル動作ヲナサシムルトキハ甲ト同程度ニ迄作業能率ヲ進達セシムルコトヲ得ベシ。
- (3) 甲ノ作業ニ就テモ猶動作並ニ時間ノ研究ヲナストキハ約四十分ノ節六十八本ヲ削ルニ要スル正味時間ハ四時間五十七分三十秒ヲ以テ足レリ然ルニ實際之ヲ削ルニ九時間ヲ要シ四時間餘ヲ徒費セリ、故ニ甲ノ場合ニ於テモ今後無用動作並遅延ノ原因等ニ就テ更ニ研究スル必要アリ。

(本) 製品試賣ノ結果

▲沖繩縣物産販賣東京斡旋所報告

昭和二年十一月二十二日積送品ニ對スル報告

拜啓益々御清適之段奉賀候

貴所送荷ノ鯉節ハ既電ノ如ク三越引取ラザル爲メ芝區勝商店ニ轉送致申候三越ニ對シテハ再三交渉致候へ共

一、品ガ不統一ナルコト、一、中ニハ削リ方ノ粗雜ナルモノ混入セルコト、一、キズ節方相當出テ居ル事等ノ理由ニ依リ返品仕候。

勝商店ニ於ケル品評ヲ聞クニ、仕上リ非難ノ打子所ナキモ販賣ノ現状ヨリスレバ餘リ枯レ過ギタル爲メキズヲ出シ

小賣人ニ於テ喜バザル事ト、今一ツハ市場出廻リノ現況ニ依リ節ガ小形ナルハ賣行キ良好ナラズトノ事ニ有之候。
昨今ノ市況ハ龜大節ノ拂底ヲ來タシテ「ナキ物相場」ヲ演出シ從ツテ四十匁廻リニ對シテ六十匁廻リノ節八十匁方上
値ヲ呼ビ居候尙三越ニ於テ八十匁共樽ヨリ出シテ檢査シ更ニ荷造シタル關係上別紙調書ノ如キ量目ニ相成居候條右御
了知被下度候。

第一回東京積送品

發送年月日 昭和二年八月二十五日
發送先 沖繩縣物産販賣東京斡旋所
仕切書

一、金貳百八拾五圓也

但シ鯉節三樽三十貫、拾貫當九拾五圓也、内送金料金壹圓差引

金貳百八拾四圓也

送金額

仕切年月日

昭和二年九月十二日

第二回東京積送品

發送年月日 昭和二年十一月二十二日
發送先 沖繩縣物産販賣東京斡旋所
仕切書

一、金七百四拾五圓貳拾五錢也

内 譯

金貳拾八圓五拾錢也

運賃

金參圓八拾錢也

三越倉庫へ持込料

金壹圓五拾錢也

勝商店へ轉送料

金拾錢也

送金料

差引金七百拾壹圓參拾五錢也

仕切年月日

昭和三年三月

日

調 書

一、金六百四拾參圓貳拾錢也

但シ鯉節八十貫四百匁代十貫ニ付金八拾圓替

一、金百貳圓五錢也

但シ鯉節十五貫七百匁代十貫ニ付金六拾五圓替

メ金七百四拾五圓貳拾五錢也

四、摘 要

本年度試験ノ經過ハ大略前記ノ如クニシテ各試験項目ニ對シテハ實驗回数少ナキモ之ガ結果ノ要領ヲ摘記スレバ左ノ
如シ。

(1) 裸節トシテ販賣スルヨリハ徴付節トシ販賣スル方樽代目切手入費其他費用ヲ見込ミテモ利益多ク、徴付節トシテ販

出スルハ品質ノ保全改良上效果大ニシテ整備ヲ高メル所以ナルガ如シ。

- (2) 鯉肉煮熟ノ場合ニ於ケル肉内温度ニ就テハ雄節重量二〇七匁肉内、最初ノ温度二四度及二五度ナルトキ肉内九五度ニ達スルニ一時間五分及四〇分ヲ要セリ。
- (3) 作業時間調査ニ依リテ鯉節削裝作業ハ其ノ作業手順ノ統一若シクハ熟練ノ程度ニ因リテ出来高ニ甚シキ相違アリ、且ツ現在ニ於テハ熟練セルモノニアリテモ不用動作ニ相當ノ時間ヲ徒費シツツアルガ如シ、依ツテ今後之ガ研究ヲ進メテ作業ノ能率ノ増進ヲ計ラントス。

鮮魚冷蔵輸送試験

一、趣 旨

從來本縣産鮪、旗魚等鮮魚ヲ大阪或ハ鹿児島等ニ輸送シ販賣ノ試ミヲナシタル者無キニ非レドモ多クハ鮮度保持上困難ヲ生ジ收支相償ハズ、尙多大ノ望ヲ残シテ已ムナク中絶セリ、本場ニ於テハ大正十四年度試験船琉球丸ノ漁獲セル旗魚ヲ大阪ニ輸送試賣セルコトアリ、其ノ結果ハ當時魚價ヲ那覇市場普通相場一斤二十錢ニ見積ルトキハ不採算ニ了レリ、然ルニ大消費市場ニ鮮魚輸送ノ途ヲ開クハ本縣水産業開發上緊要ナル事ニ屬スルヲ以テ本場冷蔵庫ノ竣工ト同時ニ本試験ニ著手セリ。

二、時期並ニ場所

昭和二年十二月ヨリ三年二月ニ至ル間本場ニ於テ冷蔵及ビ荷造ヲナシ東京、大阪及京都ニ輸送試賣セリ。

三、試験方法大要

試験資料ニハきわだ、めばち、かぢき(赤皮及黒皮)めかぢき(方言つん)及ひめだい(方言まち *Pristigomoides siodoti* (Bleeker))ヲ使用スルコトトシ、當業者ヨリ購入セル漁獲及圖南丸ノ漁獲物ヲ水揚ノ都度冷蔵庫ニ冷蔵保存シ置キ三回ニ互リテ東京其他ニ輸送試賣セリ、但シ鮪類ハ凍結セシムルコトナク冷蔵シ箱詰トシ旗魚類ハ多ク凍結セシメぐれーサシテ保存シ荷造ハ籐巻トナセリ。

第一回輸送試験

昭和二年十二月十四日ヨリ二十一日ニ至ル間きわだ二尾、めばち一尾、かぢき四尾、ひめだい七七斤ヲ購入シ其ノ都度冷蔵庫ニ入庫シ置キ十二月二十五日那覇出帆ノ天草丸便ヲ以テ東京共同水産販賣所へ輸送シ試賣ニ付シタリ、但シひめだいハ七七斤ノ中三九七斤ヲ東京送リトシ三六七斤ヲ那覇市内ニ於テ一斤二十八錢ニテ試賣セシガ冷蔵中十三斤ノ目減リアリ。

原料ノ處理及保存方法 きわだ及めばちハ購入後直チニ鰓及内臓ヲ除去洗滌シ冷蔵庫ニ入レ華氏二十八度乃至三十三度ニテ凍結セシムルコトナク保存セリ。

かぢきハ脱腸洗滌後冷蔵庫ニ入レ二十八度乃至三十三度ニテ一晝夜冷却シタル後凍結室(空氣凍結)ニ入レ零下十五度乃至二十度ヲ以テ凍結セシメコレニ數回ぐれーサヲ施シタル後十度乃至零下五度ニ於テ保存セリ「まち」モ旗魚ト同様ニ處理セリ。

荷造方法 鮪三尾ハ厚七分松板製幅一尺八寸深サ一尺六寸長六尺ノ箱ニあんべヲ敷キ碎氷ト共ニ魚ヲ詰メ蓋付繩掛セリ。

かぢきハ各一尾宛腹腔ニ碎氷ヲ詰メ麻袋二枚及藁こも二枚ニテ包ミ竹籠ニテ巻キ繩掛セリ「ひめだい」ハびーる空箱ニ碎氷ト共ニ詰メ蓋付繩掛セリ。

輸送方法 本場ヨリ馬車ヲ以テ那覇港棧橋ニ送り十二月二十五日午後二時天草丸氷室ニ積込ヲナセリ、但シ同船氷室ハ從來使用セルコトナク室溫外氣ト同溫ナリシヲ以テ前日午後ヨリ豫メ氷五玉ヲ入レ室溫ノ低下ヲ計レリ、其後本船ハ午後四時出帆十二月二十八日午前中神戸港著同日午後六時冷蔵貨車ニ積換ヘ二十九日夜半東京著、三十日朝東京築地河岸魚市場共同水産販賣所ニ於テ本縣物産販賣斡旋所長及魚市場々長並ニ同調査係長立會檢査ノ上試賣セラレタリ。

試賣ノ結果 其ノ結果ニ就キテハ其ノ實情ヲ詳ナラシムルタメ便宜共同水産販賣所及物産販賣斡旋所長ノ報告ヲ其ノ儘掲載セントス。

▲共同水産販賣所報告

昭和二年十二月三十日付

拜啓益々御隆昌奉賀候陳者二十五日御案内被下候試験輸送鮮魚豫定ノ通本朝入荷致候間早速貴縣物産販賣斡旋所長吉原勤氏及ビ當市場々長立會ノ上直ニ販賣致候處大略左記ノ通ニ御座候

一、試験輸送品種

- 黄肌鮪二尾、目鉢鮪一尾入、一函
- 黒皮梶木一尾入籬卷三個、眞梶木一尾入籬卷一個
- まち魚びーる函五個

合 計 十個

一、入荷日時 昭和二年十二月三十日午前五時。

一、著荷造模様 總テ箱、籬卷共荷造完全ニテ亂箱ナシ。

一、氷残存量 各箱共氷ノ残存充分ニテ籬卷モ亦魚體ノ周圍ニ二、三分厚サニ氷ノ残存スルヲ見タリ。

一、品質 各魚共外見非常ニ宜敷鮮魚トシテ相當立派ナルモ、肉色紅色ヲ呈セズ薄桃色ナルガ爲刺身物トシテ價値ヲ減殺ス、此ノ缺點ハ漁獲後直ニ内臟鰓等ヲ除去シ氷ヲ充分ニ使用スルカ或ハ冷蔵庫ニ保管スルトキハ魚體ヲ凍結セザル程度ニ溫度ヲ保持スルコトニ注意スルコトニ依リ除去シ、充分紅色ヲ保存シ得ルコトと思フ。

冷蔵庫保管ノ溫度低ク魚體凍結スレバ直ニ變色シ易シ。

一、比較 此日同時ニ臺灣高雄産鮪ト小笠原産鮪ト入荷セシヲ以テ貴地産ト並列シ品評スルコトヲ得、非常ニ參考トナレリ。

(イ) きはだ鮪臺灣産ハ大函ニ入レ氷詰トシ貴地産荷造法ニ差異ナキモ中身眞紅ニシテ品位最モ宜シク小笠原産ト貴地産ハ品位略同様ニテ肉色薄シ。

(ロ) 梶木ハ眞梶木ノ中ニ赤色ト白色トノ二種アリ、赤色高價ニシテ白色之ニ次ギ何レモ大形ノ程高價ニシテ小形程安値ナリ。

今回ノ梶木ハ眞梶木中赤ナルモ何分小形ナル爲大形ノ高値ニ及バズ。

(ハ) 黒梶木ハ大形ニテ相當ノ品

一般ニ梶木ハ保存ニ堪ヘ得ル品ニテ臺灣物小笠原物共ニ大差ナシ。

(ニ) 目鉢鮪ハ黄肌鮪ノ如ク小笠原ト大差ナシ一般ニ大形物高値ナリ。

(ホ) まち魚、折々小笠原及伊豆七島ヨリ入荷シ最高十貫匁二十圓位最低十圓位ナリ。

今回貴地物ハ相當ニ品質良ク色澤モ至極良好ナリ。

一、價格 十貫匁ニ對シ左記ノ通りナリ。

品名	尾數	正味	單價	金額
目鉢 鮪	一	一一、〇〇〇	四〇、〇〇	四四、〇〇〇
黄肌 鮪	二	二二、五〇〇	四五、〇〇	一〇五、〇〇〇
黒皮 梶木	二	三六、二〇〇	二七、〇〇	九七、七四〇
黒皮 梶木	一	一一三、一〇〇	三二、〇〇	七三、九二〇
赤 梶木	一	八、九〇〇	三五、〇〇	三一、一五〇
まち 魚	五匁	五六、〇〇〇	一六、〇〇	八九、六〇〇
合計				四四二、一六〇

右金額ヨリ口錢七分(參拾圓九拾五錢)ト運賃六拾貳圓九拾六錢也及び配達賃九圓、合計壹百貳圓九拾壹錢差引致候

一、本日ノ市況 年末殊ニ正月物ノ仕入時期ナルト青森、北海地方吹雪ノ爲入荷薄、近海モ比較的入荷少ク殊ニ刺身物拂底ノ折ニテ相當ノ好人氣、何魚共賣行良シ。

今後ノ希望

(イ) 今回ノ成績ハ非常ニ良結果ニテ有望ノ事業ナレバ引續キ御送荷致サレ度シ。

(ロ) 魚體ハ成ルベク大形ヲ選ビ御送荷セラレ度シ。

(ハ) 鮪ハ冷凍セズ氷藏箱詰トセラレ度シ。

(ニ) 臺灣物モ三月中頃迄ハ好成绩ニテ相當利益ヲ有スルモ暖氣増スニ從ヒ危險ナレバ一月、二月中ニ送荷被致度。

▲沖繩縣物産販賣東京幹旋所ノ報告

昭和二年十二月三十日付

試賣ノ鮮魚昨二十九日夜半著荷仕候

本朝東京市魚市場々長竝ニ調査係長立會ノ上全部検査致候

荷造輸送完全申分ナシ

相場只今電報ノ通ニテ

品名	皮(十貫建値)	大	小
黒		三五、〇〇	二六、〇〇
同			二二、〇〇
まかぢき			三三、〇〇
きはだ			四二、〇〇
めばち			三五、〇〇
まち魚			一五、〇〇

以上ノ見當方本朝ノ建値ニ有之候

概シテ相場年末刺身物品薄ニテ氣配良好、市場發行ノ相場日報ニヨリ關西物、臺灣物ト比較シテ相當ト存候。

二月頃迄ニ品有之候ハバ繼續シテ御出荷仰ぎ度趣ニ有之候。
 當市場ニテ本朝臺灣物、小笠原物ト沖繩物三者比較品評致候處臺灣物ハ四尾箱詰トシテあんべらト藁トニテ詰メタルヲ以テ切口ノ肉ノ色鮮紅色ヲ呈シ最モ好評ニ候沖繩物及小笠原産ハ冷凍品ト同様肉色脱セテ外觀大ニ劣リ居候。
 今後出來得ベクバ箱詰（氷詰トナシ）ニテ一度試験相成度候簾卷ノ節ハ周圍ニ太キ竹ヲ五六本入レ肉ノ折レザル様ニスルコト必要カト存候胴切ニシタル時往々肉ノ放レタル所ヲ見ラレ刺身用ニ甚シク品質ヲ落スコト有之由ニ候まぢきハ今少シ大物喜バレ本朝市價大物ハ四十五圓以上ノ相場ヲ保居候。

第二回輸送試験

昭和三年一月四日及九日兩日ニ購入セル原料きはだ八尾、めばち一尾、かぢき一尾ヲ冷蔵庫ニ保存シ同月十二日出帆ノ臺北丸便ヲ以テ東京及大阪ニ輸送試賣セリ。
 試験資料處理方法ハ前回同様ナルガ鮪輸送用木箱ノ寸法ヲ變更シ、尙箱内ニハ菰ヲシキタリ。
 輸送方法ハ臺北丸甲板積トナシ覆ヲ施セリ、同船ハ十二日午後四時那覇港ヲ出帆十五日午前神戸ニ入港セリ、東京積送分ハ同地ニテ陸揚冷蔵貨車ニ積換ヘ十七日午前五時著十八日朝賣トナセリ、大阪試賣ノ分ハ十五日午後五時大阪入港後直ニ特別發動船ヲ以テ午後八時市場ニ配達十六日朝賣トナレリ。
 試賣ノ結果
 試賣ノ結果ニ就テハ便宜左ノ通試賣地ヨリノ報告ヲ掲載スベシ。
 ●一月十二日東京積送品ニ對スル批判

▲共同水産販賣所ノ報告

昭和三年一月十八日付
 拜啓益々御隆昌奉賀候 陳者第二回御試送ノ鮪三函昨朝入荷仕候へ共昨今近海ノ鮪漁有之且ツ關西ノ「大めじ」「小めじ」入荷致居候關係上前回入荷ノ時ヨリ一般ニ下落致居候殊ニ昨日ハ一寸不入氣ノ爲本日販賣致候農林省宮田技師モ立會臺灣高雄産鮪トモ比較致候左ニ今回ノ成績御報申上候
 一、品種數量 きはだ鮪二尾入三函。
 一、著販賣時 一月十七日午前五時著 十八日朝販賣。
 一、荷造 荷造完全ニシテ氷モ充分ナリ、但シ今回ノ容器ニハ三尾入トスルモ品質保存上差支ナカルベク、運賃ヲ輕減スルダケ有利ナルベシ。
 臺灣荷造ハ容器稍大ナルモ四尾入レニテ完全ニ到著ス。
 一、處理 今回内臟ヲ除去セシハ至極適法ニテ稍々外見ヲ損スルモ肉質及肉ノ色合宜敷好評ナリ、但シ内臟除去ノ際多少肉質ヲ傷ケタル憾ミアリ。
 一、價格 六尾正味七十四貫三百匁 一三三、五替
 百七十四圓六十一錢 内口錢七分十二圓二十二錢
 運賃三十四圓十二錢 配達賃六圓
 差引金百二十二圓二十七錢
 一、臺灣トノ比較 本日入臺灣きはだ鮪ハ内臟ヲ除去セザルモノニシテ魚體ノ大サハ大差ナシ。

沖繩産	色澤	肉質	單價
臺灣産	可	可	二三、五〇
	可	可	二一、〇〇

参考

(イ) 一函三尾入トシテ可ナリ但シ三月頃ニハ氣候ノ關係上ニ尾入トシテ氷ヲ多量ニ入レル必要アラン。
 (ロ) 内臓除去ノ目減ト賣値約一割高ノ經濟上ノ利益關係ハ尙一層研究ヲ要スルモ、大體遠距離輸送ニハ肉質保持上内臓除去ノ方法ヲ可トスベク殊ニ二月下旬以後ハ氣候ノ關係上必ズ内臓ヲ除去スル必要アリ。 以上

▲沖繩縣物産販賣東京幹旋所報告

昭和三年一月十八日付第二回鮮魚試賣報告

十六日 神戸大森組ヨリ鮮魚積荷ノ報著

十七日 著荷三函故障ナシ

市場不況ノ爲入庫

十八日 朝ノ市場ニ掛ク

きはだ二尾入二箱

數日來ノ不況ノ爲十貫二十三圓見當詳細ハ後報

市場狀況月末人氣一般ニ不況ナルニ近海まぐる、かぢき類焼津産めばち、大めじ等ノ入荷多量ニアリ臺灣ノきはだハ丁度三十四日前ヨリ入荷薄。

現品検査スルニわた抜キシアリ氷モ充分存シ著荷状態ハ上々ナリ。但シわた抜多少不慣レノ形跡アリテ魚體ヲ少シク損傷セル模様ナリ。

荷造六本ハ二箱ニテ充分ナラン、試験ノ爲充分嚴重ニ氷モ多ク詰ムル關係上三箱ニ詰メタルモノナランモ販賣用トシテハ三本詰メニテ宜シカラシ。

其ノ主旨運賃關係ニアリ。

本朝農林省ヨリ宮田技師モ來場シテ親シク實況ヲ調査セラレ候

但シ不況ノ爲當時値未ダ決定セズ。

一月十九日付農林省宮田技師ヨリ注意事項ノ一、二

一、荷造ノ件

將來一箱三尾入トスルコト考慮煩ハシ度シ。

二、外見及肉色

本品ハ内臓ヲ除去シアリ内臓アルモノニ比シ外見惡シキ爲メ一本賣ニスベキ小物ハ冬期ハ内臓ヲ除去セザル方宜シカルベシ、但シ今回著荷ノ分ハ別ニ差支ヘナシ將來割載ノ方法ヲ充分注意セバ可ナリ。

肉色ニ就テハ最初營業者ハ内臓割載ノ結果外見ハ惡シキニ因リ肉色モ必ズ惡シキナラント觀察セシ如キモ小生ハ内臓ハ出來得ル限り除去スベク、肉色モ除去セル方理論上可ナル筈ト述ベシガ其ノ後切斷シテ批評ヲ求メタルニ臺灣産ヨリ良好ナリキ。

●大阪積送品ニ關スル批判

以上

▲沖繩縣物産販賣大阪幹旋所報告

昭和三年一月十八日付冷蔵移出鮮魚試賣ニ關スル件

曩ニ御依頼相成候首題ノ件別紙ノ通御了知相成度候

追而荷造費等ノ精算ニ依リ經濟的採算成績御一報ヲ煩度候

代金ハ後便送付ノコト

冷蔵移出鮮魚試賣成績

一、出 荷 者 沖繩縣水産試驗場

二、委託問屋 大阪市雜肴場小徳商店(店主井上藤四郎)

三、著 荷 期 昭和三年一月十五日午後五時入港

特別發動船ニテ午後八時市場著

四、販賣時期 同月十六日午前五時

五、荷 造

甲 函 (二尾入) 缺點ナシ

乙 函 (一尾入) 缺點ナシ 共ニ頭付腹ヌキ

丙 簀 卷 (一尾入) 缺點ナシ

但シ寒中ハ此裝置ニテ可ナルモ稍暖氣ヲ増スノ候トナレバ箱詰ヲ安全トス、血合ヲ撤去此部ニ水ヲ詰メルコト。

六、水ノ殘存量

甲 函 八百匁 著シク減ゼルヲ認ム

乙 函 二貫目

丙 簀 卷 殆ンド原量ト認メラル

七、魚種ノ重量ト價格

甲函冷蔵魚きはだ正味 十五貫四百匁 單價 四一、〇〇 總價 六三、一四

乙函冷蔵魚めばち正味 七貫二百匁 二六、五〇 一九、〇八

丙簀卷冷凍魚黒皮かぢき 二十二貫 一七、〇〇 三七、四〇

八、魚種ト價格

めばちハきはだ(絲しび)ニ比シ價三割方安キヲ普通トス(肉質ベタ／＼食味劣ルニ依ル)

黒皮かぢきハまかぢきニ比シ三割内外安キヲ普通トス(肉質ベタ／＼脂肪少ク味劣ルニ依ル)

大型物ト小型物トハ著シク値開ヲナスモノニシテ十貫匁以上ハ十五貫匁以上トハ約一割、十貫匁以下トハ尙一割以上トス。

大阪市ニテハ冷凍魚ハ歡迎セラレズ、從ツテ五割内外ノ値開ヲナス場合少カラズ刺身トシテ肉質崩レ易ク崩レテ水分浸出シ容器ニ水ノ溜ルコトアリ焼物トシテハぶりノ如キハ此限りニアラズ。

九、品質ノ批評ト他地方産トノ比較

魚體ハ何等異狀ヲ認メズ鮮魚トシテノ形態ヲ良ク存シ、肉質善良色澤固有ノ特性ヲ現ハシ缺點ナシ。

此際臺灣物ノ入荷アリ同時ニ販賣セシモノト比較セシニ外形ニハ差異ナキモ肉質色澤ハ本縣遙ニ優位ニシテ賞讃ヲ

博セリ。

同時ニ鹿兒島物アリシモ本日ノ貨物ハ殆ント下位ニテ比較スベキニアラズ。

十、市況

本日ハ品薄ニテ好況ナリシヲ喜ブ。

十一、販賣價格ト手取金

賣上代金 百四十七圓六十八錢。

内

販賣手數料 七、三八

本船運賃 四、二八

特別發動機船代 〇、九五

ハシケ配達賃 二、一〇

計 一四、七一

差引手取金 百三十二圓九十七錢

十二、結論

今回輸送セラレシ冷蔵鮮魚ハ外形肉質共ニ良好少シモ缺陷ヲ認メズ、市場ニ歡迎セラレ入荷ヲ渴望セルノ狀況ニテ成績極メテ優良ナルヲ喜ブ。

第三回輸送試験

自三年一月十四日至二十一日間ニ於テ營業者ヨリ購入セルきはだ鮪十一尾、めばち三尾、かぢき一尾、めかぢき一尾及二月一日及二月八日陸上ダセル指導船圖南丸漁獲物中ノきはだ四尾、めかぢき一尾、小めばち四尾、小きはだ(きめぢ)二尾ニ就キ冷蔵保存ノ上二月十二日出帆ノ天草丸ニ積込ミ東京、大阪及京都ニ輸送シ試賣ニ付シタリ。

試験資料處理及冷蔵荷造方法 鮪及めかぢきノ處理及保存方法ハ前回ト同様ニ行ヒタリ、かぢきハ之ヲ凍結セシムルコトナク鮪ト同様ニ冷蔵シ東京へハ箱詰メ大阪へハ簾巻トシテ發送セリ、但シ木箱寸法ハ少シク大ニナセリ。

輸送方法 天草丸氷室ニ二月十一日氷五玉ヲ入レ置キ二月十二日午後二時鮮魚積込ラナシ午後四時出帆シ、東京及京都積送品ハ神戸著ノ上冷蔵貨車ニ換ヘシガ二月十七日東京ニ著セリ、大阪積送品ハ天候ノ爲天草丸神戸ニ滯船セシ爲神戸陸揚後自動車便ニ依リ十五日午後八時市場ニ到着セリ、尙京都宛送品ハ二月十五日午後四時丹波口驛ニ到着セリ

試賣ノ結果

第三回輸送試賣品ニ關スル各地ノ報告左ノ如シ。

●大阪積送品ニ關スル批判

▲大阪斡旋所長報告

昭和三年二月二十九日付鮮魚試賣要項

一、出荷者 沖繩縣立水産試驗場。

一、荷受人 大阪市雜喉場魚問屋(商號)小徳井上商店

一、著荷時刻 昭和三年二月十五日午後八時著（天草丸天候ノ爲入荷遅延シ當日ハ神戸滞泊シタルニヨリ同地ヨリ自動車ニテ陸送ヲナス）

一、販賣日時 翌十六日午前六時

一、荷造方法ノ批判 荷造及残氷ハ目下ノ氣候トシテハ不足ナキモ此先キ暖氣増ニツレ簀巻ハ不完全ナランカト思考ス。

一、品質ニ對スル批判 今回入荷ノ鮪カぢき、めかぢきノ肌悪シク眼ハ既ニ赤色ヲ呈シ從ツテ肉色モ鮮度ヲ失シ前回ニ比シ非常ニ品質劣レリ。

右ノ結果ヨリ考察スルニ輸送中ニ鮮度ヲ變化セシニ非ズ、那覇發送ノ際既ニ魚ノ鮮度宜シカラザリシニ非ラズヤト思惟ス、要スルニ本魚ハ漁場ヨリ著港迄ノ間ニ魚ノ保存法ニ氷ノ使用量少ク其鮮度劣リタルモノヲ冷凍セラレタルモノナルガ故ニ一層鮮度ヲ損シタルニ非ラズヤ、冷凍品ヲ冷蔵ニテ遠方ニ輸送スルハ新鮮ナル魚ヲ冷凍セシ場合ト雖モ好結果ヲ見ルハ難事ナリ。

一、市況 東海道焼津方面ヨリ入荷多量ヲ見タル爲相場下押状態ナリキ。

一、販賣費用 賣上金額ノ五分。

一、仕切金 別紙仕切書ノ通

●京都積送品ニ對スル批判

▲沖繩縣物産販賣大阪幹旋所長報告

二月二十九日付鮮魚試賣要項

一、出荷者 沖繩縣立水産試験場。

一、荷受人 京都市中央卸賣市場。

一、著荷時刻 昭和三年二月十六日午後四時一分丹波驛著。

一、販賣ノ日時 同年同月十七日午前五時五分。

一、荷造方法ノ批判 荷造ハ稍々完全ナルモ容器大ニ失シ輸送中仲繼取扱ニ困難ナランカト思考ス。

一、氷ニ關スル件 當時ノ季節トシテハ完全ナルモ氷ノ残存量餘リニ多キ嫌アリ。

一、魚種別ノ目方

め ば ち 一本 十五貫三百匁

き は だ (イトシビ) 二本 一、十二貫六百匁
二、十三貫六百匁

一、魚種別賣上代金

め ば ち 單價十貫 十九圓ヅツ 金二三圓三七錢

き は だ 同 十八圓ヅツ 金四七圓一六錢

一、品質ニ對スル批判(他地方物ト比較對照)

當市場入荷靜岡縣燒津積及三重縣尾鷲同長島日向地方、土佐地方物ニ比シ今回ノ分ハ品劣レル憾アリ。

一、市況 十四日以來引續キ日々一割内外ノ下落ヲ見タリ要スルニ入荷潤澤ナリシニ原因セリ。

一、販賣費用 手數料賣上金額ノ一割ヲ申受ク。

一、仕切金 六十三圓四十七錢(運賃諸掛を引去リ二月二十日送金濟のこと)

一、結論 從來臺灣ヨリ屢々當市場へ入荷セルヲ見ルニ遠方ナルガ故ニ品質ニ著シキ優劣アリ、從ツテ値段モ不同甚シク貴地モ同様ノ關係アルヲ免レズト思考セラレ今後暑氣ノ候ハ一層危險ナルガ如シ。

●東京積送品ニ對スル批評

▲共同水産販賣所報告

昭和三年二月十八日付

拜啓御隆昌奉賀候

陳者今回御試送ノ鮮魚三箇昨十七日入荷仕候處各地ノ鮭類相當入荷ノ場合ニテ品質前回ニ比シ稍々劣リ居リ、且ツ小形ニ候間賣口餘リ宜シカラズ本日取詰メ左記ノ通御仕切致候間御報知申上候

左記

一、入荷日	二月十七日			
一、販賣	二月十七日、十八日			
品名	尾數	重量	單價	金額
まかぢき	一	八、二〇〇	一〇、〇〇	一六、〇〇
めかぢき	一	一四、五〇〇	一五、〇〇	二一、七五
きはだ	四	四二、七〇〇	一八、〇〇	七六、八六
小めばち	四	一九、三〇〇	一三、〇〇	二五、〇九

きめじ 二 五、四〇〇 一三、〇〇 七、〇一一

合計 一二 一四七、一一

一、商況 例年稀ナル暖氣ノ爲市内ノ賣行餘り宜シカラズ、殊ニ選舉騒ノ爲却ツテ幾分賣口ヲ減ズ、千葉縣ノまかぢき臺灣ノきはだ、まかぢき、土佐ノびんなどが等入荷相當アリ。

一、比較 容器完全ニシテ氷充分残存スめかぢき籐巻キ完全ナル荷造ナリ、前回ニ比シ品質稍劣レルハ積出前ニ既ニ幾分品劣リセシモノナランカ、同品質ニシテ大形モノナレバ十貫まかぢき二十三圓、きはだ二十三圓、めばち十六圓位ナリ。

容器ト魚ト尾數モ至極適當ト思ハル。

四、結果ノ吟味

(1) 重量ノ變化

きはだハ鰓及内臓ヲ除去セル爲メニ約七%ノ重量ヲ失ヒ販賣重量ハ原料ニ對シテ平均八九、六%ニ當レリ。

きはだ重量表

丸掛重量	九八・〇〇斤	腸拔後重量	九一・〇〇斤	荷造時重量	—	販賣重量	—	腸拔後	九三・〇〇%	荷造當時	—	販賣時	—					
<table border="1"> <tr> <td>百分率</td> <td>百分率</td> <td>百分率</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </table>													百分率	百分率	百分率	—	—	—
百分率	百分率	百分率																
—	—	—																

計平均	めばち			平均	同	同	同	同
	同	同	同					
一五九・〇〇	五四・〇〇	五四・〇〇	五一・〇〇	五六・〇〇	一四八・五〇	一四八・五〇	一四八・五〇	一五一・〇〇
一三九・〇〇	四七・〇〇	四七・〇〇	四五・〇〇	四七・〇〇	一三九・五〇	一三九・五〇	一三九・五〇	一三九・五〇
一三七・五〇	九二・五〇	四五・〇〇	四五・〇〇	五一・〇〇	一三七・五〇	一三七・五〇	一三七・五〇	一三七・五〇
八七・五〇				九三・二〇	九四・〇〇	九四・〇〇	九四・〇〇	九二・五〇
				九〇・七〇	八八・五〇	八八・五〇	八八・五〇	九二・六〇
八六・五〇				九〇・七〇	九一・〇〇	九一・〇〇	九一・〇〇	九一・〇〇

九八

(2) 荷造費

即鰯内臓等ノ除去ニ依ル重量損失ハ何レモ一〇%以内ナリ。

依ツテ第二回輸送試験ノ際ニ於ケル東京試賣品ニ對スル批評ノ如ク漁獲後腸抜ヲナス時ハ品質良ク而モ價格ニ於テ一割内外ノ差アルヲ以テ經濟的ニモ利益トスル所ナルヲ知ルベシ。

鮪類ヲ箱詰トスル場合ニ於テハ荷造費ハ原料代一割餘ニ當リ相當多額ヲ要シ、其ノ費用中最モ大ナルハ箱代及氷代ナリトス、故ニ箱ノ大サヲ適當ニ選擇シ買入時期ヲ選ビ原料代價ヲ低廉ナラシメ尙適當ナル小形魚類ト入レ合セスル等ノ點ニ就イテハ更ニ考究ヲ要スル所ナリトス。

尙本試験ニ於ケル荷造費ノ平均左ノ如シ。

めばち及 きはだ及 めばち	かぢき	ひめだい (方言ま ち)	荷造費		造		費				
			尾數	魚重量	竹箱	コモ、ア ン、ヘ、ラ	釘麻袋	繩	氷	積込費	計
木箱ニ詰 一箇ニ付 魚百斤ニ付 荷造百分率	籾ニ卷 一箇ニ付 魚百斤ニ付 荷造百分率	ビール箱詰 一箇ニ付 魚百斤ニ付 荷造百分率	二、八 一、三五	二、三〇 一、〇〇	四、五〇 一、九五	二、〇〇 〇、一二	〇、三〇 〇、一二	一、九〇 〇、八五	二、四三〇 一、〇六〇	三、五〇 一、五一	七、七〇〇 三、三五〇
			一、〇	一一五	五、五〇 四、八〇	二、六 一、九二	四一五 三六二	一七五 一五三	二、九九九 二六二	二五九 二二六	一、八九一 一、六五〇
					五、八四	〇、八八	〇、四	二、六	三一、五	四、五	一〇〇
					四、〇、〇	一〇、二	二、七〇〇	一、八〇	二、六〇	一、七〇	一〇〇

(3) 販賣手数料

東京 共同水産販賣所 賣上金高ノ七分

大阪 小徳商店 同 五分

九九

(4) 京都 京都生魚株式会社 同 一割
運賃其他諸掛

輸送運賃ハ荷造後皆掛重量百斤ニ對シテ平均ニ於テ東京三圓八十錢、大阪一圓十五錢、京都二圓八錢ノ割合トナル
又魚種別ニ計算スレバ左ノ如シ、但シ諸掛中ニハ運賃配達其他通信料送金料等ヲ含ムモ之ハ僅少ナルヲ以テ其合計
ニツキ茲ニハ荷造後皆掛重量ヲ各魚種別ニ荷造當時又ハ腸拔直後重量ニ按分シテ計算セリ。

積送先		東京	大阪	京都	摘要
魚種	原料百斤ニ付	七、三二	二、六一	四、二〇	箱詰
きはだ		五、五〇			箱詰
かぢき					箱詰
めばち		九、一〇	二、六一	四、二二	箱詰

魚種別運賃諸掛費

(5) 相場場

輸送試賣鮮魚ノ各地相場左ノ如シ。

魚種	相場場	一貫ニ付			一斤ニ付		
		第一回	第二回	第三回	第一回	第二回	第三回
きはだ	東京	四五・〇〇	二三・〇〇	一八・〇〇	七二・〇	三七・五	二八・八
	大阪		四〇・〇〇	一二・五〇		六四・〇	二〇・〇

魚種	相場場	一貫ニ付			一斤ニ付		
		第一回	第二回	第三回	第一回	第二回	第三回
かぢき(黒皮)	東京						
	大阪						
同(赤皮)	東京	三五・〇〇			五六・〇		
	大阪						
	京都						
めばち	東京	四〇・〇〇			六四・〇		
	大阪		二六・五〇	六・七五		四二・四	一〇・八
	京都			一九・〇〇			三二・〇
めかぢき(方言ツン)	東京			一五・〇〇			二四・〇
	大阪			六・五〇			一〇・四
ひめだい	東京	一六・〇〇			二五・六		

(6) 相場ト手取金其他ノ關係

販賣市場ノ相場ヲ知りテ手取金ヲ概算スルコトハ妥當ナル原料買入値段ヲ窺知スル場合又ハ損益ヲ豫想スル場合ニ
必要ナル方左ノ如キ方法ニテ近似的概算ヲ得ベシト思考ス。

$(十貫建相場) \times 1.6 \times (\text{歩止リ}) \times (\text{一口錢率}) - (\text{原料百斤ニ對シテノ運賃諸掛}) = (\text{原料百斤ノ手取金})$

(原料百斤ノ手取金) - (原料百斤ニ對シテノ荷造費) - (原料百斤買入價格) - (間接費) = 損益
 歩止リ荷造費運賃諸掛及口錢率ハ魚種送先等ニ依テ異ルガ前掲ニ於ケル平均數ヲ基礎トシテ摘録スレバ左ノ如シ。
 但シ間接費ハ營業費ニ屬スルモノナレドモ本試験ニ於テ其數値ヲ知ルハ困難ナリ。

送先別	魚種	歩止リ	口錢率	原料百斤ノ運賃諸掛	原料百斤ノ荷造費
東 京	き は だ	〇、八九六	〇、〇七	七、三二	三、三五
	ひ め だ い	〇、八九六	〇、〇七	九、一〇	三、三五
大 阪	か め ば ち	〇、八九六	〇、〇五	五、五〇	一、六五
	め き ば ち	〇、八九六	〇、〇五	二、六一	三、三五
京 都	め き ば ち	〇、八九六	〇、一〇	四、二〇	三、三五
	め き ば ち	〇、八九六	〇、一〇	四、一二	三、三五

(7) 收支損益
 但荷造費ニハ人夫賃ヲ含マズ

本輸送試験ニ於テハ圖南丸漁獲物ヲ除キタル分ニ就キ購入原料八百七拾八圓貳拾參錢ニ對シ總支出高荷造費ヲ加ヘ

九百六拾七圓九拾參錢、此賣上金千八圓貳拾參錢トナリ荷造費、手数料、運賃諸掛ヲ控除スルトキハ百八拾五圓八拾參錢ノ損失ヲ來セリ。

試験回次	送先	原料代金	荷造費	計	賣上金	手数料 其他諸掛	手取金	損益
1	東 京	二三八七〇	二〇六三	二五九三三	四四二一六	一〇三・二二	三三八九五	七九六三
2	同	一四二六六〇	二〇四二	一六三〇七	一七四六一	五二・六四	一一・九七	四一・〇
2	大 阪	九八・五五〇	九五二	一〇八・〇六	一四七・六八	一四・七一	一三・九七	二四・九〇
3	同	三二・四〇	三〇・五三	三三・九三	一七三・二四	三三・九三	一三五・二一	二七・六三
3	京 都	七五・九〇〇	八六四	八四・五四	七〇・五三	一七・六三	五三・九〇	三二・六四
計		八七・三三〇	八九七〇	九六・六三	一〇〇八・三三	二二六・二二	七八二・一〇	一八五・八三

尙魚種別ニ諸費用ヲ按分シテ比較スルトキハ左表ノ如シ。

魚種	試験回次	送先	原料重量	原料代金	荷造費	計	賣上金	手数料	運賃諸掛	手取金	損益
き は だ	(1)	東 京	一五・五	三六・八五	五・一〇	四二・〇五	一〇五・七五	七・四一	一一・九九	八五・三五	四三・〇〇
	(2)	同	五〇・九五	一四二・六六	二〇・四二	一六三・〇七	一七四・六一	一一・三三	四〇・四三	一一・九七	—
大 阪	(2)	同	一七・〇	四六・一七	五・七八	五二・九五	九二・二〇	四・五六	三・五〇	八三・一四	三一・一九

同	めかちき	ひめだい	かぢき	めげち			
				計	(3)	(2)	(1)
(3)	(3)	(1)	計 (3) (2) (1) (1)	計 (3) (3) (2) (1)	計 (3) (3)		
東 京	大 阪	東 京	同 大 阪 同 東 京	京 都 同 大 阪 東 東	京 都 同		
100.0	127.5	397.0	687.5 57.0 148.5 850.8	327.5 73.0 108.0 95.5 151.0 107.7	184.5 180.0 528.23	828.5 248.55 239.5	228.95
	25.50	83.37	148.23	92.90 107.0 134.4 137.7 33.40 21.90 21.90 32.98	6.52 6.18 58.85	27.50 240.25 70.2	
	21.5	56.0	21.5	107.0 21.5 107.0 21.5 107.0 21.5 107.0 21.5	5.875 5.875 5.875	140.75 140.75 140.75	
	27.75	88.97	158.85	107.0 21.5 107.0 21.5 107.0 21.5 107.0 21.5	5.875 5.875 5.875	140.75 140.75 140.75	
	11.44	89.60	25.76	96.45 68.7 21.5 11.44 21.5 11.44 21.5 11.44	5.875 5.875 5.875	140.75 140.75 140.75	
	5.7	6.27	5.8	68.7 21.5 11.44 21.5 11.44 21.5 11.44	5.875 5.875 5.875	140.75 140.75 140.75	
	24.6	24.5	1.48	158.4 73.7 18.1 39.6 21.5 11.44 21.5 11.44	5.875 5.875 5.875	140.75 140.75 140.75	
			214.73	73.7 18.1 39.6 21.5 11.44 21.5 11.44	5.875 5.875 5.875	140.75 140.75 140.75	
				298.6		744.9	160.79

一〇四

要スルニ本試験施行當時ニ於テハ鮪、旗魚等ノ漁獲極メテ少ク本場ハ鮪漁業奨励上比較的高價ニ原料ノ購入ヲナシ
右ノ如キ欲損ヲ生ジタリ、但シ其ノ主ナル原因ハ第三回大阪積送品々質劣リ當時相場下押状態ナリシ爲賣價金二十錢
ニシテ買入値段（金三十錢）ニ達セザルガ如キ結果ヲ來シタルニ在リ、而シテ要スルニ本試験施行ニ關シテハ今後改
善ヲ要スベキ點尠カラズト雖モ原料買入ニ際シ那覇市ノ當時ニ於ケル普通相場きはだ一斤二十錢乃至二十三錢内外ノ
普通相場ヲ以テ原料ヲ購入スルモノトセバ大體收支償フ見込ナリ。

(8) 原料處理

内臓ヲ除去シテ保存輸送ヲナセルモノ肉質良好ナリトノ結果ヲ得タリ。
内臓除去ニ依ル重量損失ハきはだニ於テ約七%内外ナルモ、一割内外ノ値開キヲ有スルニ因リ除去スル方利多シ。
腸抜キニ就キテノ注意事項ハきはだニ於テハ鰓蓋ノ所ヨリ腸ヲ抜キ腹部ノ切開ヲナサザルカ又ハ可及的切口ヲ短少
ナラシムルヲ適當トシ、かぢきニアリテハ切口ハ稍長クセザルヲ得ザレドモ血合ヲ充分ニ除去スル必要アリ。

(9) 保存法

第一回並ニ第二回試験品ハ何レモ品質良好ナリトノ評ヲ得タルモ第三回輸送品ニ於テハ然ラズ。
一般ニ鮪ハ勿論ナルガ旗魚ニ於テモ凍結セシメタルモノハ市場ニ於テ喜バレザルガ如シ、然ルニ本試験ニ於ケル如
ク少シモ凍結セシムルコトナク單ニ冷蔵保存スル場合ニ於テハ二十日餘ニシテ既ニ鰓蓋等紅潮スル事實アリ、大阪試

賣品ノ如キハ甚シク肉質ヲ損ジ長期ノ保存ニ耐エザルモノノ如ク觀取セリ、又一面凍結セシムル時ハ荷造ハ簾卷ニテ足リ凡テノ費用ヲ縮少セシメ、且ツ永ク腐敗ヲ防止スルヲ得ベシ、故ニ將來ハ凍結セシムルコトナクシテ長ク變質ヲ防グベキ冷藏方法ト凍結魚ニシテ不評ヲ來スベキ原因ヲ除去スル方法ニ就キテ研究ヲ必要トス。

(10) 荷造方法

箱詰荷造ニ於テ荷傷ミ其ノ他ノ缺點ナキヲ得タルモ木箱ノ寸法ニ就テハ、大型トスレバ收容量ヲ増シ經費ヲ減ズベキモ輸送上ノ不便ヲ生ズベク、小型トスレバ漸ク一、二尾ヲ入ルノミニシテ不經濟トナル點アリテ最初ヨリ考究セル所ナルガ本試験ニ於テ用ヒタル箱ノ寸法容量價格等左ノ如クニシテ最後ノモノ比較的經濟的ナリト認メ得ベシ。

箱	寸法		容積	容		一方當リ	箱一箇價格
	巾	深		尾數	重量		
一尺	一尺六	六〇	一七・二八	三〇	二四八	一四・三	四、五〇
二〇	一・二	五〇	一〇・〇〇	二〇	一八〇	一五・〇	五、〇〇
一・八	一・二	四二	一〇・〇七	二〇	一五八	一五・七	四、三〇
二〇	一・五	五・四	一五・一二	三・五	二九〇	一九・二	四、四〇

簾卷荷造ニ於テハぐれしんぐセシ薄キ氷層ヲ殘存シテ市場ニ到著セルガ如シ、依ツテ凍結魚ノ冬期ノ荷造法トシテハ此方法ニテ充分ナリト認メラル、夏季ニ於テハ猶研究ヲ要スベシ。

(11) 輸送ニ就テ

各地宛輸送ニ對シテ當港午後四時出帆ヨリ到著迄ニ要シタル時間ハ東京百〇九時間、大阪七十六時間、京都九十六時間ナリ。

五、結 論

現時那覇市ニ於テ集散スル鮮魚ハ未ダ其數量少ク魚價ハ他府縣重要漁業地ノ夫ニ比較シテ割合ニ不廉ナリ、故ニ本試験ニ於テモ主トシテ買入價格ノ關係上ニ採算ニ了レリ。

然ルニ冬期ニ於テハ東京、大阪及京都方面ニ鮪、旗魚等鮮魚ノ小口輸送ヲ行ヒ其ノ鮮度ヲ充分ニ保持シ、而モ二週間内外ノ船待チ保存ヲ冷藏庫ニ於テナスハ鮮度ヲ良ク保持シ且ツ輸送中氷ノ保チヲ良好ナラシムル利益ヲ有スベキ理由ヲ認メ得タリ。

輓近本縣ニ於テハ鮪、旗魚等ノ漁業發展シ各漁船ノ水揚高モ増大シツツアリ、之等漁獲物ハ將來縣内消費量ヲ超過セントスル趨勢ニ在リ從ツテ鮮魚ノ單價ハ自然低廉トナルベキヲ以テ引續キ此種試驗ヲ行ヒ販路ノ擴張ヲ計リ漁獲ノ増大ト相俟ツテ漁業者ノ收益増進ヲ期スル必要アリ、尙ホ漁業地ニ於テ鮮魚ヲ買入レ遠隔地消費地ニ輸送ノ上販賣スル場合ニ於テハ市價ノ變動常ナラザルニ因リ產地ニ於テ荷造方法、保存方法等ニ就キ研究調査スルノ外本邦主要集散地ノ鮮魚出廻狀況消費地ニ於ケル短期保存方法等ニ就テモ更ニ一層綿密ナル聯絡調査ノ途ヲ講ズル必要アリト認メタリ。

冷藏庫ノ經營

本場冷藏庫ハ昭和二年八月十日起工シ同年十一月三十日竣工セルヲ以テ十二月七日ヨリ運轉ヲ開始シ、先ヅ鮮魚冷藏

試験ニ著手シ鮪、旗魚、ひめだいな等ノ冷蔵ヲナシ、併セテ指導船圖南丸及一般當業者ノ爲メ鮪、其他ノ延繩漁業用餌料魚やまとみずん、ぐるくま、なかうを等ノ凍結保存ヲナセリ、然ルニ當時出漁船數少ナキト冷蔵庫利用ノ觀念徹底セザリシ爲當業者ノ之レヲ利用セルモノ少ク漸ク底延繩漁業ノ時期ニ到リテ餌料魚ノ冷蔵ヲ委托スルモノ多キニ到レリ、而シテ本年度四箇月間ニ於ケル冷蔵庫運轉狀況ニ就キ述ブレバ左ノ如シ。

運轉時間

自十二月七日至三月三十一日四箇月間ニ於ケル運轉時間ハ一日平均三、三時間ニシテ其ノ甚ダ少キハ未ダ水産物一般ノ保管依頼ニ應ゼズ單ニ鮮魚冷蔵輸送試験ト一般延繩餌料魚ノ保管ヲナスノミナリシ爲メ入庫數量少カリシ爲メナリ。

月次	日數	運轉日數	運轉時間	一日平均運轉時間
十二月	二五	一八	一二四・五	—
一月	三一	二四	一〇九・五	—
二月	二九	二一	八二・五	—
三月	三一	一九	六六・五	—
計	一一六	八二	三八三・三	三・三

雲丹製造試験

前年度ノ繼續試験ニシテ七月八日ヨリ十一日迄、四日間島尻郡波名喜村出砂ニ於テ婦女子ノ採集シタル海膽ノ卵ヲ八十錢ニテ購入シテ之ガ製造試験ヲ施行セリ。

購入シタル海膽ノ卵ヲ筥ニ入レ、海水中ニテ攪拌シツツ内臟竝ニ殻ノ小片及變色シタル卵等ヲ除去シタル後長二尺幅一尺五寸高二寸底部ニ竹ヲ附シタル木枠ノ篋上ニ厚三分位ニ卵ヲ載セ、鹽ヲ一面ニ撒布シテ更ニ卵ヲ二分位ノ厚サニ載セ鹽ヲ撒布シタル後蠅又ハ塵埃ノ附著セヌ様硫酸紙ヲ覆ヒ三晝夜間室内ニ放置シテ水分ヲ滴下セシメテ水切ヲ行ヒ其ノ適度ヲ見計ヒ少量ノ酒精ヲ振りカケ桶ニ漬込ミ密閉シテ冷所ニ貯藏セリ、用鹽ノ量ハ二等鹽ノ乾燥シタルモノヲ原料ニ對スル三割ヲ使用セリ。

製品ハ前年ニ比シ色澤ニ於テ良クナリタリト雖モ未タ充分ナリト云フヲ得ズ、之レ海膽ノ種類ニ基因スルコト多ケレド老齡海膽ノ暗黒色ヲ呈スル卵ノ混入シタルニ因ル。其ノ歩留ハ左ノ如シ。

原料卵	十六貫五百八十匁
製品	七貫六百十匁
此歩留	四五
次ニ海膽ト卵トノ歩留ニ付特ニ調査セルモノ左ノ如シ。	
海膽	六貫二百匁
採集卵	四百匁
此歩留	海膽一貫ニ付六十四匁

一、生産費並製品處分
本製造ニ要スル經費左ノ如シ。

品目	數量	單價	金額	摘要
卵購入費	三一升	八〇〇	二四・八〇〇	
食鹽	一畝	二・二五〇	二・二五〇	
蠟	八〇高	一・二五	一〇・〇〇〇	
レツテル	八〇枚	〇・一〇	八〇〇	
酒精	半磅	一・二〇〇	五五〇	
雜費			三八・九〇〇	
計				

一塚ノ生産費四十八錢六厘(但シ九五匁入) 雲丹一貫匁ノ生産費五圓十錢

製品ハ九五匁入ノ瓶詰ニシテ五拾錢ニテ縣外及市内ニ於テ試賣シタルニ、忽チ品切トナリ希望ニ副フコト能ハザル状態ニシテ好果ヲ得タリ。 尙ホ近來各地ニ之ガ製造ヲ計畫スル者アルヲ以テ實地指導ヲナシ、更ニ販路ヲ擴張シテ斯業ノ普及ヲ計ラントス。

養殖部

海綿養殖試驗

一、試驗場所

- (一) 島尻郡具志川村宇島島地先
前年度試驗場所ニ同ジ。
- (二) 宮古郡平良町松原地先(與那覇灣)
前年度試驗場所ニ同ジ。

二、試驗施行期日及投入場所竝數量

- (一) 島尻郡具志川村島島地先
自昭和三年九月二十七日 至昭和三年十月四日。
- (イ) 「コンクリート」盤製作及運搬作業
自九月二十七日) 三日間
至九月二十九日) 三日間
「セメント」大樽十個ヲ使用シテ丸型「コンクリート」盤二千五百三十個、三角型「コンクリート」盤六百七十個ヲ製ス。
- (ロ) 海綿種苗採集及植付投入作業
自九月三十日) 四日間
至十月三日) 四日間
- (ハ) 投入盤整理及古盤取揚作業
自十月三日) 二日間
至十月四日) 二日間

古盤取揚數、二千二百二十個。

(三) 投入場所及數量

A	點 (別紙圖面ノ通り)	三角盤	六百十個
		丸型盤	千七百九十個 (内古盤參百個ヲ含ム)
B	點	三角盤	五個
		丸盤	九十個
C	點	三角盤	五十五個
		丸盤	百七十個
計		三角盤	六百七十個 (海綿附著數二千十個)
		丸盤	二千五十個

丸型「コンクリート」盤投入數量ガ、製作盤數ヨリ少キハ種苗トスベキ天然海綿ヲ採集スルモ甚ダ小形ニシテ適當ナルモノ尠ク植付投入スルコト能ハザリシニ因リ之ガ植付ヲ後日ニ譲リ作業ヲ中止セル爲メナリ。

(二) 宮古郡平良町松原地先(與那霸灣)

自昭和二年十月二十三日、至十一月八日。

(イ) 「コンクリート」盤製作及運搬作業

自十月二十三日
至十月二十九日 七日間

「セメント」大樽十五個ヲ使用シテ三角盤二千十個ヲ製ス。

自十一月三日 二日間

至十一月四日

「セメント」大樽五個ヲ使用シテ三角盤六百〇五個ヲ製ス。

(ロ) 海綿種苗採集及植付投入作業

自十月三十日、至十一月二日、四日間

自十一月五日、至十一月六日、二日間

(ハ) 投入盤整理及古盤取揚作業

自十一月七日 二日間

至十一月八日

古盤取揚數、五百二十個。

(ニ) 投入場所及數量

A	點 (別紙圖面ノ通り)	三角盤	八百四十個
B	點	三角盤	一千六百五十五個
		丸盤	五百二十個 (取揚古盤)
C	點	三角盤	百二十個
計		三角盤	二千六百十五個 (海綿附著數七千八百四十五個)

三、附 著 材 料

海綿種苗附著材料トシテ「コンクリート」盤及「アルミニウム」線ヲ使用セルコト前年試験ト同様ナルモ、丸形「コンクリート」盤ハ砂泥底ノ場所ニ於テハ埋没シ易ク、荒波ニ際シテハ反轉シテ海綿ヲ死ニ至ラシムルコト尠ナラザル様認メタルヲ以テ本回ニ於テハ別紙圖ノ如キ三角型「コンクリート」盤ヲ製作シ之ガ成績ヲ試ミルコトニセリ。

三角盤ニハ海綿ノ種苗ヲ參個宛植付クルモノナリ。

四、海綿種苗及植付投入

海綿種苗採集及植付投入方法ハ前年試験ニ同ジ。

投入場所ハ前年試験場所ト同一ナルヲ以テ特ニ注意シ、前投入盤ノ間隔ヲ考慮シテ適當ニ投入セリ。
投入間隔ハ凡六十種乃至一米位トス。

五、投入後ノ手入

海綿植付投入後ハ海士ヲ潜水セシメ投入盤ノ重ナルモノノ岩上ニアリテ轉覆ノ虞アルモノ、又轉覆セルモノ及各間隔等ノ手入ヲナシ同時ニ前年試験投入盤中砂泥ヲ被リ埋没セルモノ等ハ一々洗ヒ落シ、而シテ海綿ノ剝落シ又ハ枯死セル盤ハ取揚ゲタリ。

六、前年度養殖試験成績

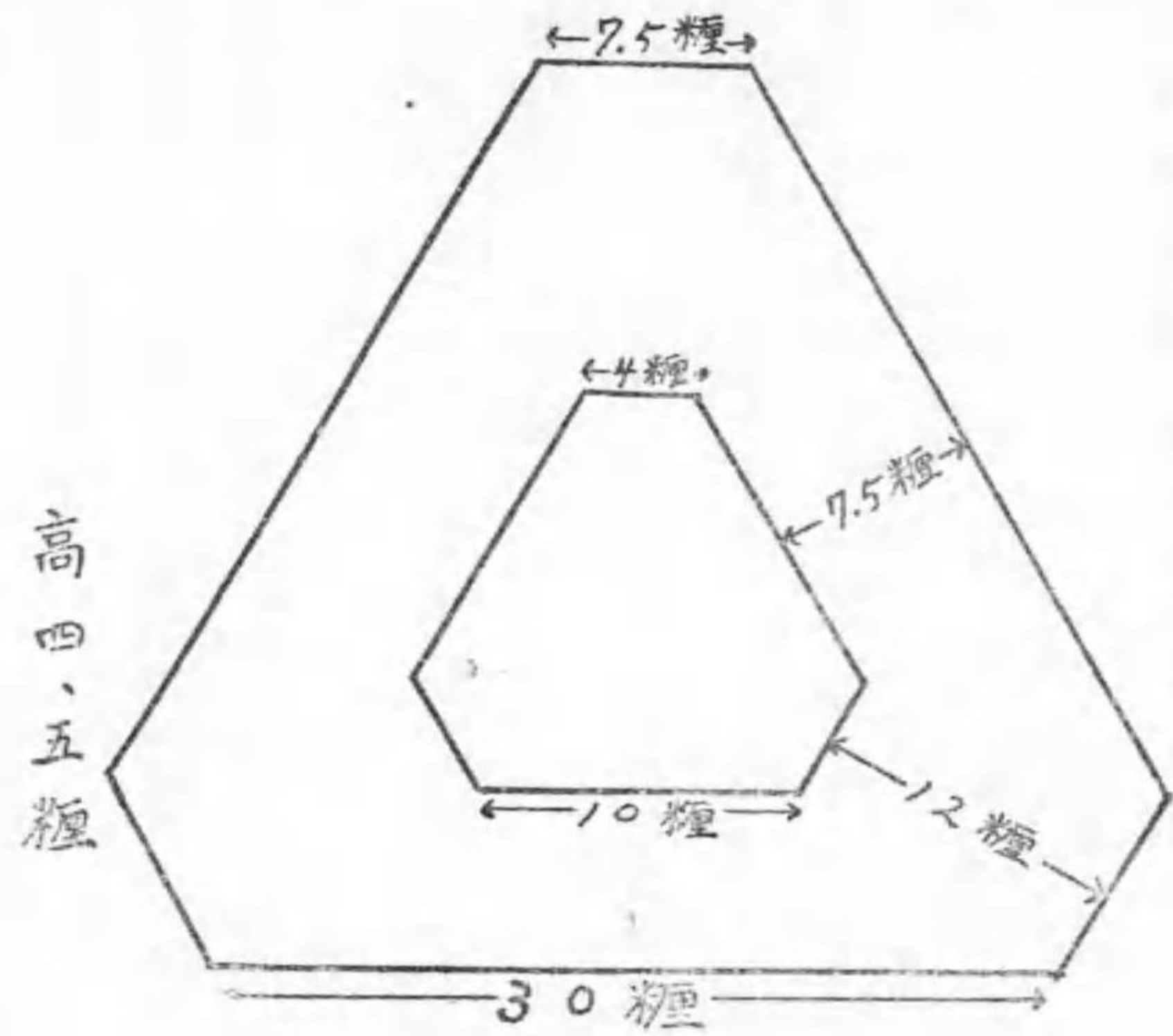
(一) 島尻郡具志川村島島地先

前年度投入試験場所ノ中A及Bノ西部水面ニ於テハ成績良好ニシテ、海綿ノ切斷面ハ判然セザル迄ニ完全ニ表皮ヲ

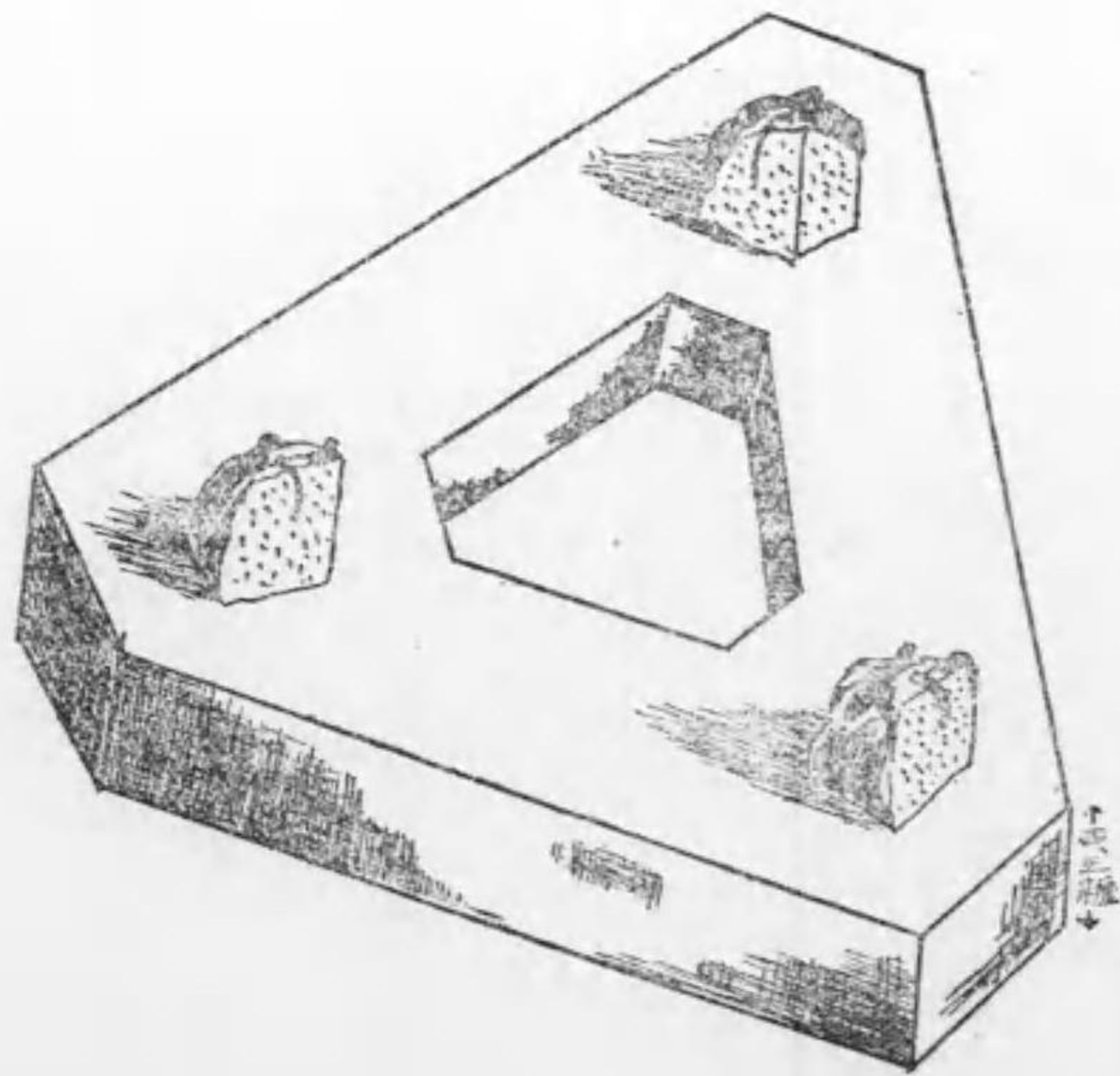
作り「コンクリート」盤ニ密著シ成育セリ。

然レ共蕃殖適地ト認メ移殖ヲ試ミタルC、D、E、F、Gノ各點ニ於テハ「コンクリート」盤ニ密著シ相當成育セルモノアレ共概シテ良好ナラズ。

三角型「コンクリート」盤寸法



三角盤海綿植付圖



(一) 宮古郡平良町松原地先
 前年度投入試験場所ノ中A點及E點ニ於ケルモノハ「コンクリート」盤ニ完全ニ膠着發育シ成績良好ナリ、然レ共蕃殖適地ト認メ試験シタルA點ニ接スル沖合部分及D點ニ於テハ殆ンド「コンクリート」盤ヨリ海綿剝落シ生育セルモノ少シ。

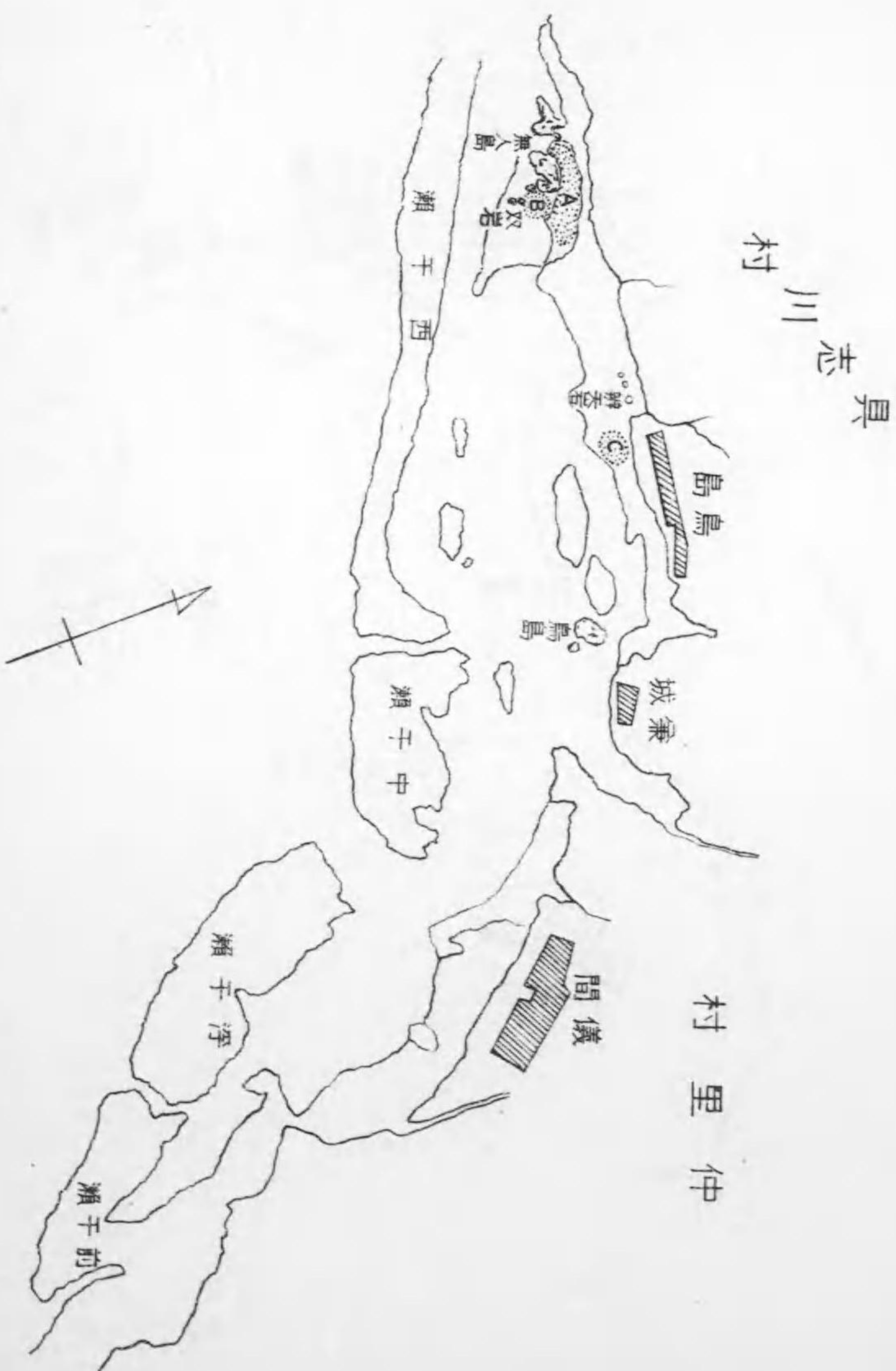
C點D點ニアルモノハ相當生育セルモ底質泥氣多ク海水ハ常ニ濁濁セルヲ以テ海綿體ハ泥ニ蔽ハレE點及A點ニ比シ幾分成育ノ劣レルヲ見ル。

七、試験場所ニ於ケル水温比重

(一) 島尻郡具志川村字島島地先

日	時	天氣	雲量	風向	風力	潮候	氣温	水温	比重	摘	要
九月二十八日	午前八時	晴	四	西	二	下潮	缺	二六・三	二四・一八		試験場所ハ淺所ナルヲ以テ水温比重ハ水面下六十種ノ層ノミ觀測セリ 氣温ハ海岸ニ於ケル適當ノ陰所ニ於ケル示度ナルヲ以テ正確ヲ期セラレズ
九月二十九日	午前九時三十分	晴	二	北	一	滿潮	二八・五	二五・二	二五・三〇		
九月三十日	午前十時三十分	晴	一	東	一	下潮	三〇・〇	二六・五	二五・二八		
十月一日	午前九時三十分	晴	二	南東	二	上潮	二八・〇	二五・八	二五・二七		
十月二日	午前十二時	曇	九	北	一	上潮	二五・四	二五・四	二四・四一		
十月三日	午前十一時三十分	晴	一	東	二	上潮	二八・〇	二五・五	二四・四三		

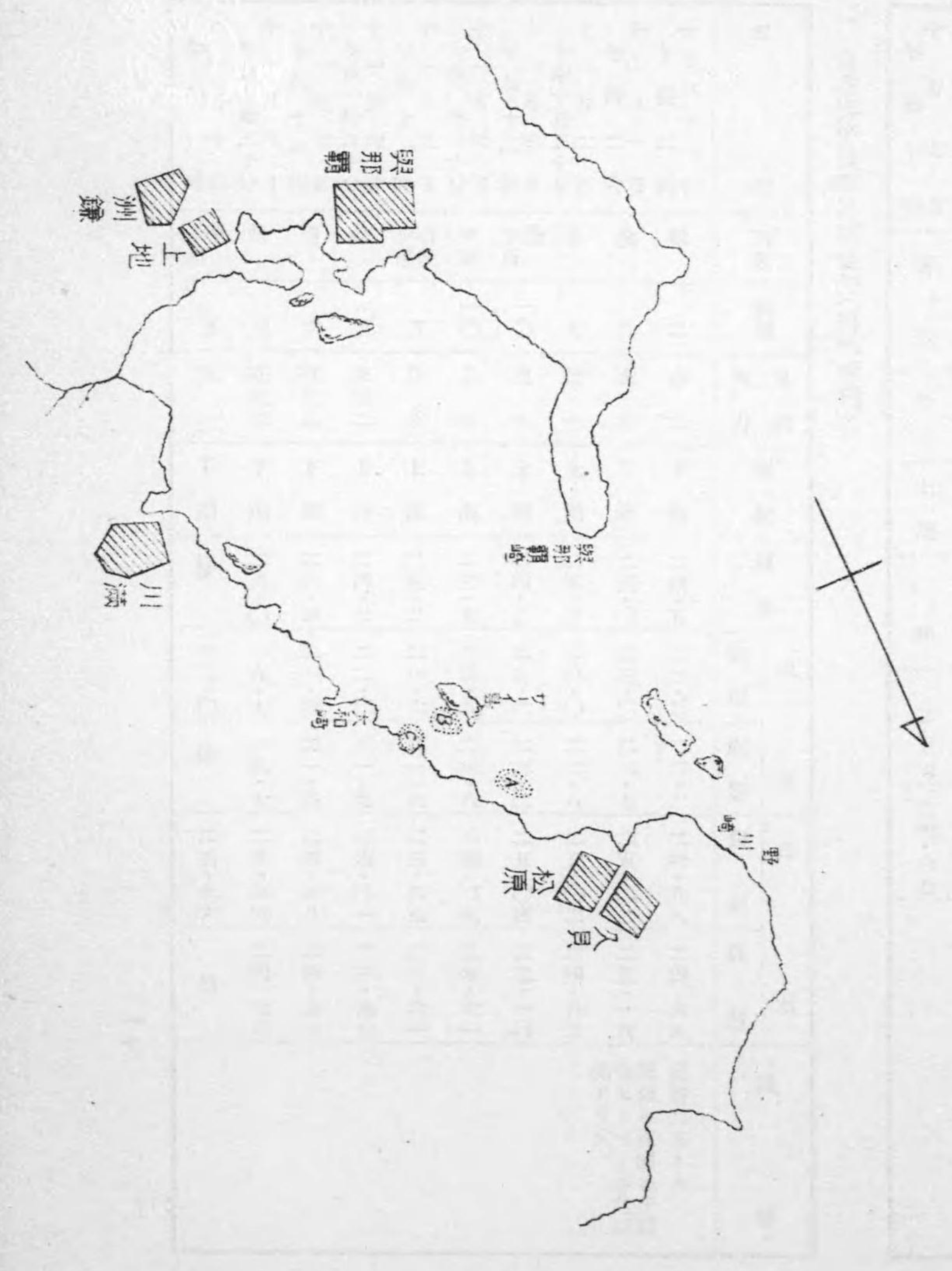
圖先地村里仲村川志具郡尻島





島原縣志三川林世求圖

先地原松町良平郡古宮



十月 午後 十七 時日	十月 午後 十四 時日
晴	晴
三	二
東 二	東 二
上 潮	上 潮
缺	二八・五
二七・四	二七・五
二四・六七	二四・八二

(二) 宮古郡平良町松原地先(與那覇灣)

日	時	天氣	雲量	風向	風力	潮候	氣溫	水溫		比重		摘要
								表面	底層	表面	底層	
十月 午後 三十一 時日		晴	二	南	二	下 潮	二四・五	二二・二	二二・二	二四・九八	二四・九六	底層二米トス 氣溫ハ海濱ニテ觀 測セルモノニ付正 確ナラズ
十月 午後 二十九 時日		曇	九	南	二	下 潮	二四・〇	二三・〇	二二・九	二五・二二	二五・一四	
十月 午後 二十七 時日		晴	七	南	一	上 潮	二五・二	二三・〇	二二・八	二五・〇二	二四・九二	
十月 午後 二十五 時日		曇	一〇	南	二	上 潮	二四・五	二三・二	二三・二	二五・〇四	二五・一四	
十月 午後 二十三 時日		少雨	一〇	南	二	上 潮	二三・七	二三・九	二三・八	二四・二八	二四・六一	
十月 午後 二十一 時日		少雨	一〇	北	三	上 潮	二三・七	二三・九	二三・八	二四・二八	二四・六一	
十月 午後 十九 時日		少雨	一〇	北	三	上 潮	二五・二	二二・六	二二・六	二三・八七	二三・六一	
十月 午後 十七 時日		少雨	五	北	三	上 潮	二四・五	二二・〇	二二・九	二四・三一	二三・九七	
十月 午後 十五 時日		晴	五	東北	二	上 潮	二三・四	二二・四	二二・四	二四・四八	二四・五一	
十月 午後 十三 時日		晴	二	東北	二	下 潮	二三・〇	一九・七	一九・七	二四・三六	二四・七三	
十月 午後 十一 時日		晴	三	東北	三	下 潮	二二・〇	一九・七	一九・七	二四・三六	二四・七三	
十月 午後 九 時日		少雨	五	南	一	下 潮	缺	二二・〇	缺	二四・七六	缺	

昭和三年度

昭和三年度沖繩縣水産試験場事業報告

目次

漁撈部	
鯉漁業試験.....	一三頁
鮪延繩漁業試験.....	一三六
製造部	
鯉節製造試験.....	一五〇
(イ) 品質改良ニ關スル試験.....	一五四
(ロ) 冷蔵庫利用鯉節製造試験.....	一五八
罐詰製造試験.....	一六八
(イ) 梶木大和煮罐詰.....	一七〇
(ロ) 鯖長鮪油漬罐詰.....	一七三
(ハ) 螺螔大和煮罐詰.....	一七六
(ニ) 魚團罐詰.....	一八一
鮮魚冷蔵輸送試験.....	一八三

冷藏庫ノ經營……………一八六

蒲鉾製造試驗……………一八八

養殖部

海綿養殖試驗……………一九五

漁撈部

鯉漁業試驗

一、趣旨

前年度ヨリ繼續試驗ニシテ特ニ本年度ヨリ大型指導船ヲ用ヒ廣ク漁場ノ開拓擴張ヲ計リ本縣鯉漁業ノ進展ヲ計リ且備付無線電信其他ニ依リ迅速ニ一般當業者ノ指導ヲサントス。

二、試驗ノ方法並經過

圖南丸(鋼船百噸二百馬力)ニ三十七名ヲ乗込マシメ、自四月上旬至七月下旬間鹿兒島方面ノ餌料鱈ヲ以テ本季節好漁場タル七島方面ヨリ本島近海ヲ探査シ、自七月下旬至九月上旬迄ハ臺灣餌料鱈ニ依リ專ラ先島方面ノ南部漁場ヲ調査セリ。

現時鯉ノ豐漁期ハ鹿兒島縣近海ニ於テハ三、四、五ノ三月沖繩本島近海ニ於テハ五、六、七ノ三月臺北州及先頭列島附近ニ於テハ七、八、九ノ三月ナルガ之ハ主トシテ地理的關係ト潮流及水溫等ノ關係ニ依ルモノノ如シ、從來小型漁船ニアリテハ餌料其他ノ關係上操業區域ヲ一局部ニ制限セラレ從ツテ小型船ニ依ル本縣漁業界ニアリテハ其漁獲豐凶定カナラズ徒ラニ沈淪シツアル状態ナリ故ニ圖南丸ハ斯業ノ伸展ヲ期スル目的ヲ以テ北ハ鹿兒島近海ヨリ南ハ臺灣ニ至ル廣漠ナル漁場ヲ縱橫ニ馳驅シ初期入渠機關修理等ノタメ出漁日數比較的少キニ拘ラズ良ク六千餘圓ノ水揚ヲナシ又後期ニアリテハ四十餘日ニシテ一萬餘圓ノ賣上ヲナシ將來本縣ノ鯉漁業ハ大型漁船ニ依ル有利ナル事ヲ一般ニ範示セリ。

因ニ本年度鯉釣漁業表並ニ其ノ漁場ハ次ノ如シ(但シ試験漁場位置ハ便宜昭和四年正月調整ニ係ル鯉漁場圖ニ記入表示セリ)

鯉 漁 業 表 三 月 分

月日	天候 風力	漁場 符號時	漁具 使用回数	表面水 温度	比重 測定ノ 温度	潮流 海流 方向 速度	餌料ノ 種類	漁獲 時ノ 水深	漁獲		物 價額	摘 要
									種類	數量 尾		
1	R S	4										那覇港碇泊 船網漁具陸揚鯉漁業試験準備 ニカナル
2	R S	4										那覇港碇泊 鯉漁業試験出漁準備
3	B N	3										那覇出帆 餌料積込ノカメ鹿兒島へ向テ
4	O NE	2										鹿兒島へ向テ航行中
5	C N	4										鹿兒島港碇泊 餌料購入打合セチナス
6	B N	1										鹿兒島港碇泊 鯉漁具ノ製作
7	B NE	3										同上 船體ノ小破修理
8	R NE	3										天候不良ニテ出帆延期 鹿兒島港碇泊
9	R NE	5										同上
10	C NW	5										垂水港ニ回航シ餌料買約ヲチ ナ、風荷強ク出漁見合モ垂水 港碇泊
11	C NW	5										天候不良ノカメ垂水港碇泊

12	C N	6										同上
13	C N	4										天候除貨シ餌料かたぐち七籠 ヲ積ミ出帆ス
14	C N	3										臥蛇島近海魚群ヲ見テ
15	B N	2	1	21.0			かたぐち	かつを	15	中判		横富島南西近海ニ魚群アルモ 餌付不良島島ニ向テ
16	U NE	3	2	20.7			かたぐち	かつを	156	大判		島島西沖ニ大判魚群アレテ漁 事振ハテ附近ニ漁泊
17	R NE	3	3	20.5			かたぐち	かつを 鰯	59 44 146	大 中 小		島島西沖ニ小漁アリ天候險 惡チレバ大島ニ向テ
18	B NE	3	4	21.5			かたぐち	かつを	10	大		天候良好トナリ引返シ横富島 西近海ニテ操業餌付惡シク附 近ニ漁泊
19	B SE	3	5	22.5			かたぐち	かつを	194	大		横カノ曾根近海ニテ餌付良好 ナルル魚群ニ會テモ餌料了レ餌 補給ノカメ山田川へ向テ
20	C S	2										山川寄港魚獲物ヲ賣却シ垂水 ニテ餌料買約ヲチナシ燃料其他 積込ノカメ鹿兒島入港
21	B N	2										出帆準備ヲ整テ
22	C W	3										鹿兒島出帆垂水ニテかたぐち 七籠ヲ得漁場へ向テ
23	B N	3	6	21.5			かたぐち	かつを	17	小		中ノ曾根ニテ操業附近ニ漁泊 各漁場ニ般ニ魚群薄シ
24	R SE	5										横ガソソ曾根近海漁船多キ モ漁事閑散ナルカガ如シ更ニ南 進
25	C SSW	5	7				かたぐち	かつを	344	小		名瀬港沖ニテ操業餌付良好ナ ルモ降雨ニ防テラレ島島ニ向 テ

日	風	候	力	漁場 符號	漁具 使用 時間	漁具 使用 回数	表面 海水 温度	比重 測定 時之 温度	比重	潮流 方向 速度	餌料ノ 種類	漁獲 時ノ 水深	漁 獲 種類	獲 數量 同量	物 價 額	摘 要
26	U N	4	S	A	S		21.0				かたぐち		かつを	330大		鳥島近海ニテ操業進シテ同島ヨリ西へ探査ヲ續ク
27	U NE	3														鳥島西漁事ナク引返シ同島近海ニ漂流
28	O NE	4	9	P	5		21.7				かたぐち		かつを	大		同島附近魚群ヲ南下中ノ會根ニテ操業餌料終へ那覇ニ向テ
29	O NE	2														那覇入港漁獲物陸揚チナス
30	B N	1														那覇港碇泊
31	B NE	2														同上

記事 本年漁業試験ハ三月ヨリ開始セシテ以テ便宜是ニ記載セリ

七島方面ニテハ漁事甚良好ナルモ本縣近海ニ於テハ未ダ餌料漁獲充分ナラザルヌメト魚群洄游閑散ニテ出漁船少シ座間味船三、四隻ノ出漁セルモ漁事面白カラズ

鯉 漁 業 表 四 月 分

月日	天候	力	漁場 符號	漁具 使用 時間	漁具 使用 回数	表面 海水 温度	比重 測定 時之 温度	比重	潮流 方向 速度	餌料ノ 種類	漁獲 時ノ 水深	漁 獲 種類	獲 數量 同量	物 價 額	摘 要
1	B NE	3													那覇港碇泊
2	O E	3													那覇港出帆入渠ノヌメ兵庫縣幡屋造船所ニ向テ
3	O N	6													兵庫縣相生港へ向テ航行
4	O N	5													同上

5	B NE	3													同上
6	B NE	2													同上
7	B NW	2													兵庫縣相生港入港碇泊
8	B SW	2													入渠準備チナス
9	O														入渠
10															入渠中作業
14															引續キ入渠中ノ處本日出渠
15															羅針儀矯正後相生港出帆鹿兒島へ向テ
16	B 不 定														鹿兒島へ向テ航行
17	B NE	2													同上
18	B SW	2													漁夫雇入ノヌメ宮崎縣目井津寄港鹿兒島ニ向テ
19	O 不 定														鹿兒島入港餌料購入ノ打合せ 其他出漁準備チナス
20	B N	2													鹿兒島港獲 餌料かたぐち入港碇入レ出漁
21	R E	4	10	A	10	1	23.0			かたぐち		かつを	367大		権曾根ニテ操業波高ク餌付悪 ハンカカラズ附近ニ漂流
22	O NW	6													天候險悪ノヌメ諏訪島ニ避難ス
23	O NW	4													諏訪島ニ避泊

24	B NE O E	2 1	11 12	A 11 P 5	23.0 24.0		NE	かたぐち "	かつを し び	294 24 154 40 80		天候恢復シ五隻曾根中ノ曾根ニテ小漁アリ近海ニ漂流
25	O SE	4	13	P 4	23.7			かたぐち	かつを	49	大	横濱島近海ニテ操業 天候不良トナル南下ス
26	R SE	4										天候益々悪ク連天港ニ避難
27	O NW	3	14	A 9	23.1			かたぐち	かつを	9	小	天候恢復伊平屋曾根ニテ僅ノ漁事アリシノミ南進各漁場共魚群無ク栗國島ニ漂流ス
28	O SE	2										栗國近海魚群ナク餌モ少クレベル 賣上 甲 1,727.32 乙 那覇歸港魚揚チナナス
29	B SE	2										那覇港碇泊
30	B S	2										同上

記事 中旬以降縣下船寄下活動ヲ開始セリ、伊平屋、大正、中ノ曾根等ニ大列漁相當アリ
宮古島北西距八重山北西近海漁事活氣ヲ呈セリ

鯉 漁 業 表												五 月 分				
月日	天候	風力	漁場符號	漁具使用時間	漁具使用回数	表面海水温度	比重測定ノ温度	比重	潮流方向	餌料ノ種類	漁獲時ノ水深	漁獲		物價	摘 要	
												種類	數量			一尾ノ重
1	O	NW	3													那覇出帆餌餌込ノタメ鹿兒島 〜向テ
2	O	N	6													鹿兒島〜向テ航行中
3	B	N	3													垂水港投錨 用帆準備チナナス

4	B	SE	4													餌場豊島ニテかたぐち、ひら ご鯉七獲チ得用漁
5	O	SE	5	15	P 4	25.0				かたぐち						七島各漁場共漁事ナク寶島近 海ニ漂流
6	O	SE	6	16	P 4	23.5				かたぐち		かつを	04	大		横濱島近海ニ僅少ノ漁獲アリ シノミ島島ニ向テ
7	O	SE	3	17	A 7	24.0				かたぐち						島島近海魚群アルモ餌付ナシ 中ノ曾根ニテ漂流
8	O	S	2	18	P 1-5	26.5				かたぐち		かつを	1,263	大		久米島近海ニテ操業相當水揚 ス餌盡キ那覇ニ向テ
9	O	S	2												賣上 甲 2,571.60	那覇歸港魚陸上
10	O	ESE	4													那覇港碇泊
11	R	NW	4													那覇港發鹿兒島ニ向テ
12	O	NW	2													鹿兒島ニ向テ航行中
13	B	SW	2													垂水寄港各所共餌皆無ニテ待 合セテノタメ鹿兒島入港
14	R	S	1													鹿兒島碇泊
15	O	W	2													同上
16	不	定														垂水回航かたぐち八籠ヲ得出 漁
17	B	NE	3													七島各漁場魚群ヲ見テ 七島ニ向テ續航
18	O	NNE	2													島島近クニテ機關大破航行不 能トナリ辛シク航海ヲ續カ
19	O	NE	2													那覇歸港 機關ノ修理ニ着手
20	O	SE	2													那覇碇泊 機關ノ修理

30										瀬ク機関修理完成ス
31										試運転チナス

記事 本月ニ入り各漁礁ニ魚群ヲ漁遊チ見漁事モ一般ニ盛況ナリ

鯉 漁 業 表 六 月 分

月日	天候	風力	漁場 符號	漁具 使用 時	漁具 使用 回数	表面 海水 温度	比頂 測定 ノ 温度	比重	潮流 方向 速度	餌料ノ 種類	漁獲 ノ 水深	漁 種類	獲 数量	物 價 額	摘 要
1															出帆準備チナス
2	B	3													那覇發鹿兒島へ向フ
3	O	3													鹿兒島へ向テ航走
4	O	2													山川寄港餌料購入ヲ打合せチ ナシ 鹿兒島入港、出帆準備チナス 鹿兒島發垂水ニテかたぐち三 籠ひらご三籠ヲ獲ニ出漁 屋久島近海ニテ小漁アリ
5	O	2													更ニ南進
6	E	4	19			25.0				かたぐち	かつを		47小		各漁礁漁事ヲク栗國島近海ニ 漂泊
7	O	4													久米島近海魚群ヲ認メズ 宮古曾根へ向フ
8	O	3													宮古近海鯉群ニ會ハズ 赤尾島ニ向フ
9	O	2													

10	O	3	20	P	7	26.5			E	かたぐち	かつを		50小 7大 10中		赤尾島附近ニテ終日操業小漁 アリ近海ニ漂流
11	O	2	21			26.5			E	かたぐち	かつを		21小		前日ノ場所漁事面白カラズ 久米島へ引返ス
12	O	3												賣上 円 36.82	久米島西モ魚群少シ 一籠歸類魚揚チナス
13	O	2													那覇港駛泊
14	O	3													前日所持餌料ニテ南洋觀測 ヲ兼テ那覇出帆南洋觀測ニカ カル
15	O	2	22 23	A	11	25.0				かたぐち	かつを		17小 15小		南洋觀測終了久米島近海ニ向 テ權ノ漁獲アリ、宮古方面へ向 テ
16	B	2	24	A	7	24.5				かたぐち	かつを		328小		金剛會社附近ニテ小漁アリ 餌料盡キ那覇ニ向フ
17	B	2												賣上 円 135.46	那覇歸港 魚揚チナス
18	B	2													那覇出帆鹿兒島へ向フ
19	B	3													鹿兒島へ向テ航走
20	R	3													垂水寄港餌料購入ヲ打合せチ 出帆準備ノキニ鹿兒島入港
21	R	4													天候險惡ニテ出帆見合セ
22	R	2													鹿兒島港出帆垂水ニテかたぐ ち、ひらご八籠ヲ活ク漁場へ 向フ
23	O	4	25			26.0				かたぐち ひらご	かつを		170小		七島 各魚礁魚群アルモ餌付惡 シ、概當島近海ニテ小漁アリ 南進ス

24	C	4	26	26.5		かたぐち										島西四百尋線ヨリ赤尾島ニ至ル間探査スルモ漁事ナシ
25	C	4	27	26.5		かたぐち										赤尾島近海大刺多キ引返スリ風モ加リ久米島〜引返ナ
26	B	2														久米島近海魚群多キモ餌付ナシ、一應降潮シ魚揚チナシ直チニ出漁
27	B	2	28	27.0		かたぐち	かつを	175小								西大九尊岬及宮古近海漁事思ハスカラズ
28	B	4	29	26.5		かたぐち	かつを	4小								宮古島南モ漁事閑散
29	B	4	30	27.5		かたぐち	かつを	394大								赤尾島附近ニテ大刺漁アリ近海ニ漂流
30	B	4	31	27.5		かたぐち	かつを	89大								前日ノ場所ニテ僅少ノ漁獲アリ、餌終リ那覇ニ向テ

記事 漁事益々盛ナルモ本島近海ニ於テハ餌料不足ヲ告グ出漁意ニマカセズ、宮古、八重山方面ニテハ餌料モ充分ニテ大中刺漁ヲ持續セリ

鯉 漁 業 表 七 分 月

月日	天候 風力	漁場 符號	漁具使 用時間	漁具使 回数	表面海 水温度	比重 測定	比重 測定	潮流 海流方 向度	餌料ノ 種類	漁獲 時ノ水 深	漁獲		物 價	摘 要
											種	數量		
1	B	2											賣上 ^{買終} 1,145.11	那覇歸港魚揚チナス
2	B	2												那覇歸港泊 海洋觀測ノ準備チナス
3	B	3												同上
4	C	3												那覇港出帆、晨辰武崎赤尾島間 海洋觀測ニカカレ

5	C	定													海洋觀測終了那覇〜向テ
6	B														那覇歸港
7	B	2													那覇港歸港泊
11	B	2													那覇港出帆知事離島視察ノタ メ八重山方面〜向テ
12	B	2													八重山〜向テ航走
13	C	3													八重山石垣港入港
14	C	3													石垣拔錨
15	C	2													西表港入港
16	B	2													西表港歸港泊
17	B	定													同所拔錨 石垣港ニ至リ投錨
18	B	定													知事見學ノタメ同港餌料ニテ 出帆附近漁場ヲ探査スルモ魚 群ナシ、石垣港歸港泊
19	B	1													基隆根據ニテ鹽漁業試驗施行 ノタメ基隆〜向テ石垣拔錨
20	B	1													基隆港歸港泊 試驗施行ニ付打合チナス
21	B	1													基隆八尺門ニテかたぐち二十 八籠ヲ獲シ赤尾島〜向テ
22	B	定													赤尾島近海魚群アルモ餌付ナ シ、不久保曾根〜向テ
23	B	3	32 ^P	12.30	30.5			かたぐち	かつを	155小 61小小	341				平久保曾根近海ニテ小刺漁アリ 與那國島附近〜向テ

24	B NE	2	34 33			30.5				かたぐち	か つ を	5 45 75	中 小 大		奥郡國近海漁事開成 附近ニ漂流
25	B N	1													青倉根、藤渡會社附近魚群ヲ ルモ餌付ナシ餌盡キ基隆入港
26	B NE	1												賣上 ^甲 202.12	漁獲物ヲ賣却ス
27	B NE	2	35 12-6	P P	6	6	29.0			かたぐち	か つ を	665 86	中 小		八尺門ニテかたぐち十五籠ヲ 獲ミ出漁、鼻頭角東沖合ニテ 操業附近ニ漂流
28	B NE	2	36 A	A	6	2	29.0			かたぐち	か つ を	241 112	中 大	賣上 ^甲 850.62	前日ノ漁場附近ニ基隆何付 良好ナルルモ餌了ニ基隆港魚 揚チナシ
29	B NE	2	37 12-6	P P	6	5	29.5			かたぐち	か つ を	847 136	大 中		八尺門ニテかたぐち十四籠ヲ 得出漁前日ヨリ東沖ニテ漁 事アリ近海ニ漂流
30	B N	1	38 A	A	7		29.3			かたぐち	か つ を	56 17	大 中	賣上 ^甲 1,430.04	同所附近ニテ餌付良好ノ魚群 ニ會フモ餌盡キ基隆港魚揚 ニ後直チニ八尺門ニテかたぐち 五籠ヲ幸テ得出漁
31	B N	1	39 A	A	7		29.3			かたぐち	か つ を	529	大	賣上 ^甲 796.06	前日ヨリ更ニ東沖ニテ索餌盛 ナル魚群ニ會ヘテ直チニ八 尺門ニテ魚揚チかたぐち七籠ヲ得 出漁

記事 沖縄本島近海餌料漁獲益々困難トナリ漁事振ハス、一時本島西近海ニ大列艦ノ洩漁アリ漁獲サレタルモ少時ニテ止
A
宮古、八重山方面ニ於テモ漁獲少シ

鯉 漁 業 表 八 月 分

月日	天候	候力	漁場	特徴	漁具 使用 回数	表面 海水 温度	比重	測定 温度 比重	潮流 方向 速度	餌料 種類	漁獲 水深	漁獲		物價		摘 要	
												種類	数量	種類	價額		
1	B 不	定													賣上 ^甲 2.97	前回漁場附近ニ魚影ヲ認メ ズ、増餌ノタメ基隆港	
2	B SW	2															餌料魚不漁ニテ出帆見合セ
3	B 不	定															八尺門ニテ増餌かたぐち十二 籠ヲ獲ミ出漁
4	B W	3															魚釣島ヨリ赤尾島ニ至ルモ魚 群ナク
5	C W	3															赤尾島附近ニ漂流
6	C NE	3	40	P	5	28.7				かたぐち	か つ を	501 32	中 大		赤尾島附近魚群ヲ認メズ 同島附近ニ漂流後西航		
7	C NE	2	41			28.6				かたぐち	か つ を し び 交 り 懸 田	362 8	中 小		黄尾島北ニテ相當漁事アリ 附近ニテ漂流		
8	B E	2													賣上 ^甲 795.04	前日ノ場所近海ニテ小漁アリ 餌了ニ歸港	
9	B SW	2															基隆入港魚揚チナス
10	C E	1	42	P	12	23.5				かたぐち	か つ を	245 114	大 小		八尺門ニテかたぐち十六籠ヲ 獲ミ鼻頭角東近海ヲ見テ魚釣 島方面ヘ向テ		
11	C E	5	43	A	10					かたぐち	か つ を	750	大		魚釣島近海ニテ漁事アリ赤尾 島ニ至リ附近ニ漂流		
12	K 不	6														赤尾島北ニテ好漁アリ天候險 悪トナリ餌モ少クテバ那刺ニ 風強テ慶良間阿蘇ノ浦ニ避難	

13	R 不定	6															賣上 902.40	那覇入港魚揚チナス
14	R NW	5																風向強ク出帆具合キ
15	O NW	4																那覇港碇泊
16	C W	3																天候恢復明日出帆ノ豫定トス
17	C W	3																那覇出帆基隆〜向フ
18	B 不 定	3																基隆〜向ク航行中
19	C W	4																基隆着 機關小破ク修理ニ着手
20	B SW	1																機關修理ノクヌ基隆港碇泊
21	B SW	1																機關恢復基隆碇泊
22	B SW	1																八門尺ニテかたぐち十八籠チ 積ミ出帆
23	C 不 定	1																魚釣島北近海ニテ小列漁アリ 赤尾島方面〜向フ
24	B ESE	2	45 46	A P	7 3	28.1												赤尾島北ニテ好漁事アリ 餌了〜基隆〜向フ
25	C 不 定																	賣上 甲 1,977.47 基隆入港
26	C 不 定																	魚揚チ了エ直チニ八尺門ニテ かたぐち二十二籠チ積ミ出漁
27	B SE	1	47 48		6	28.0												魚釣島東近海ニテ操業 餌了〜基隆〜向フ
28	K 不 定																	賣上 甲 1,576.54 基隆歸港漁獲物陸揚チナス

29	B N	3																八尺門ニテかたぐち二十二籠 チ得 魚釣島方面〜出漁
30	B N	3	49	A P	11 3	28.2												魚釣島東近海ニテ漁事アリ 餌盡キ歸港
31	B 不 定																	賣上 甲 2,199.12 基隆入港魚賣却

記事 漁事一般ニ振ハズ只東支那海百尋線以北ノ海區ニ於テハ臺灣船ノ大中列漁チ續クルモノ多シ

鯉 漁 業 表 九 月 分

月日	天候 風力	漁場 符號	漁具 使用 回数	表面 海水 温度	比重	測定 時ノ 温度 比重	潮流 方向 速度	餌料ノ 種類	漁獲 時ノ 水深	漁獲		物價		摘 要
										種類	數量	種類	價額	
1	B	E	3											八尺門ニテかたぐち十籠チ得 出漁鼻頭角附近チ見魚釣島〜 向ク探索チツツカ
2	B	E	2											魚釣島ヨリ赤尾島方面魚群皆 無
3	C	E	2	50	28.0			かたぐち	かつを	916 73	大 中			黄尾島〜引返シ更ニ南下セシ トシ、同島南近海ニ大列漁ア リ附近ニ漂流
4	B	E	2	51	27.8			かたぐち	かつを	99	大			前日ノ個所ニテ残餌ニテ小漁 アリ基隆歸港
5	R	NW	4											賣上 甲 1,101.38 魚揚チナス
6	R	不 定	5											風強ク基隆港避泊
7	B	N	2											基隆港碇泊 天候恢復臺灣引揚ノ準備チナ ス

8	B N	1																基隆港泊 出帆準備ヲナス
9	B NE	1																八尺門ニテかたくち五箇ヲ積 ミ塞機ヲ引揚可ク那類ニ向テ
10	B NE	3																天候不良ニテ操業出来ズ
11	C NW	4																那類港到着 本年度漁業試験中止トス
計																		賣上總計 百斤 17,701.75

記事 漁事盛況セズ
下旬ニ入り本島西海上ニ魚群ノ洩遊ヲ見ルモ漁況振ハズ宮古、八重山方面モ漁事閑散ナリ

鮪延縄漁業試験

一、趣 旨

本試験ハ前年度ヨリ繼續施行セリ、本縣ニ於テハ鮪延縄漁業ハ最近ノ創業ニ屬シ未ダ不振ノ狀況ニアルモ沖合ハ鮪、旗魚、鰺等ノ漁場トシテ極メテ有望ナリト認ムルヲ以テ之ガ調査試験ヲナシ當業者ヲ指導誘掖セントス。

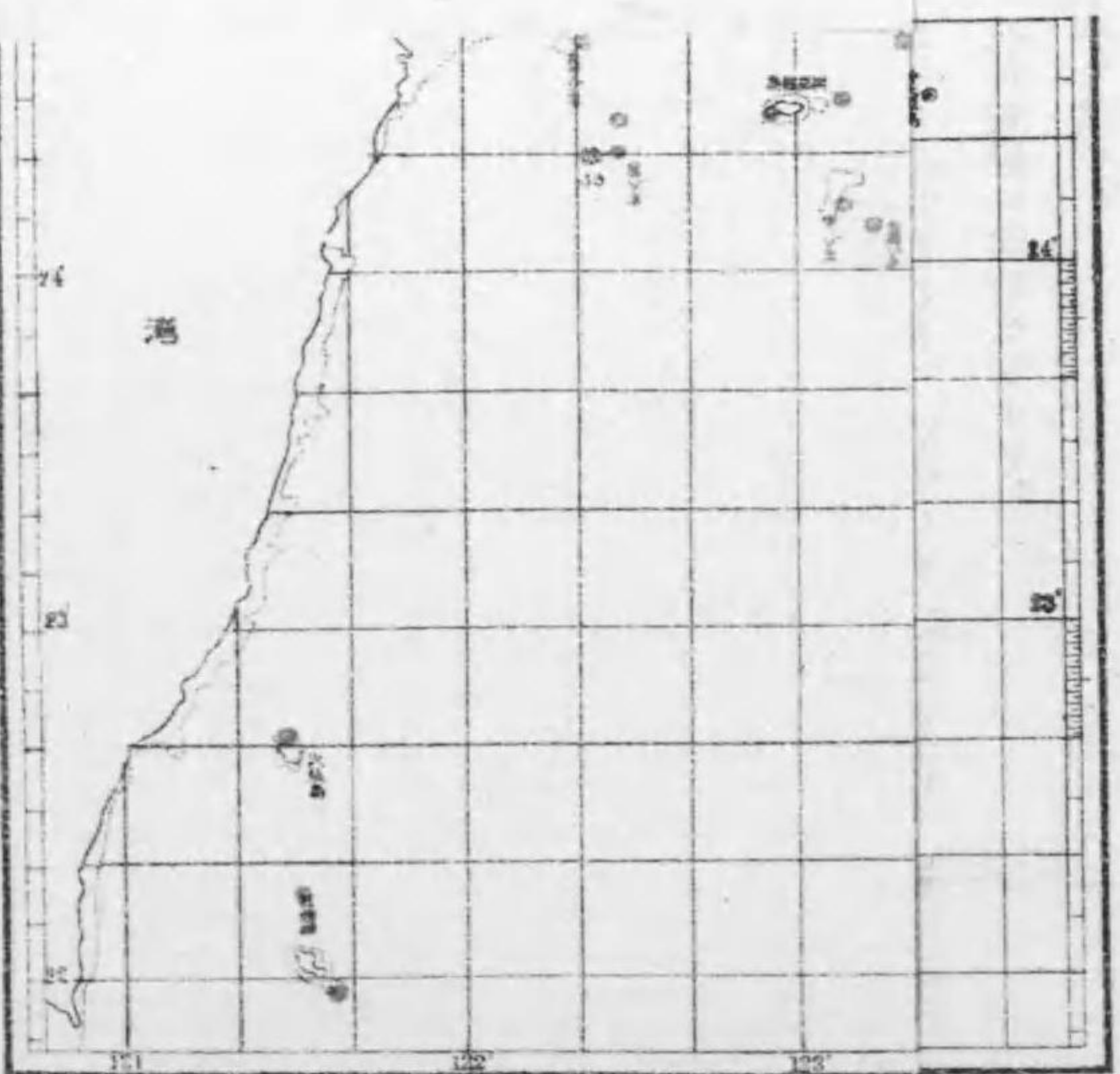
二、試験方法竝經過

圖南丸(鋼船百噸二百馬力)ニ船員二十七名ヲ乗込マシメ、前年度使用ノ左記漁具八十鉢ヲ準備セリ。

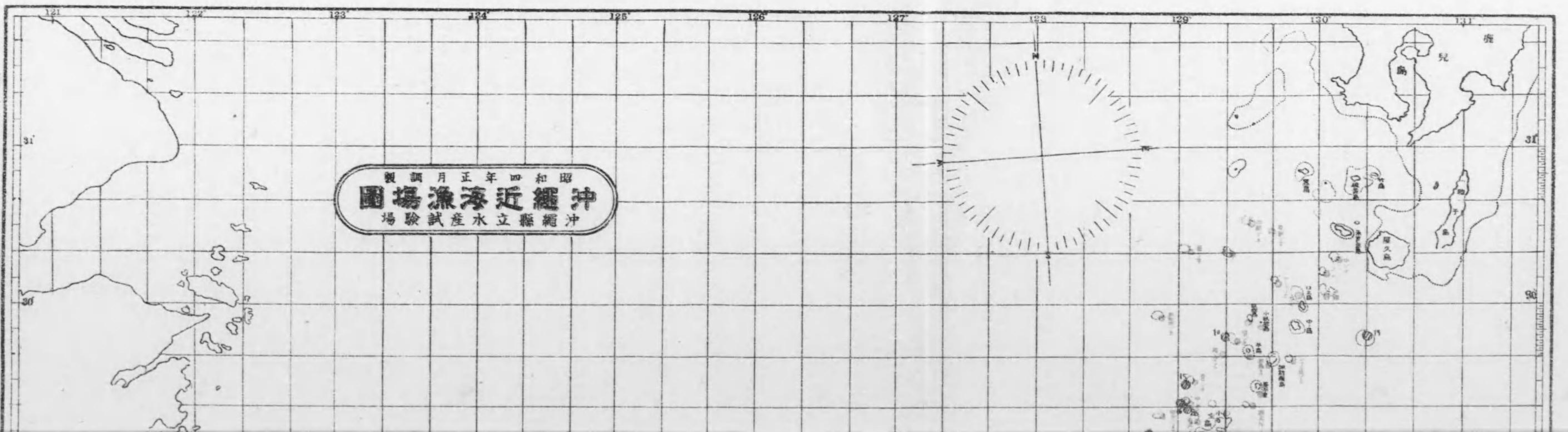
一、鉢 構造

幹 繩 二百尋

二十匁「コールター」染「マニラ」



本圖水產廳兒島縣水産試験場編製





旗魚、鰺等ノ漁場トシテ極メテ有望ナリト認ムルヲ以テ之ガ調査試験ヲナシ當業者ヲ指導誘掖セントス。

二、試験方法並經過

圖南丸(鋼船百噸二百馬力)ニ船員二十七名ヲ乗込マシメ、前年度使用ノ左記漁具八十鉢ヲ準備セリ。

一、鉢構造

幹 繩 二百尋

二十呎「コールター」染「マニラ」



枝 繩 長枝十五尋二本、短枝五尋四本 十二匁付「コールドター」染「マニラ」
浮 繩 十五尋二本 十匁付「コールドター」染「マニラ」

「セキヤマチ」使用せず、釣本「ワイヤー」四尋ヲ用フ。

副漁具トシテ藤田式電動「ラインホーラー」ヲ使用シ一時間十四鉢位操揚ノ能率ヲ示セリ。

餌料ニハとびいか (*Omnistaphes*, sp.) やきとみずん (*Amblygaster okinawense*) ながうを (*Decaplerus narundsi*) 鯨、かます等ヲ其ノ時期ニ購入シ、本場冷蔵庫ニ冷凍シ置キ隨時之ヲ使用セリ。

漁場ハ自硫黄島 (奄美大島島) 至與那國島區域ニシテ本縣沿海殆ド本船ノ航跡ヲ留メザル所無キ程ニテ航海數十回、投繩回数六十一回、使用鉢數二千四百八十一鉢ニテ總漁獲黃肌鮪六十六尾、目鉢鮪二十三尾、とんぼ鮪四十七尾、旗魚四十二尾、ばせうかぢき四尾、めかぢき十七尾、鱈百六十五尾、總賣上高四千餘圓一航海最高水揚高ハ一月始メニ航海ニ於テ何レモ壹千圓内外ヲ賣上タリ。

試験ノ經過ヨリ見ルニ本縣近海ハ殆ンド何レノ方面ニ投繩スルモ多少ノ鮪ヲ漁獲セザル事ナシ、然レドモ同一漁場ニテ相當漁獲アル場合ト雖モ一種類ノ多獲サレシコト無キハ其分布區域方廣ク魚群散漫セル徵ナリ、元來本縣沿岸ハ島嶼多ク且珊瑚礁及火山脈ノ關係ニテ海底起伏ノ形態極メテ複雑ナレバ、海流潮汐ノ變化モ又極メテ複雑ナルモノアリ、從ツテ基礎的ニ魚群ノ去來集散ノ状態ヲ明ニスルニアラザレバ、折角ノ好漁場モ價値尠ク漁獲能率ヲ揚グル事困難ナルヲ以テ更ニ今後詳細ナル調査試験ヲ重ネテ漁期ノ延長竝ニ漁場ノ開拓ヲ計ラントス。

因ニ本年度鮪延繩漁業表竝ニ其ノ漁場ハ次ノ如シ。

船延縄漁業表

十月分

月日	天候 風力	漁場 符號	漁具 使用時	漁具 使用回数	表面 海水温度	比重 測定之 温度	比重	潮流 流況之 種類	漁獲 之 水深	漁獲		物 價 額	摘 要
										種類	數量 個		
1	C NE	3											那覇入港碇泊
2	B N	1											那覇港出帆 久米島儀間港入港碇泊
3	B NW	1											久米島儀間港出帆 那覇港碇泊
4	B N	1											那覇港碇泊
5	B N	1											同上
6	B N	1											同上
7	C N	1											那覇港碇泊 船延縄ノ準備チナス
8	C N	2											同上
9	C N	1											同上
10	B NE	1											那覇港碇泊
11	B NE	1											那覇港碇泊 船延縄ノ準備チナス
12	B NE	1											同上
13	B NE	1											同上

14	C E	1											同上
15	B E	1											同上
16	B E	1											那覇港碇泊
17	B N	2											同上
18	B N	2											同上 海洋観測ノ準備チナス
19	B NE	2											同上
20	C N	2											那覇港出帆 海洋観測機故障ノタメ那覇入 港碇泊
21	B NE	4											海洋観測ヲ兼テ那覇港出帆 客屋武岬沖ヨリ那尾島ニ向テ 観測實施
22	C NE	4											観測終リ操業ニ移ラントモ モ機関破損シ久米島ニ引返ス
23	C ENE	3											久米島入港修理ス
24	B ENE	2	A P 10-11	47	25.8			N 1	いか	め ぶ	5 か	1 4	第二班球骨根近海ニテ操業後 久米島南沖ニ向テ
25	B ENE	2	A P 3-11	35	25.6			N 1	いか				同所ニテ一回操業更ニ西ニ移 動シ一回投縄揚縄後客屋武岬 南沖合ニ向テ
26	B NNE	3	A P 3-11		25.3			いか	ふ	か	3	賣上 35.35	同所ニテ一回操業 餌料了ヘ那覇入港
27	C NE	3											那覇港碇泊
28	B ENE	3											同上

29	B	4										同上
30	C	4										那覇出帆赤尾島方面へ向テ風強ク阿波浦難
31	C	4										阿波浦難泊

記事 本月中活動セル漁船數約二十四、五艘ニテ本島東南端ニ久米島西南近海ヲ漁場トセルモ漁獲物ノ大部分旗魚ニシテ殆ト那覇ニ於テ陸揚サレ本月中旬約四五百尾ノ水揚ヲ見タリ。

船延縄漁業表

十一月分

月日	天候	風力	漁場符號	漁具使用時	漁具使用回数	表面海温度	比重測定時ノ温度	比重	潮流方向	海ノ種類	漁獲ノ水深	漁獲		物價	摘要
												箱數	種類		
1	C	2										10	13		天候恢復赤尾島へ向テ
2	B	2	5	A P 7-4	40	25.3				NNE 2	いか	きばち だちき ばちき せきかき かに	1		赤尾島東近海ニ一回操業船員急病ヲ發シ下船セシアルマメ一應那覇ニ向テ
3	B	2												賣上 40.73	那覇入港
4	B	2													那覇出帆 再ニ赤尾島へ向テ
5	B	2	6	A A 3-8	25	25.5				NNE 2	いか	ふ	1		赤尾島南東近クニテ一回操業 同島近クニ漂流
6	C	2	7	A P 4-5	65	25.4				NNE 2	いか	きばち だちき かに	7	8	同島南近海ニ延縄スニ揚網了リテ同島近クニ漂流

7	C	2	8	A 4.40- P 12.30	41	25.6				NNE 2	いか	きばち だちき かに	11	14	同島南西ニ漂流 同島近クニ漂流後東へ航走
8	B	2	9	A P 5-3	41	26.25				NE 2	いか	きばち だちき かに	1	12	同島東沖ニテ操業 餌料終了シ歸途ニシテ
9	B	3												賣上 350.82	那覇著
10	C	3													那覇港碇泊
11	C	2													那覇港碇泊 先島方面調査ニ向テ
12	C	4	10	A P 7-1	32	25.5				NE	いか	きばち だちき かに	1		宮古島南近海ニ向テ一回操業 更ニ同島南沖ニ投網成績思ハレカヲテ多良間島南ニ向テ
13	B	不定	11	A P 6-4.30	60	25.6				NNE	いか	ふ	4		多良間島南近海ニテ操業 漁事不良 那覇ニ向テ
14	C	4	12	A P 7-1	35	25.4				N 2	いか	ふ	3		
15	C	3												賣上 84.97	那覇港碇泊
16	R	4													那覇港碇泊
17	R	2													同上
18	R	2													同上 出帆準備ヲナズ
19	R	2													同上
20	B	3													那覇港出帆 赤尾島へ向テ